

小縮尺土地保全基本調査

縮尺15万分の1

土地保全図付属資料

(京都府)

国土庁土地局

— 調査機関一覧 —

企画・編集機関 国土庁土地局国土調査課
(在職期間：平成7年10月まで) 山本 昭夫
(在職期間：平成7年10月より) 大塚 文哉

調査協力機関 京都府企画環境部土地対策課
横山 洋一
西尾 訓行
坂田 康一

調査及び編集協力機関 国際航業株式会社
磯崎 義正
塚本 哲
三宅 修平
株式会社 日測
嵯峨野巳喜

目 次

第 1 章	土地保全基本調査の意義と概要	1
1	土地保全基本調査の意義	1
2	土地保全基本調査の概要（調査の流れと方法）	3
第 2 章	京都府の環境概要	7
第 3 章	京都府土地保全図各説（内容と利用方法）	11
3 - 1	自然環境条件図	11
1	気候	12
2	地形	14
3	地質	18
1)	基盤岩類	20
2)	新第三系	38
3)	第四系	43
4)	地質構造発達	52
4	土壌	61
5	海域	68
3 - 2	土地利用・植生現況図	72
1	土地利用	72
2	現存植生	75
3 - 3	災害履歴図	76
1	風水害	76
2	雪害	77
3	土砂災害	78
4	地震災害	79
5	水質保全	85
6	地下水保全	86
7	大気汚染	91
8	騒音公害等	92
3 - 4	防災・土地保全等施設図	93
1	防災施設	93
3 - 5	防災・土地保全等関係法令指定区域図	94

1	砂防指定地	94
2	地すべり防止区域	94
3	急傾斜地崩壊危険区域	94
4	保安林	94
5	海岸保全区域	95
6	宅地造成工事規制区域	95
7	臨港地区	95
8	港湾区域・港湾隣接区域	96
9	漁港区域	96
10	温泉保護地域	96
3 - 6	貴重な自然・保護すべき文化財等分布図	97
1	自然公園	97
2	歴史的な自然環境保全地域	98
3	文化財	99
4	埋蔵文化財	99
5	鳥獣保護区	100
6	風致地区	100
7	近郊緑地保全区域	101
8	貴重な植物及び動物の分布	101
3 - 7	土地利用動向図	102
1	市街地の変遷	102
2	土地利用規制等関係法令指定地	102
3	基幹的整備開発状況	103
4	交通施設整備状況	105
3 - 8	土地保全基本図・土地保全基本指針マトリックス	106
第4章	土地保全基本指針	109
	調査成果についての留意点	119
	参考資料・文献リスト	121
	資料編	131

第 1 章

第 1 章 土地保全基本調査の意義と概要

1 土地保全基本調査の意義

日本の国土は生産活動の拡大に伴い、都市地域を中心に大きく変貌し、より高い生産性を求めて高度な土地利用がなされてきている。また、近年では、国土の70%以上を占める山地、丘陵地にも開発行為の波が押し寄せ、自然の様相を変化させている。

われわれ人間は、古来から自然条件との摩擦を避けながら、土地が本来持っている特性を生かして生活の基盤を築いてきた。農業生産活動が主体であった時代には、集落は水害の危険性の少ない沖積平野の微高地に立地し、生産活動の場は水利条件の良い肥沃な一般低地が主体であった。

しかし、今日の、人口増加と過度な集中を背景とした社会需要のもとでは、土地が本来持っている特性を活かした利用だけでは追いつかず、居住地としては勿論、生産活動の場としても、必ずしも適切ではない土地の高密度利用が行われている。その結果、災害の危険又は環境質の悪化と背中合わせの生活及び生産活動を余儀なくされてきている場合が少なくない。

京都府は、8世紀末の平安建都以来1000年余り、我が国の首都として栄え、今も日本文化の中心となっている。そのため、数多くの文化財や遺跡に恵まれた地域である。また、京都府の人口は、ほとんど京都盆地周辺に集中しているため、都市化による自然環境や歴史的風土の変貌によって、文化財・遺跡に大きな影響が及んでいる。

京都市内は、平安京という計画都市として整備されたが、その他の府内は、近年、第4次京都府総合開発計画（平成2年）に基づいて、関西文化学術研究都市の建設、丹後リゾート地域整備、北近畿高次機能集積ゾーン整備構想、京都中部地域整備構想等が推進されている。

京都と災害との関わりも古く、平安京の造営のため多くの材木を必要とし、森林を荒廃させたため、多くの水害を引き起こすことになり、806年に伐木禁止令が布達された。1666年には山城、伊賀、大和などに諸国山川掟の令が公布され、比叡山の土石流古絵図や和東川の絵図は、江戸時代の災害の記録として残っている。戦前は、昭和9年の室戸台風や昭和10年の鴨川水害があり、戦後の昭和28年8月の南山城災害は甚大な被害をもたらした。その他にも昭和26年の7月災害、昭和28年9月の台風13号、昭和34年8月の8.13水害、昭和34年9月の伊勢湾台風、昭和35年8月の台風16号、昭和36年9月の第2室戸台風等多くの風水害・土砂災害が発生している。地震による被害の記録

も古くから残っているが、近年では、北丹後地震（昭和2年3月）、南海地震（昭和21年12月）の被害が大きい。平成7年の阪神・淡路大震災の教訓から、最近、地震災害の対する防災計画も見直されている。

こうした人間の生産活動による、災害の発生や自然環境の悪化が見られる一方で、災害施策の充実、土木・建設技術や農業技術の向上等によって、災害が減少してきているのも事実である。河川流路の固定化、砂防施設による土砂のコントロール、地域防災計画の実施、地下水揚水規制による地盤沈下の防止などのほか、農業面では、過去においてしばしば干害や冷害に見舞われていた地域でも、かんがい排水設備の充実、土地改良、作物の品種改良によって、農業災害が減少しているなどの例を挙げることができ、同じようなことは、水質汚濁などの公害についても言うことが出来る、近年、行政的に、水質汚濁等の進行を抑える努力が全国的に行われ、その効果も次第に見えるようになってきた。

開発の進行や土地利用の変化に伴った、災害形態の多様化、水質の悪化、自然環境資源の破壊などの諸問題が顕在化しているなかで、国土を総合的に保全し適正な利用を図ってゆくためには、土地の利用について、風水害、地震災害などの各種災害類型や、水源涵養、地下水涵養などの保全類型ごとにその可能性と制約性を検討する必要がある。

また、一旦災害が発生した場合における、文化的、学術的資産などの損失についても、今後は重要な問題となろう。土地にはそれぞれ歴史があり、その上ではくくまれた自然や社会的遺産がある。これらの、貴重な動植物、景観、史跡、積極的な保護が必要な自然地域などの、文化的、学術的遺産については、人為的な破壊や自然災害からこれを守り、その社会的損失を防止してゆく必要がある。

土地保全基本調査は、国土の保全を図るうえで最も基本的事項である自然環境の側面から、自然災害や公害の履歴が土地利用の変遷などどのような関係にあるのかを検討し、どのような土地利用が土地の持つ特性と調和し適切であるか、また、土地利用を行うに際してどのような点に注意し、どのような対策が必要であるかをあらかじめ考えて、それらの結果を、優れた生活環境の確保と国土の適正かつ計画的利用を図るための基礎資料として整備することを目的としている。

京都府土地保全基本調査の成果は、縮尺15万分の1の下記①～⑧の図と、この薄冊にまとめられている。

①自然環境条件図

②土地利用・植生等現況図

- ③ 災害履歴図
- ④ 防災・土地保全等施設図
- ⑤ 防災関係法令指定図
- ⑥ 貴重な自然及び保護すべき文化財分布図
- ⑦ 土地利用動向図
- ⑧ 土地保全基本図及び土地保全基本指針マトリックス

災害発生予測など災害類型ごとの詳細な検討や、社会・経済的条件については、別の調査及び実際の土地利用計画における個々のケーススタディーに委ねるところであるが、本成果が、それらの調査計画に対して、ささやかでも助言の役割を演じられれば幸いである。

2 土地保全基本調査の概要（調査の流れと方法）

京都府土地保全基本調査では、縮尺5分の1の土地分類基本調査（京都府、国土庁）の成果をもとに、それに新たな資料を加えて、土地環境をめぐる基本情報図（縮尺15万分の1）として整備した。さらに、これらの基本情報の重ね合わせ等によって、土地の利用・保全に関する分級評価を行い、最終成果として、「土地保全基本図及び土地保全基本指針マトリックス」を作成した。

以下、各段階ごとに調査内容の概要を示す（図1-2-2を参照）。

1) 調査地域の設定 (STEP.AA~STEP.A)

調査対象地域としての京都府が、近畿地方と中部地方の広域圏の中で、自然環境条件と社会環境条件の両側面から、どのように位置づけられているかを大観した。

広域圏は、自然環境だけでなく、社会・経済的側面でも密接な関係をもっている。調査は、この範囲を対象とするのが望ましいが、行政組織、既存資料の整備状況などの背景から、主要調査対象地域を京都府に限定した。

ただし、調査をすすめる過程で、随時、隣接他県の情報収集にも努めた。

2) 基本情報の収集・整理・編集 (STEP.B)

収集した基本情報は、その情報内容と種類に応じて分類・整理し、下記の7種類の地図情報（基本情報図）に編集した。

- ① 自然環境条件図
- ② 土地利用・植生等現況図
- ③ 災害履歴図
- ④ 防災・土地保全等施設図

- ⑤ 防災関係法令指定図
- ⑥ 貴重な自然及び保護すべき文化財分布図
- ⑦ 土地利用動向図

地図情報には、各種の統計や他の地図資料との比較・調整・接合等を行う時の便を考慮して、約1km²の大きさの標準メッシュをかけてある。

15万分の1の縮尺では表示が困難な情報や、それぞれの基本情報図を補完するうえで必要な情報については、各図隔に、適当な縮尺で案内図などを掲載した。

「自然環境条件図」と「土地利用・植生等現況図」については、縮尺5万分の1土地分類基本調査の成果図並びに京都府現存植生図などをもとに編集したが、可能な限り、最新の情報（国土地理院発行の縮尺2万5千分の1地形図など）により情報の更新に努めた。

収集した原資料を転記する際、各情報相互間に矛盾があったり、隣接図面の整合に問題がある場合は、現地踏査を実施し補完するように努めた。

3) 属性による土地区分(STEP.C)

STEP.Bにおける基本情報図をもとに、共通の属性を有すると判断される地域ごとに土地区分を行い、土地保全基本図を作成した。作業の手順は、図1-2-1に示すとおりである。

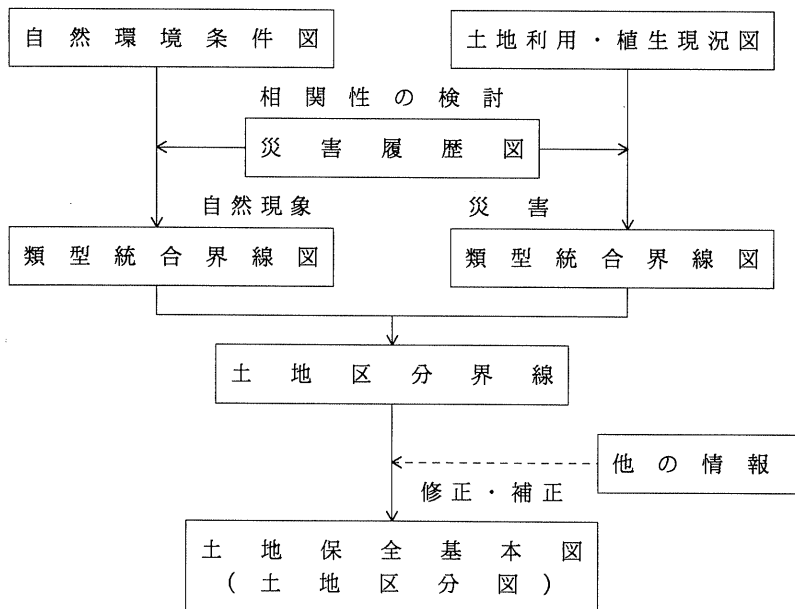


図1-2-1 土地区分の設定手順

まず、自然環境条件図及び土地利用・植生現況図の界線区分のうち、これまでの災害履歴（災害履歴図との重ね合わせ）の上から、共通性を有すると判断されるものを統合して、それぞれに類型統合界線図を作成した。次に、これら（自然環境条件図からと、土地利用・植生現況図からの類型統合界線図）を重ね合わせて、土地区分界線図を作成した。この土地区分界線図は、さらに、STEP.Bにおけるその他の基本情報図と重ね合わせて補正・修正を行い、最終的な土地区分図（土地保全基本図）とした。

4) 土地保全基本指針の作成(STEP.D~F)

京都府の自然環境条件が、土地利用するに当たって潜在的に持っていると考えられる可能性と制約性を、土地利用項目ごとに検討した。その結果は、土地利用を図るうえでの基本的配慮事項及び制約条件と、それを克服するための対応策（例）として、STEP.Cで設定した土地区分ごとに「土地保全基本指針マトリックス」にまとめた（⑧図に掲載）

5) 最適土地利用のための土地保全基本指針(STEP.G)

本調査の最終成果である⑧「土地保全基本図及び土地保全基本指針マトリックス」における評価結果から、土地の保全と適正な利用を図る上での基本的な問題点や留意点を整理した。

第 2 章

第 2 章 京都府の環境概要

京都府は、近畿地方の中央北寄りに位置し、北は日本海に面し、東は福井・滋賀・三重・、南は奈良・大阪、西は兵庫の各府県に接している。

表 2 - 1 京都府の概要（統計資料から）

項 目	数 字	全国比	順 位
面 積 (1987)	4,612.94km ²	1.2%	31位
人 口 (1988)	2,541,396人	2.1%	13位
人口密度 (1988)	511人/km ²	325人/km ² (全国平均)	9位
1人あたり府民所得 (1985)	202.3万円	199.9万円 (全国平均)	6位
工業製品出荷額 (1987)	51,590億円	2.0%	16位
農業生産額 (1987)	791億円	0.7%	43位

（「国勢調査」「工業統計」「生産農業所得」などから作成）

表 2 - 1 の統計資料からもわかるように、京都府は、面積の割に人口が多く、人口密度は全国で 9 番目で、その多くは京都市を中心とする南部の平地部に集中している。この部分は交通網も発達し、京阪神都市圏に含まれるため人口の急増地となっている。

京都府の中央部は、1000m以下の山々が連なる丹波山地で占められ、平地は南部の京都盆地のほか、丹波山地の南に亀岡盆地、北に福知山盆地などの小規模な平地が開けているのみである。

日本海に面した北部は、海岸線の出入りが多いいわゆるリアス式海岸で、若狭湾の奥に位置する舞鶴港などの良港を抱えている。若狭湾の西には日本海に突きだした丹後半島がある。

一方、丹波山地から南へ流れる桂川は、亀岡盆地から保津峠を経て京都盆地に入り、盆地の南部で鴨川・宇治川・木津川と合流して淀川となって大阪湾へ注ぐ。これらの河川で潤されている府の南部地域は、京都盆地を中心とする低平地で、京都府の人口は殆どこの部分に集中している。

気候は、南部は夏に雨の多い太平洋型の気候であるが、夏と冬の気温差が大きく、降水量も全般に少ない内陸性気候の特色を示している。北部は、冬に降水量の多い日本海型気候で、積雪量も多くなっている。

古来、京都府の北部は丹後、中部は丹波、そして南部は山城国といわれ、8世紀末から1000年余り日本の首都として栄えた京都は、今も日本文化の中心地となっている。

京都府を地形の特徴と人口や産業の分布との関係から、図2-1のように北部・中央部・南部の3つの地域に分けることができる（この区分は後述する地形区分とは必ずしも一致しない）。



図2-1 京都府の地域区分

府の北部：日本海に面した府の北部は、舞鶴市と宮津市を中心とした海岸の低地部とその背後の丹後山地及び丹後半島地域に分けることができる。

舞鶴低地は、舞鶴湾の深い湾入の奥に形成された低地で、そこに発達した舞鶴市は天然の軍港として発展を遂げた。第二次大戦後は、平和な港湾工業都市として再起を図っている。

宮津低地は南北方向の構造線に支配された谷で、標高500m程度に山地を切り開いた古い谷を沖積層が埋積している。宮津市は白砂青松の天の橋立や成相寺の景勝地があり、観光地となっている。海岸低地の背後の丹波山地は、舞鶴帯の中・古生層からなる山地で、耕地も狭い。

宮津低地から北の丹後山地は花崗岩の分布地帯で、比較的丸みを帯びた山容を呈する山地から成っているが、丹後半島部は第三系とそれを貫く火山岩類が分布し、特に火山岩類は海岸部では急峻な地形と奇岩絶壁をなし、景勝地となっている。第三系の堆積岩の分布地には京都府下ではあまり見られない「地すべり地」がみられ、「地すべり等防止区域」の指定地も多い。丹後山地は耕地も少なく、二毛作の出来ないところも多いため、稲作のほかに桃や梨等の果樹をつくって主に京阪神地方へ出荷している。また、峰山町や加悦町は丹後縮緬の産地として知られている。

府の中央部：

北部から南の京都盆地までの京都府の中央部を占める「丹波山地」は、西方の中国山地からのびてくる山地で、中・古生層の基盤岩類が直接地表に顔を出し、複雑な地質構造に支配された地形を示している。

丹波山地の地質は、北側の”舞鶴帯”と見に接する”丹波帯”から成る。ともに中・古生界の地層から成るが、”舞鶴帯”はペルム～三疊紀を通じて大陸周辺の陸棚か島弧であり、”丹波帯”はその後の付加帯と考えられている。

丹波山地の北部舞鶴の南部と福知山を結ぶ地域は、”舞福山地”と呼ばれ、地質的には”舞鶴帯”の分布域と一致する。舞鶴帯は「舞鶴層群」「夜久野岩類」などのペルム～三疊紀の地層から成っている。由良川水系が発達し、河岸段丘や谷底平野を形成し、福知山盆地がある。

舞福山地の南側の丹波山地は、東側の”若丹山地”と西側の”摂丹山地”に分かれる。

若丹山地は全体として東高西低の傾動地塊をなして、由良川や桂川が西流しているのはそのためと考えられている。若丹山地には低地は少なく、わずかに由良川上流の河谷と周山盆地が発達するにすぎない。

摂丹山地は、若丹山地に比べて一段と低く標高400～500mで、小起伏面が発達している。北に由良川流域が広がり、南に桂川流域が広がり亀岡盆地・河谷盆地・須地盆地などの断層角盆地が広がり、段丘堆積層も見られる。

丹波山地の間に開けた盆地や谷底平野では、水田が開けている。福知山盆地では桑の栽培が行われ養蚕も盛んであった。しかし、化学繊維の普及と生糸の需要減などで桑園は減少している。丹波山地は古くから牛の飼育が盛んで、福知山市はその集散地である。近年農業機械の発達や飼育技術の向上で和牛や乳牛の飼育規模が大型化してきている。

府の南部：

府の南部は京都盆地とその周辺山地とからなる。京都盆地はさらに南にのびて、木津川河谷へと続いて低地を形成している。

京都盆地周辺山地の地質は、大部分が丹波山地の地質と同様の丹波帯に属する中・古生層である。南端部の木津川沿いは、領家帯に属する花崗岩や変成岩の地帯となる。花崗岩地域は表層風化が激しくマサ化が進んでいるため、土砂災害を起こしやすい地盤を形成している。

京都盆地及びその周辺には第四紀の地層が広く分布している。鮮新～更新世の地層である大阪層群は主に丘陵地を形成し、中・上部更新世の地層は盆地周辺の段丘を形成して分布している。完新世の沖積層は盆地の表面を覆い、現河川沿いに分布している。

第四紀の地層は、未固結のルーズな砂礫層を主とすることが多く、それらの厚層が分布する地域（例えば木津川下流右岸台地－城陽市－）では斜面の崩壊が目立っている。

沖積層は、一般に砂礫質の地層からなるが、巨椋池を中心とした部分には厚さ10mにも達する軟弱粘土層があり、軟弱地盤を形成している。

京都府の南部にある百万都市京都市は、行政・文化・産業の中心地として栄えてきた。現在この地域には京都市を中心に府の人口の約80%が集まり、第二次・第三次産業も集中して京阪神都市圏の一部として過密化が進んでいる。

第 3 章

第 3 章 京都府土地保全図各説（内容と利用方法）

本調査は、府土の開発及び保全並びに利用の高度化に資することを目的として、府土の利用適正と保全に資する諸情報を総合的に調査し、その成果を、縮尺 15 万分の 1 に統一した 7 枚の地図情報と本付属資料にまとめている。

本章では、これらの地図情報ごとにその内容、利用方法等について解説を加えているので、本図と併用して利用されたい。

3 - 1 自然環境条件図

この図は、府土を構成する、地形・地質・土壌の土地環境 3 要素を中心として、自然環境条件の概要を総括的に編集したもので、府土の適正な利用と保全のあり方を自然的土地条件から検討する際の最も基礎的な情報となるものである。

たとえば、本図の情報を、地すべり・崩壊・土石流・洪水など、過去に発生した災害や自然現象の地理的広がり（災害履歴図）と比較検討することによって、どのような地形・地質条件を持つところで、どのような自然現象が生じたか、また今後、どのような地域で同様な現象が生じ易いかなど、多様な相関性を判読することができる。それらの相関性を把握した後、現況土地利用が、ある種の自然現象を生じ易い地域に立地していないか、また、将来計画として、そのような脆弱地域に土地利用を誘導しようとしていないかなどを検討したり、さらに、今後、土地保全施策をどのように図って行くべきかなどを検討することができるであろう。

1 気候

わが国の平均的気候は、年降水量約1500mm、年日照時間約1720時間（参照値）、年平均気温約14℃程度とされている。日本列島のほぼ中央に位置する京都府は、以上のようなわが国の気候の標準的な地域といえ、京都での平均値は年降水量1581mm、年日照時間1708時間（参照値）、年平均気温は15.3℃である。

京都府の気候は、大阪湾に注ぐ淀川水系と日本海に注ぐ由良川水系の分水嶺に沿って、南部と北部に大別される。南部は太平洋側（瀬戸内型）の、北部は日本海側の気候特性を示す。北部でも丹後半島地域は日本海側の特性が顕著で、福知山盆地から丹後山地一帯は内陸性（盆地性、山岳性）の、舞鶴湾・宮津湾付近一帯は両者の中間の気候である。南部では亀岡盆地、京都盆地から南山城の山間部にかけては内陸性の気候である。京都市の市街地では平均気温の上昇など、都市気候化の傾向がうかがわれる。

表 3 - 1 - 1 京都府各地の月降水量 (mm)

京都地方気象台

地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
田 辺	47.0	69.6	119.6	121.6	148.1	212.1	193.3	123.9	192.3	60.5	76.8	32.5	1434.2
京 都	50.4	65.8	110.6	151.8	153.7	247.6	234.6	142.8	202.6	112.0	69.5	39.8	1581.1
園 部	48.2	73.3	129.9	130.1	185.0	230.3	210.1	115.8	197.8	93.1	76.8	38.7	1529.0
福知山	75.3	99.0	123.0	115.3	154.4	196.3	202.0	125.4	199.9	110.8	82.8	64.8	1512.5
舞 鶴	129.7	125.1	121.1	114.0	128.5	184.3	169.3	153.3	224.1	130.7	138.6	107.0	1726.1
峰山丹波	197.3	148.9	120.9	104.3	127.9	139.3	158.6	123.3	217.5	155.7	160.9	163.3	1835.6

統計期間：京都1961～1990、舞鶴1975～1990、田辺・園部・福知山・峰山丹波1979～1990

表 3 - 1 - 2 京都・舞鶴の月別平均値

京都地方気象台

要素(単位)	地点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
平均気温 (℃)	京都	4.0	4.5	7.6	13.9	18.7	22.4	26.5	27.7	23.4	17.1	11.5	6.5	15.3
	舞鶴	3.0	3.4	6.5	12.3	17.0	21.3	25.4	26.3	22.2	16.0	10.8	5.8	14.2
湿 度 (℃)	京都	68	68	64	63	64	69	72	69	71	70	70	70	68
	舞鶴	79	78	74	71	72	77	78	77	80	79	79	79	77
日照時間(時間) (参照値)	京都	122.1	110.6	147.5	161.7	183.5	130.5	140.5	174.2	128.1	149.0	133.0	127.4	1708.0
	舞鶴	77.3	75.2	117.4	166.4	187.3	144.2	164.9	192.6	126.2	130.8	92.8	87.0	1561.5
平均風速 (m/S)	京都	1.4	1.6	1.7	1.8	1.8	1.7	1.7	1.8	1.5	1.4	1.3	1.2	1.6
	舞鶴	2.2	2.3	2.5	2.5	2.3	2.1	1.9	2.0	2.0	2.1	2.1	2.1	2.2

統計期間：京都1961～1990「平均風速」1975～1990、舞鶴1975～1990

< 雷（特殊気候） >

梅雨期から9月にかけては、大気が不安定になりやすく、雷の発生が多い。

梅雨期間中の雷は主として梅雨前線の活動によるもので、梅雨後の雷は日射による熱雷が主となり、地形による地域的特徴がみられる。

山城地方は雷の発生回数の多さ、その激しさともに全国有数の地域で、古文書の記録も多い。熱雷のうちでは、丹波地方で発生して南東進しながら亀岡市・京都市付近で急激に発達するものと、淀川沿いに南西気流が進入し、地形的に収束されて強い雷が南方から京都市付近に至るものが代表的である。琵琶湖方面から西進してくるものもあるが、回数は少ない。これらの雷は局地性が強いが、落雷の時には降雹の被害もあり、思いがけない局地的短時間大雨となることもある。

表 3 - 1 - 3 京都及び舞鶴の雷発生日数

	6月	7月	8月	9月	年	統計期間
京 都	1.9日	5.4日	5.3日	3.1日	19.3日	1961～1990
舞 鶴	1.7日	3.7日	3.7日	2.5日	16.6日	1975～1990

京都府地域防災計画(1994)京都府防災会議

2 地形

1) 概要

京都府は北西から南東方向に細長い（長さ約140km）形をしており、近畿地方のほぼ中心部を占めている。近畿地方は、南から「紀伊区」「近畿三角地帯」「丹波～但馬区」の大地形区に分かれる（近畿地方土木地質図編纂委員会-1981-）。京都府は、京都盆地～比良山脈を結ぶ線の南東側が「近畿三角地帯」に、その北西部は「丹波～但馬区」に属する。

京都府下の「丹波～但馬区」はさらに日本海沿いの丹後半島を作る山地とその南の丹波山地に分けられる。そして、その南側の京都盆地以南の「近畿三角地帯」は、西の瀬戸内低地帯の延長部にあたっている。

丹後半島の基盤は、中・古生層の古期岩類からなるが、第三紀の火山活動による安山岩類及び同火山砕屑岩類によって覆われている。

丹波山地は西方の中国山地からのびてくる山地で、中・古生層の基盤岩類が直接地表に分布し、複雑な地質構造に支配された地形を示している。その中を縫うように走る水系は福知山・須知等の山間盆地が発達しているが、これらは断層山盆地といわれ、構造運動に規制された盆地と考えられている。

南部の瀬戸内低地帯の延長部に相当する地域は、第四紀の構造運動（六甲変動）を受けており、南北方向の構造地形が発達している。京都盆地、その西側の西山山地や生駒山地、東側の醍醐山地・信楽山地・笠置山地などがそれである。

京都府下の主な水系は、丹波山地北斜面の由良川水系、南斜面の桂川水系、南部の信楽山地などに広がる木津川水系に大別される。丹後半島には竹野川などの小河川が発達する。

由良川水系では狭いが河岸段丘がよく発達する。しかし、桂川水系では河岸段丘の発達が悪い（特に中位段丘の発達を欠く）。これは両水系の発達する地域地盤の地盤運動の形式や速度の違いによると考えられている。すなわち、由良川水系の流域の構造運動は、とう曲型でゆっくり変位したのに対し、桂川水系は地塊運動の型で、急速に大きな変位をしたためと考えられている（水山ら-1976-）。

2) 地形区分

京都府の地形は水山ら（1978）によって、表3-1-4のような地形区に区分されている。それによると、北から丹後半島・舞福山地・若丹山地・摂丹山地・京都盆地周辺地・木津川河谷周辺山地の六つの地形区に大別され、さらにその中で細分されている。水山ら（1978）に従って、その概要を以下に述べる。

丹後半島：南北方向にのびる峰山盆地を挟んで東側を丹後半島東部山地、西側を丹後半島西部山地と呼んでいる。この地形区は、第三紀安山岩活動を伴うグリンタフ変動を受けている地域である。

舞福山地：舞鶴と福知山を含む地域で、地質の”舞鶴帯”と一致する。北東から南西方向にのびる由良川河谷を挟んで東側を由良川下流東岸山地、西側を由良川下流西岸山地と呼んでいる。由良川下流東岸山地は、中・古生層の分布地域で、盆地や低地がやや発達し全体として低い。由良川下流西岸山地は、大江山山地の隆起地塊を含む地域で、東岸に比較して一段と高くなっている。

若丹山地：JR山陰線の通る亀岡盆地、由良川河谷を結ぶ線を境にして東側の丹波山地を若丹山地と呼び、その西側を摂丹山地と呼ぶ。若丹山地は、全体として東高西低の傾動地塊をなしていて、由良川や桂川が西流しているのは地表の一般傾斜に対して必従河流の関係にある。東西方向の隆起軸と沈降軸があって、由良川は隆起軸と一致し、桂川は沈降軸と一致する。従って、由良川の河谷は深く段丘地形が発達するのに対して、桂川の河谷は開けて、段丘地形を殆ど欠いている。若丹山地は、さらに表3-1-4の様に地形区分される。

摂丹山地：この山地は若丹山地に比べて一段と低く、標高400~500mで、小起伏面が発達している。北の由良川流域と南の桂川流域とに分けられる。これらの河谷沿いに亀岡盆地、河谷盆地（本梅川）、須知盆地など規模の大きい断層角盆地が広がり、段丘堆積層もみられる。摂丹山地をさらに細かく地形区分すると表3-1-4の如くなる。

京都盆地周辺地：京都盆地はその中央部を東から西へ流れる宇治川を境にして、北側が大きく開いていて地溝をなしている。この地溝を挟んで東西両側に摂丹山地に類似した山地が広がっている。この地域を京都周辺地と呼ぶ。この地域の内、京都盆地と盆地の東側の山地とを含めて京都盆地東縁山地と呼び、その西側を京都盆地西縁山地と呼ぶこととする。これらの地形区はさらに表3-1-4の様に、山地や盆地に細分される。

木津川河谷周辺山地：宇治川の南側は京都盆地の南半部に当たるが、木津川河谷の性質を帯び、東西の幅が狭くなっている。この河谷の両側には大阪層群からなる丘陵や古生層・花崗岩からなる山地が広がる。この地域を木津川河谷周辺山地と呼ぶ。この地域はさらに、表3-1-4に示すように東部山地・南岸山地・西岸山地に分かれ、さらに多くの丘陵・山地に分けることが出来る。

表 3 - 1 - 4 京都府の地形区分

大 区 分	中 区 分	小 区 分	
		山 地	低 地
丹後半島	丹後半島東部山地	太鼓山山地、伊根山地 弥栄山地、五十河山地	網野山地、間人低地 峰山盆地
	丹後半島西部山地	比治山峠山地 高倉寺山地	久美浜低地
舞福山地	由良川下流西岸山地	大江山山地、三岳山山地 西方寺平山地、天ヶ峰山地 居母山山地、加悦山地	由良川下流河谷、牧川河谷 野田川河谷、宮津低地
	由良川下流東岸山地 (舞鶴帯山地)	三浜峠山地、黒谷山地 君尾山山地、鬼が城山地 金ヶ崎山地、烏帽子山山地 穴裏峠山地	福知山盆地、神林川河谷 舞鶴低地
若丹山地	由良川上流北岸山地	和知山地、長老ヶ峠山地 頭巾山山地、八ヶ峰山地 三国島山地	由良川上流河谷
	桂川上流北岸山地	久多山地、佐々里峠山地 深見峠山地、海老坂山地 日吉山地、比叡賀江山	周山盆地
	桂川上流南岸山地	北山山地、比叡山山地 深見峠山地、海老坂山地 日吉山地、比賀江山	
摂丹山地	土師川流域周縁山地	三和山地、三峠山地 観音峠山地、櫃ヶ岳山地 兜山山地	須知盆地
	亀岡盆地西縁山地	鴻応山山地、明神ヶ岳山地 唐櫃越山地、行者山山地 半国山山地	亀岡盆地、園部盆地 本梅川河谷
京都盆地周辺地	京都盆地東縁山地	比叡平山地、東山山地 醍醐山地、桃山丘陵	京都盆地、山科盆地
	京都盆地西縁山地	西山山地、西山丘陵	
木津川河谷周辺 山地	木津川東岸山地	鷲峰山山地、童仙坊山地 宇治丘陵	木津川河谷、和束川河谷
	木津川南岸山地	月ヶ瀬丘陵、高尾丘陵 加茂丘陵	
	木津川西岸山地	甘南備山丘陵	

「土地分類図付属資料(1976)国土庁土地局」を一部名称変更



京都府の地形区分

3 地質

京都府の大部分の地域は、古生代から古第三紀にかけての基盤岩類が直接地表に露出している。あとは、北端の丹後半島の一部に第三紀中新統の地層が僅かに分布し、盆地や河谷沿いにもっとも新しい第四紀層が分布するのみである。

近畿地方の基盤岩類は、ほぼ東西にのびる帯状分布をしている。それらは、北から南へ「丹後～但馬帯」・「舞鶴帯」・「丹波帯」・「領家帯」・「和泉帯」・「三波川帯」・「秩父累帯」・「四万十累帯」に分けられている（表一）。これらの内、京都府下に分布するものは、北半部の「丹後～但馬帯」・「舞鶴帯」・「丹波帯」・「領家帯」のみである。

丹後～但馬帯 中国地方の三群一中国帯からの連続である。三郡帯は古生界の変成相とされる三郡変成岩からなるが、京都府下ではその分布はごく限られている。すなわち、三郡帯の分布域である丹後半島や丹後山地は、後期白亜紀～新第三紀の火山岩や堆積岩に広く覆われており、わずかに丹後山地の大江山を形成する超塩基性岩体が、三郡帯のものと考えられている。

舞鶴帯 京都府の北西部、舞鶴市～夜久野町にかけた幅約10数キロメートルの地帯を言う。後述する夜久野岩類・舞鶴層群（中～上部ペルム系）・夜久野層群（中～下部三疊系）・荒倉層、難波江層群（上部三疊系）等の地層群からなり、東北東～西南西方向に帯状に延びている。一般的な構造は、舞鶴層群と夜久野層群が複向斜構造を作り、その中に三疊系が断層で挟み込まれている。

丹波帯 京都府下の福知山～綾部を結ぶ線以南の地域がすべて丹波帯に属する。丹波帯を構成する岩体は、石炭～ジュラ紀の遠洋性岩類及び陸原碎屑岩類である。これらの地層群は地層の組み合わせから、後に詳述するような二つの地層群に分けられ、ほぼ水平な断層で重なっている。これらの地層群は、ほぼ東西方向の軸を持つ向斜・背斜を繰り返していると考えられてきた。しかしながら、最近の研究では、単なる向斜・背斜ではなく、層位関係の不明なシンプォーム・アンチフォームと考えられ、ジュラ紀末から白亜紀はじめの構造運動によって形成されたと考えられている。

なお、丹波帯の北西縁には、舞鶴帯との間に挟まれた細長い地帯に特殊な岩層を示すペルム系が分布している。これは超丹波帯として丹波帯から区別されている。

領家帯 は各種の花崗岩と変成岩とからなり、近畿地方の中部を約50km幅で東西に横断している。京都府下に分布する領家帯は、その北縁部に当たり、京都府南部の木津川沿いの笠置町周辺に分布する。

表 3 - 1 - 5 近畿地方の地質構造区分(清水-1987-を簡略化)

松 下(1953)		本 書(1987)	
内 帯	丹後-但馬 地帯	丹後- 但馬帯	山陰帯
	舞鶴地帯	舞鶴帯	
	丹波地帯	丹波帯	山陽帯
	領家地帯	領 家 帯	
中 央 帯	和泉帯	白亜紀 古第三紀 火成岩類	
—中央構造線—			
外 帯	長瀬地帯	三波川帯	
	秩父地帯	秩父累帯	
	日高川地帯	四 方 日高川帯	
	牟婁地帯	十 音無川帯	牟婁帯

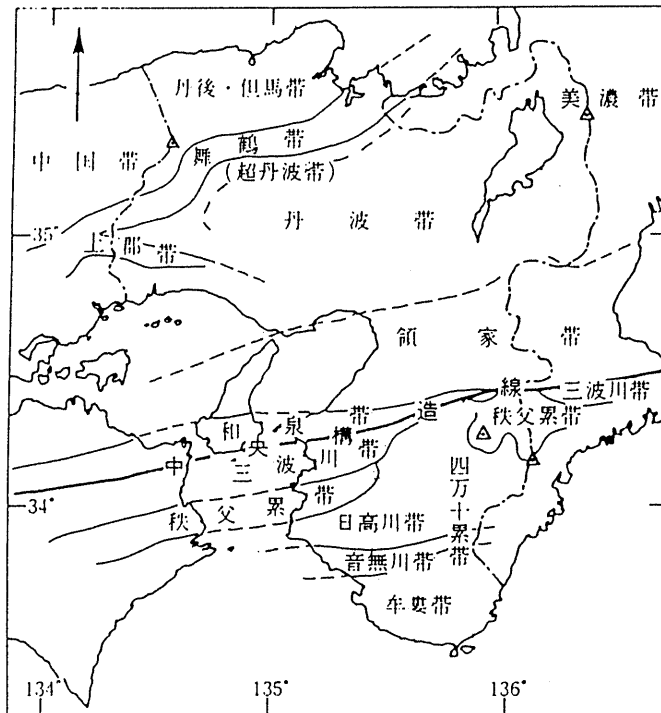


図 3 - 1 - 1 近畿地方の新第三期以前の地質構造区分(清水-1987-)

1) 基盤岩類

京都府の地質は前述したように、その大部分が古第三系以前の基盤岩類で占められており、それらの基盤岩類を覆って丹後半島には新第三系が、内陸の盆地や河谷沿いには第四系が分布しているに過ぎない。従って、京都府の表層地質は、平野部と丹後半島の一部を除くと、基盤岩類の性状を強く反映しているといえる。

以下、京都府下の各地質構造帯毎に説明するが、丹後一但馬帯については主として清水大吉郎(1987)によって、舞鶴帯については、主として清水大吉郎(1987)・中沢圭二(1987)・黒川・清水(1987)などによって、丹波帯については、主として清水大吉郎(1987)・安養寺・本田・石賀・田辺(1987)・田辺・井本・丹波帯研究グループ(1987)などによって、そして領家帯については、沓掛俊夫(1987)によって記述した。

(1) 丹後一但馬帯

京都府下に分布する丹後一但馬帯に属する岩相は、舞鶴帯のすぐ北に接して分布する丹波山地の大江山を構成する岩体である。

大江山岩体は、黒川・清水(1986)によって、次のように報告されている。

大江山岩体は、ダンかんらん岩・斜方輝石かんらん岩及び単斜輝石岩からなるが、単斜輝石かんらん岩・変斑糲岩・優白岩等のテクトニックブロックもあり、さらにダンかんらん岩中には斑糲岩や輝緑岩の岩脈が貫入している。以上のことから、これらの超塩基性岩体は、オフィオライト的な構成を持っていたと考えられている(kurokawa-1985-)。また岩体北縁には緑簾石角閃岩相の変成作用を受けた角閃岩があり、らん晶石や十字石が見いだされている。このような変成作用は、三郡変成作用とは異なり、西日本内帯の別のより古い変成作用、たとえば飛騨の宇奈月帯のような変成作用に類似している。

(2) 舞鶴帯

舞鶴帯は、福井県の西端から京都府北部を経て中国地方まで続く細長い地帯で、中上部ペルム系の”舞鶴層群”、下部～中部三畳系の”夜久野岩類”と難波江層群などの”上部三畳系”の地層からなっている。

舞鶴帯の全体の構造は、夜久野層群の分布域を中心とする複向斜構造と考えられている。また、舞鶴帯に属する地層群の層序関係は、清水(1986)によって図(1)-2の様に纏められている。舞鶴層群下部層が海底火山堆積物である緑色岩類であるほかは、すべて陸源の碎屑性堆積岩からなる地層であることが特徴である。各層とも石灰岩は少なく、チャートはない。

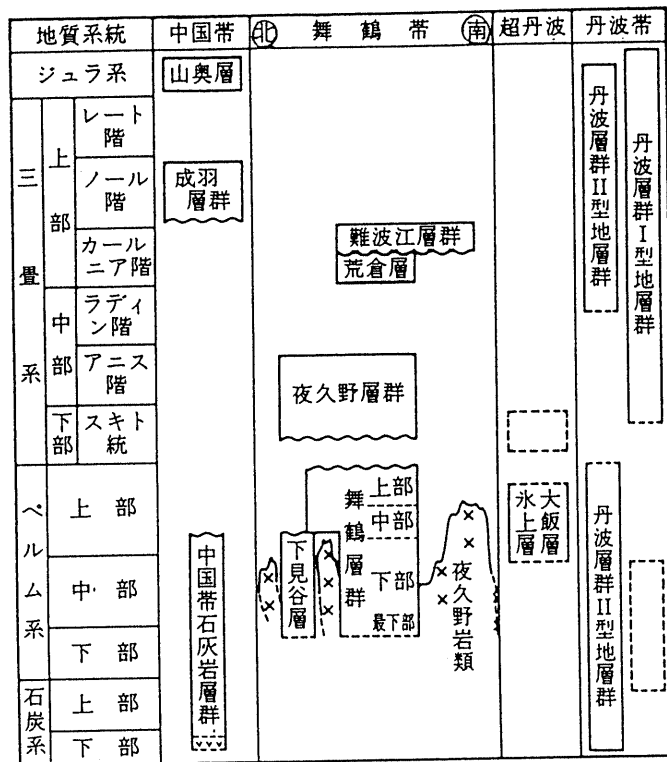


図 3 - 1 - 2 舞鶴帯およびその周辺の古生界・三疊系・ジュラ系 (清水-1987-)

一方、後述する丹波帯の地層は、チャート・粘板岩および緑色岩類を主体として極めて対照的である。また、舞鶴帯と丹波帯の境界は、断層で接していることが多いが、本来は不整合であると考えられている（清水-1986-）。この関係から舞鶴帯は、ペルム～三畳紀を通じて大陸周辺の陸棚か島弧であり、異地性岩体に富む丹波帯は、その後の付加帯と考えられる。

a. 舞鶴層群

舞鶴市付近に分布する主として粘板岩・砂岩・礫岩の互層からなり、石灰岩レンズを伴う古生層である。清水大吉郎(1986)によって図3-1-3に示すように、最下部層・下部層・中部層・上部層に区分されている。清水(1986)によって各層の特徴を述べれば次の如くである。

最下部層：千枚岩化した泥質岩を主とし、チャート・塩基性凝灰岩およびまれに砂岩を挟む。一般に片状で、層理片理面・へき開面および線構造が観察される。地域によっては低変成度の結晶片岩も見られる。最下部層は舞鶴層群の背斜軸部に露出しており、緑色凝灰岩層のはさみが上位に多くなり、下部層に整合的に移る。明延鉱山南西方の赤金谷のボーリングでは最下部層の厚さは、200mまで確かめられている。化石は発見されていない。

下部層：玄武岩溶岩と塩基性凝灰岩を主とし、黒色粘板岩を挟む。粘板岩は砂岩の薄層を伴うことがあり、まれに石灰岩の小岩体が凝灰岩層中に見られる。チャート層は見られず、玄武岩溶岩には枕状構造が観察されることがある。また凝灰岩にはキースラーガー型鉱床が含まれることがある。

下部層の上部は次第に凝灰岩と粘板岩層との互層になり、上限付近では凝灰岩層中に泥質岩や凝灰角礫岩・酸性凝灰岩などの円礫～亜円礫を含むことがある。下部層には輝緑岩や斑れい岩などを伴うことが多く、夜久野岩類をオフィオライトとみると、この下部層はオフィオライト層序の上部の玄武岩層となる。下部層の化石としては、舞鶴南方の凝灰岩の中から珊瑚化石が発見されているが、ペルム系のどの層準であるかは分かっていない。

中部層：黒色粘板岩・砂岩・礫岩の互層を主とする。粘板岩・砂岩互層の中にはタービダイト相が多く見られる。舞鶴層群分布域の中央部および北西側では、中部層には粗粒の碎屑岩が多く、石灰岩は見られない。砂岩は典型的なグレイワックで、砂岩・泥岩の互層にはタービダイトが見られることが多い。中部層の層厚は、複向斜の南翼で約600m、北翼で700～800mである。

中部層には、石灰岩細礫や石灰岩の小レンズが挟まれることが多く、それらにはフズリナ化石群(*Lepidolina kumaensis*)や腕足類・巻き貝の化石を含み、これらの化石はペルム紀新生の前半を示すとされている。

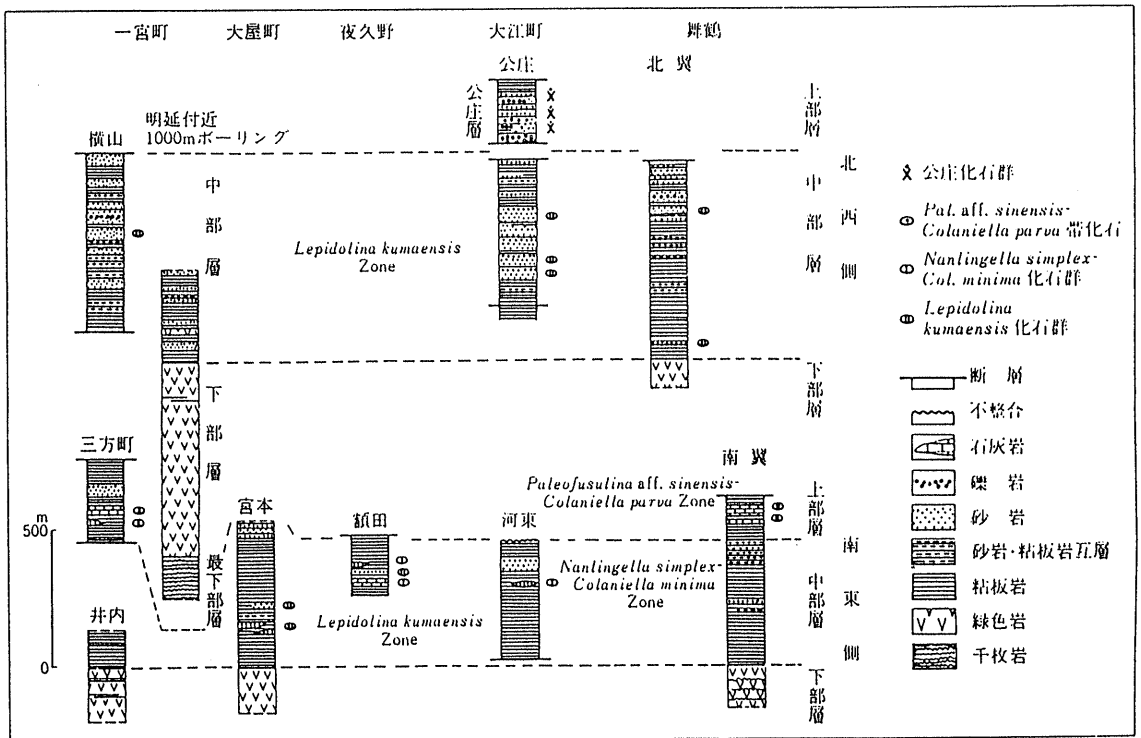


図 3 - 1 - 3 舞鶴層群の柱状図 (清水 -1987-)

上部層：複向斜の南翼と北翼に、夜久野層群を挟んで分布する。南翼の上部層は、黒色粘板岩を主とし、砂岩層をはさみ、またレンズ状の暗灰色の泥質石灰岩を含む。これらの石灰質岩からはフズリナ・小型有孔虫・貝類の化石を含み、ペルム紀新生の後期のものとされている。層厚は約150mである。北翼の上部層は、大江町公庄にのみ分布し、公庄層とよばれる。礫岩・砂岩・頁岩の細互層で、岩相変化が著しい。石灰質の頁岩には多くの貝化石が含まれ、それらはペルム系上部のものとされている。層厚は約200mである。

舞鶴層群の中～上部層は、全体として北西側に粗粒碎屑岩が多く層厚も大であるが、南東側には泥質岩と石灰岩が多い。このことから、舞鶴層群の堆積の場の北西方には隆起する陸地があり、大量の碎屑物を供給し、南東側は次第に陸棚の海となり、その先に丹波帯の深い海があったと考えられている。

b. 夜久野層群

舞鶴帯のうち下～中部三疊系に属する地層群を”夜久野層群”といている。京都府夜久野町周辺に分布するものを摸式地としている。京都府下では大江町の河東・川西地域および天田郡夜久野町に主として分布し、舞鶴市東部にもごくわずかな分布をみる。また、舞鶴市志高の志高層群もほぼ同じ年代の地層群と推定されている。

夜久野層群は各地域とも粗粒相からなる下半部と細粒岩を主とする上半部に分けられる。

これらの岩相について清水(1986)によって以下に記述する。

下半部の岩相は、地域的变化が大きく、更に粗粒相・中粒相・細粒相に分けられる。粗粒相は粗～細粒の砂岩を主とし礫岩も多い。夜久野町北部では特に礫岩が多く層厚は500m～600mに達する。中粒相は舞鶴帯の中央部に分布し、礫岩がほとんどなく、主に頁岩を挟む細・中粒の砂岩である。まれに魚卵状の石灰岩レンズ状岩体を伴っている。層厚約500m。細粒相は、舞鶴帯の南縁部に分布し、大部分が泥質～シルト質頁岩であり、細～中粒の砂岩を伴い、まれに石灰岩レンズを挟む。層厚は200m～400m。

上半部は、泥質岩を主とし時に細粒の砂岩層を挟む。二枚貝・巻き貝の化石が多く産出し、そのアンモナイト化石から、その時代は三疊紀中世の前期～後期と推定されている。

夜久野層群と舞鶴層群との関係は、一般に不整合関係とされているが、京都府下大江町河東地域でも、舞鶴層群中部の粘板岩を夜久野層群下部の粗粒砂岩が不整合に覆っているところが見られる。

c. 荒倉層

舞鶴市の東舞鶴東部の荒倉～鹿原地域で後述する難波江層群の下位に分布する。砂質頁岩を主とする地層で、難波江層群の砂岩層に不整合に覆われる。アンモナイトや腕足類化石を含み、層厚70m以上、舞鶴層とは断層で接する。

d. 難波江層群

福井県の難波江海岸を模式地とする地層群で、京都府下では舞鶴市松尾寺～綾部市物部、夜久野町日置に分布する。模式地では下位からN1層・N2層・N3層・N4層に区分され次のような岩相からなる。

N1層：頁岩と砂岩の互層からなり、礫岩を挟む。時に薄い石炭層も挟む。層厚70m以上。

N2層：淘汰の良い淡青色の砂岩で、礫岩を含むことがある。そうこう焼く130m。

N3層：成層した黒色頁岩と砂質頁岩の互層からなり、まれに石炭層や薄い砂岩層を挟む。層厚380m。

N4層：N2層に似た細粒～中粒の砂岩層で、上限は不明、層厚360m以上。

舞鶴市松尾寺周辺の難波江層群は、舞鶴層群上部層と下部層が分布する2つの地域の間で断層に挟まれて細長く分布する。松尾寺ではN3層下部に薄い無煙炭層を挟んでいる。松尾寺から南西方では、N2層とN3層だけが分布する。夜久野町日置の牧川河床には、三疊紀新世の二枚貝化石 *Minetrigonia* や *Cardinioides* を含むことで古くから知られた砂岩と頁岩の互層があり、日置層と名づけられている。層厚は200m以下でこの地層は難波江層群の一部にあたると思われる。

e. 夜久野岩類

舞鶴帯の中央部にペルム～三疊系が分布するが、その南・北の両サイドに夜久野岩類といわれる各種の火成岩や変成岩類が分布する。

北帯の夜久野岩類：舞鶴市北部から大江町北部にかけてする。圧碎花崗岩を主とし捕獲岩状の変輝緑岩類を伴っている。圧碎花崗岩類は、舞鶴市北部にやや広く分布し「舞鶴花崗岩」と呼ばれ、アダメロ岩質のものが多い。大江町北部には黒雲母片麻岩や角閃石などからなる変成岩がある。また、北帯の北側の大浦半島には石英閃緑岩や単斜輝石岩などを伴う斑糲岩質の複合岩体がある。

夜久野岩類は舞鶴市志高で三疊系の志高層群に不整合に覆われる。

南帯の夜久野岩類：主として変斑糲岩や変玄武岩などの塩基性岩類からなり、トロニエム岩などの酸性岩類や超塩基性岩類および角閃岩や黒雲母片麻岩類を

伴う。変玄武岩類は時に黒色頁岩層を伴っている。これらの塩基性岩類は、全体としてソレアイト的な分化傾向を示している。

夜久野岩類は、断層で切られほぼ北傾斜の覆瓦構造をなしている。しかし、本来は一連のオフィオライト累層であったと考えられている。その累積状態は、最下位から順に斜方輝石かんらんがん質岩・単斜輝石かんらんがん質岩を伴う斑禰岩・玄武岩類と累積している。しかしながら、夜久野オフィオライトは、①玄武岩層が粘板岩層を伴いチャートや遠洋性堆積物を伴わないこと、②北帯の夜久野岩類が、大量の花崗岩質岩からなること、によって本来の遠洋性オフィオライトとは異なると考えられている。

夜久野岩類の形成年代は、次のような事実から、少なくともペルム紀新世には終わっていると考えられている。①夜久野岩類の一部は、舞鶴層群の中～上部層に貫入している。②舞鶴層群の中～上部層の礫岩には夜久野岩類の礫が入っている。③夜久野岩類は三疊系に貫入していることはなく、夜久野層群へ礫を供給し、志高層群に不整合に覆われる。

(3) 丹波帯

丹波帯は兵庫県西部から京都府の中部、滋賀県東部を経て中部地方の美濃帯へと続いている。京都府下では前述の舞鶴帯の南側の大部分の地域を占めている。

丹波帯を構成する地層は、泥質岩（頁岩・粘板岩）・砂岩・チャートおよび緑色岩類を主とし、時に石灰岩を伴っており、丹波層群と総称されてきた。

丹波層群は、従来地向斜相の地層で、上部古生界とみなされてきたが、その後の研究や発見によって、その構造解釈や地質年代に関する知識は大きく変わった。

すなわち、1960年代の終わりから1970年代のはじめにかけて、京都西山から三疊紀の二枚貝化石*Halodia*とコノドントの*Gondolella navicula*などが発見され、また京都府北桑田群京北町周山では三疊紀の二枚貝*Monotis*が発見されたことを契機に、その後コノドントや放散虫の化石によって層序と年代が再検討され、丹波層群には三疊系のほかにジュラ系も多く含まれることが明らかとなった。

また、丹波層群の構造についても、従来、東西性の走向をもち、幾つかの背斜と向斜によって地層が繰り返されていると考えられてきたが、現在の知見によれば、それらはみかけの構造であり、それぞれアンチフォーム・シンフォームとよぶのが正しいといわれている（石賀-1983-）。なお、地層のくり返しについては、東西方向の衝上断層によるものもある。

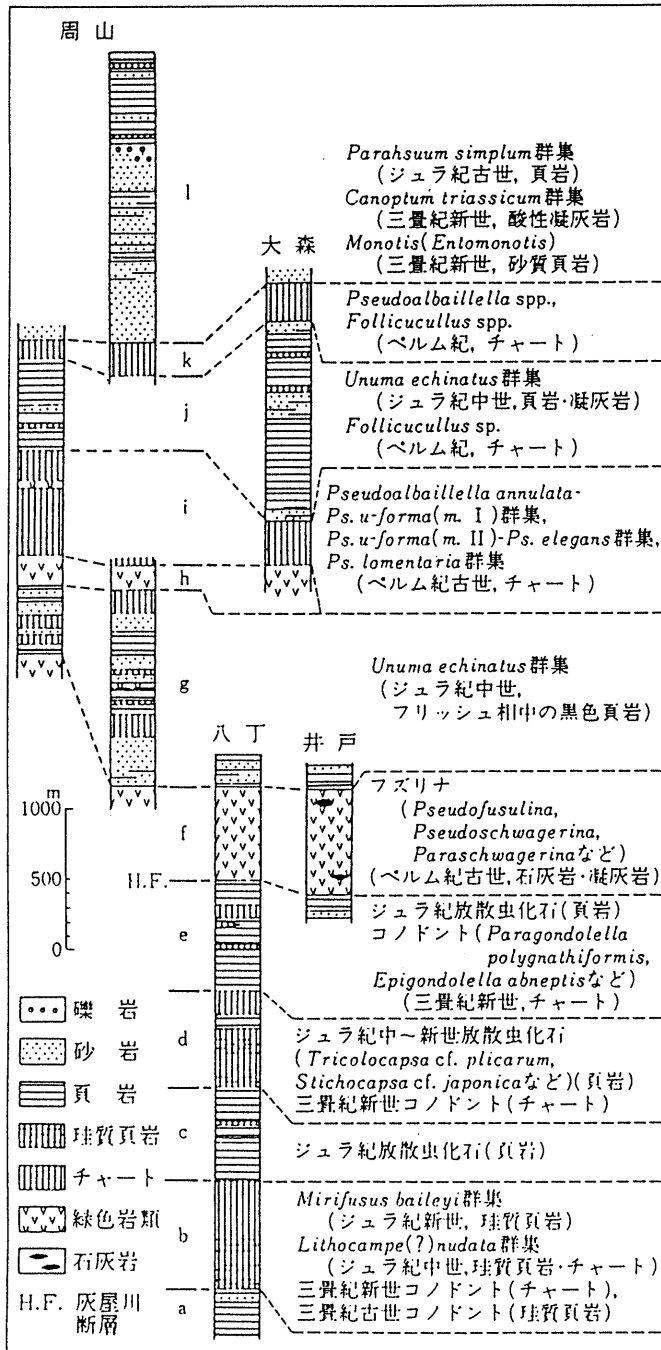


図 3 - 1 - 5 丹波帯中央部の総合柱状図と産出化石
(田辺・井本・丹波帯研究グループ -1987-)

丹波層群は、年代と岩相の異なる幾つかの地層の組み合わせにもとずいて、I型地層群・II型地層群に区分される（石賀-1983-）。I型地層群は背斜部に、II型地層群は向斜部に分布し、両者は衝上断層で接し、I型の上にII型が乗っている形になっている。なお、両者の層位関係は、図3-1-4に示される。

I型地層群：最下位に珪質頁岩層があり、その上に層状チャート層、ついで珪質シルト岩層、砂岩泥岩互層の順に重なり、そして最上位にオリストストロームがあるのが標準的な層序である。

最下位の珪質頁岩はシルトや砂をまったく含まず遠洋性堆積物と考えられている（京都市近郊で鳴滝砥石といわれているもの）。三疊紀古世後期のコノドントや放散虫化石を含む。

層状チャートは、石灰岩ときに緑色岩を挟む。本来の厚さは、数10mであるが断層あるいはスランプによるくり返しのために層厚100mをこす地層となっている。年代はコノドントや放散虫の化石から三疊紀中世からジュラ紀中世と考えられている。

珪質シルト岩層は下位の層状チャート層から漸移し、灰緑色で放散虫化石を多く含む。その年代はジュラ紀新世である。

砂岩泥岩互層は、タービダイト相であり、いろいろな堆積構造が見られる。その上部は次第に泥質部が多くなり、砂岩・粘板岩やチャート・緑色岩類などのレンズ状岩体を含むオリストストロームとなる。

II型地層群：石灰岩を挟む緑色岩類（石炭紀新世～ペルム紀中世）とそれに伴う層状チャート層（石炭紀新世～ペルム紀新世～三疊紀）とそれを覆う碎屑岩層（三疊紀新世～ジュラ紀中世）の組み合わせからなる地層群である。

緑色岩類は、玄武岩の塊状～枕状溶岩とハイアロクラスタイトで大小の石灰岩を伴う。

層状チャート層は、薄い珪質粘板岩層との互層で、赤褐色を呈し再結晶したものが多。コノドントや放散虫化石によって、石炭紀新世～ペルム紀新世の連続した年代を示すことが分かっている。

碎屑岩層は、砂岩と泥岩からなりときに礫岩を挟む。タービダイト相のところもあるが、上部はオリストストローム相が多い。オリストリスには石炭～ペルム系の層状チャートや緑色岩類と三疊紀の層状チャートや砂岩・泥岩などのいろいろな岩石がある。

次に、京都府下の丹波層群を北部（由良川以北）・中央部（由良川と桂川の間）・西部（国道9号線以西）・南部（保津川以南）に分けて、その地質をやや詳しく説明する。

a. 京都府北部の丹波帯

丹波帯北部は、京都府北部から福井県西部の若狭地域にかけて分布する。従来はすべて古生層として報告されてきたが、1970年代に入って、この地域のチャートから三疊紀中世のコノドントが発見され、そのチャートや石炭・ペルム紀の石灰岩が連続性に乏しく、破碎された粘板岩中に混在していることから、オリストストロームと考えられるようになった（松田-1976-）。

京都府と福井県の境界付近から南の京都府下の丹波層群は、碎屑岩の多いI型地層群にあたる。とくに北桑田群美山町田歌空福井県の染ヶ谷に至る間は詳細な調査が行われ（安養寺・丹波地帯研究グループ-1983-、本田-1985-）、岩相・層序が明らかになっている。これらの調査結果を下位のものから纏めると、次のようである。

① 灰緑色の珪質泥岩層：多くの放散虫化石を含む。陸源碎屑物の供給の少ない環境に堆積したもの。

② 砂岩泥岩互層：薄層理のラミナイト様岩や黒色頁岩を伴うタービダイト。時に厚い砂岩層をはさみ、それには斜交葉理やソールマークよく見られることから、海底扇状地堆積物と考えられている。

③ 砂岩レンズを含む頁岩層：下部は雲母質の灰黒色頁岩と粘板岩で、上部はいろいろな大きさの砂岩レンズと小規模なチャート層と緑色岩類の岩塊を持つオリストストロームを含んでいる。これらの岩塊のうちには①・②に由来するものもはいつている。

以上のことから、この地域のI型地層群の堆積の場は、三疊紀～ジュラ紀新世まではチャートの堆積の場であり、ジュラ紀新世に遠洋性泥岩の堆積、ついでタービダイトの堆積、そしてオリストストロームの形成の場へと急速に変化したと考えられている。

b. 京都府中央部の丹波帯

この地域の丹波帯の本格的な調査研究は、1960年代の終わりから始まった「丹波地帯研究グループ」の活動に追うところが大きい（丹波地帯研究グループ-1969、1971、1974、1979a、1979b、1980-）。そして、1970年代からのコノドントの研究、1980年代の放散虫化石の研究によって新しい知見が増加し、従来、一連で整合関係にあると考えられていた層序は大きく変わった。

図3-1-5は、以上の成果を田辺利幸・井本伸広・丹波地帯研究グループ（1986）が総合柱状図に纏めたものである。この図で、a～e層とf～l層はそれぞれ岩相と年代の異なる地層群で、先述したI型地層群とII型地層群に対応する。両者の間は低角の衝上断層で（灰屋川断層）、I型地層群が下位にな

っている。以下に各地域ごとの特徴を述べる。

周山地域は、北の大森向斜と南の雲ヶ畑向斜の組み合わせからなる複向斜地域であって、II型地層群からできている。みかけの最下位には、f層が、最上位にはl層がある。そのうちf・h層が緑色岩層（ペルム紀）、i・k層がチャート層（ペルム紀）、g・j・l層が碎屑岩層（三畳～ジュラ紀）である。この地域では、f・g層、h・i・j層、k・l層の組み合わせが3回断層によって繰り返されている。

f層は玄武岩質の溶岩・ピローブレッチャ・ハイアロクラスタイトなどからなり、石灰岩の岩塊を伴っている。溶岩層は下部は塊状溶岩であるが、上に向かって枕状溶岩となり、最上部はハイアロクラスタイトとなる。ハイアロクラスタイトやピローブレッチャの中には石灰岩の小岩体を含むことがあり、フズリナなどの化石を含んでいる。

h層もf層と同じく緑色岩類であるが、層状チャートのi層が上に重なっているのが特徴である。h層からは化石は発見されていないが、i層のチャートからはペルム紀の放散虫化石が知られている。k層もチャート層からなり、ペルム紀放散虫化石を含んでいる。

g・j・lの碎屑岩層は、多くの岩塊を含む砂岩・泥岩からなり、一部にタービダイトやまれに礫岩を伴う。また、オリストストロームを含んでいる部分が見られ、それはとくに最上部のl層に多い。なお、各層に含まれるチャートや泥岩・凝灰岩の岩塊にはペルム紀と三畳紀のコノドントや放散虫化石が見出されるが、碎屑岩層そのものの泥岩からはジュラ紀古～中世の放散虫化石が発見されている。

周山地域の北西部の灰屋川断層から北の地域の丹波層群は、I型地層群に属し、みかけ上最下位のa層から最上位のe層まで分布している。北部地域のものと同じく、三畳～ジュラ紀のチャート層（b・d層）とジュラ紀新世の頁岩中に三畳～ジュラ紀のチャートをオリストストロームとして挟む碎屑岩層（a・c・e層）とである。この地域には、緑色岩類や石灰岩類は極少ないが、京都市左京区大悲山では頁岩中にペルム紀のフズリナを含む石灰岩の小岩体（乳岩）が発見されている。また八丁背斜の北側の京都府美山町河内谷には、東西に伸びる緑色岩体があり、ウミユリや珊瑚化石を含む石灰岩を伴っている。

周山地域の南部京都北西山地の丹波層群は、NW～SEに延びる笠峠断層の南側のII型地層群と、更に南部のI型地層群とに分けられる。

笠峠断層南側に最大幅2kmで分布するII型地層群は、層状チャート・珪質頁岩・緑色岩類・石灰岩・苦灰質砂岩からなる。チャートおよび珪質頁岩からは、ペルム紀放散虫化石が、石灰質礫岩からは、ペルム紀のフズリナが発見されて

いる。また緑色岩類に伴う石灰岩レンズには石炭紀のコノドントを含んでおり、丹波帯では最も古い時代のものと考えられている。これらの地層群は、周山地向斜の南翼を形成し、南側の三疊系との間は断層である。

南側の三疊系はI型地層群で、主として層状チャート・ミクライト質石灰岩及び珪質頁岩であり、コノドントや放散虫化石を含んでいる。また、京北町細野の芦見谷には東西に延びる緑色岩類があり、枕状溶岩とハイアロクラスタイトからなる。ハイアロクラスタイトに伴う石灰岩の小岩塊から三疊紀の六斜珊瑚が発見されている。ジュラ系は主として灰緑色均質な珪質頁岩と黒色頁岩からなり、珪質頁岩は三疊紀のチャートの上に重なり、其の上に黒色頁岩がのっている。保津川沿いの壁岩は層状チャートで、その上下に珪質頁岩層がくる。これらの地層にはコノドントと放散虫化石が入っており、三疊紀中世～ジュラ紀の連続した層序を示している。

<丹波帯のマンガン鉱床>

丹波帯には多数の層状マンガン鉱床が知られている。これらの鉱床は丹波帯の層状チャートの中に整合的に胚胎する層状鉱床である。その分布は、図3-1-6に示されるが、特に船井郡丹波町下山～日吉町胡麻付近、さらに周山地域に密集している。

しかしながら、これらの鉱山も昭和58年頃まで続いた京北町の新大谷鉱山を最後に現在はすべて廃坑となっている。

丹波のマンガン鉱床は、明治28年頃に採掘が開始され、それ以後約90年間にわたって採掘が続けられた。最盛期は第二次大戦中と昭和25～45年の2時期があり、そのときは約300ヶ所もの鉱山が活況を呈していたという。しかしながら、マンガン鉱床は金・銀・銅などの他の金属鉱床と異なって、その規模が小さいため、零細企業や個人による開発が多かったため、盛衰も甚だしかったらしい。

表3-1-6は代表的なマンガン鉱床の位置と産状などを示したものである。

なお、マンガン鉱山は現在すべてが廃坑となって、ほとんど立ち入れないが、京北町下中にある新大谷鉱山は、日頭鉱業有限会社によって延長約300mの坑内や鉱山資料が記念館として保存されている。

表 3 - 1 - 6 京都府のマンガン鉱床

鉱山名	位置	産状	備考
九鬼谷	美山町静原	由良川コンプレックスの層状チャートに含まれる	
大黒	美山町河内谷		
道奥谷	日吉町佐佐江	左左江コンプレックスに属し、層状チャートからなるスラブに含まれる	現在記念館として保存
玉岩	日吉町海老谷		
弥谷	日吉町海老谷		
源大谷	京北町下中		
新大谷	京北町下中		
福住	篠山町福住	赤色頁岩と層状チャートに挟まれて産する	
護法谷 大城山 高村 鍋浦 亀岡	京都市北区桃山 亀岡市稗田野町 上同 京都市右京区 越畑 亀岡市西野野	I型地層群の層状チャート中に層状鉱床として産する	

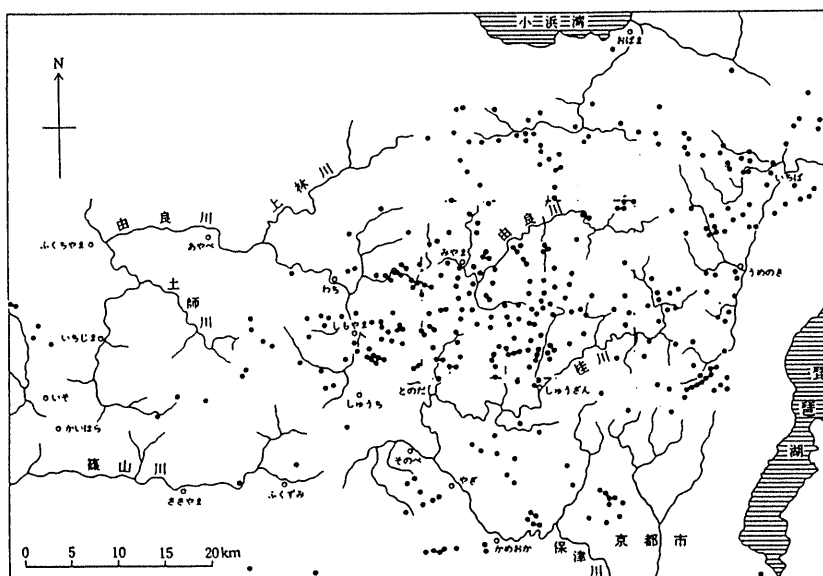


図 3 - 1 - 6 丹波地域のマンガン鉱床分布図 (瀧本・石垣、1973)

c. 京都府西部の丹波帯

京都府船井郡瑞穂町から兵庫県篠山町に至る間に分布する丹波層群は、I型・II型地層群からなり、東西方向の軸をもつ正立褶曲構造を作っている。

篠山町周辺では、三疊紀～ジュラ紀古世の層状チャートとジュラ紀新生の珪質頁岩－黒色頁岩からなるI型地層群の上に、石炭紀新世～ペルム紀の緑色岩類層状チャート層とジュラ紀古～中世の砂質泥岩層からなるII型地層群が衝状断層で重なっている。すなわち、背斜部にはI型地層群が、向斜部にはII型地層群が分布している。

篠山町北部の「黒井背斜」の北の京都府下では、再びII型地層群が分布し、複雑な褶曲を繰り返している。その地域の瑞穂町三ノ宮質志には、京錦大理石として採掘されてきた石灰岩体がある。この石灰岩は緑色岩層の上であり、層厚約50mで水平方向にとぎれながらも約1kmほど続いている。この石灰岩からは、フズリナ・有孔虫・石灰藻・ウミユリなどの化石を産し、ペルム紀古世とされている。また、この石灰岩の上に不整合にのる石灰質砂岩から三疊紀のコノドントが発見されている。

d. 京都府南部の丹波帯

丹波帯南部の分布地は、京都西山－能勢地域・京都東山－宇治南東部地域などがある。

京都西山－能勢地域で見られる古生層は、チャート・緑色岩類（石灰岩レンズを伴う）と粘板岩中にオリストリスとしてはいつている石灰岩からなる。これらの地層群は、ペルム系も含まれるが、三疊系やジュラ系も多く、複雑に繰り返して向斜帯を形成している。京都西山では、三疊紀の二枚貝・コノドント・などが発見され、また亀岡市南端ではペルム紀の放散虫を含むチャート層が分布している。この地域の丹波層群は、II型地層群と考えられている。

京都東山から醍醐山地および宇治・天ヶ瀬周辺には泥質岩（頁岩・粘板岩）・チャート・砂岩を主とする丹波層群が分布している。ときには緑色岩・石灰岩も見られ、N60°～70°Wの走向でほぼ直立している。泥質岩は粘板岩が多く、チャートはよく連続するものと、泥質岩・砂岩中にブロック状に入っているものがある。

宇治天ヶ瀬地域には、砂岩層が多い。この砂岩層には厚さ4m以上の礫岩層があり、頁岩・砂岩・チャート・流紋岩の礫からなる。砂岩層下部の凝灰質黒色泥岩からジュラ紀古世の放散虫化石が発見されている。泥質岩の中には大小のチャート岩体があり、それらからペルム紀および三疊紀のコノドントが見出されており、周囲の泥質岩からはジュラ紀の放散虫化石が産出し、チャート岩

体はオリストリスと考えられている。喜撰山ダムからNW-S Eにのびる断層を境に、南と北では岩相が異なっており、南側の地層はII型地層群に、北側の地層群はI型地層群と考えられている。

宇治市南東部から綴喜郡宇治田原町および相楽郡和束町にいたる地域は、丹波帯から領家帯への漸移帯に当たり、丹波層群は領家変成作用を受けて、南ほど変成度が高くなっている。

e. 超丹波帯

丹波帯と舞鶴帯の境界に沿って、千枚岩を主とする地層群がある。これらの地層はチャートや緑色岩類が少なく、丹波帯の構造とは異なる舞鶴帯の構造を示すことから、両者の中間的な性格を持つ地層群と考えられてきた。

Caridroitほか(1985)は、これらの地層からペルム紀の放散虫化石を発見し、綾部市東北部で次のような層序を確立した。

舞鶴帯夜久野岩類

衝上断層

- ③オリストストローム (①をオリストリスとする)
- ②泥質フリッシュ (中世代初期?の放散虫を含む)
- ①珪質岩・泥質岩の細互層 (ペルム紀中世～新世の放散虫を含む)

衝上断層

丹波層群のII型地層群

①～③の岩相は舞鶴帯・丹波帯の同年代の地層とは異なっており、また化石群集も違っていることから、この地帯を”超丹波帯”とよぶことを提唱した。超丹波帯の地層は、東は小浜湾まで追跡でき、西方へは兵庫県南西部まで分布していることが確認されている。

(4) 領家帯

領家帯は各種の花崗岩と変成岩とからなり、近畿地方の中部を約50km幅で東西に横断している。京都府下に分布する領家帯は、その北縁部に当たり、京都府南部の木津川沿いの笠置町周辺に分布する。

領家変成岩は、木津川の谷を境に北では急に変成度が低くなり、非変成の丹波帯に移り変わる。すなわち、谷の北側では黒雲母粘板岩や複雲母千枚岩であるが、南側には珪線石を含む片状ホルンフェルスの幅狭い地帯を経て縞状片麻岩が分布するようになる(図3-1-7)。

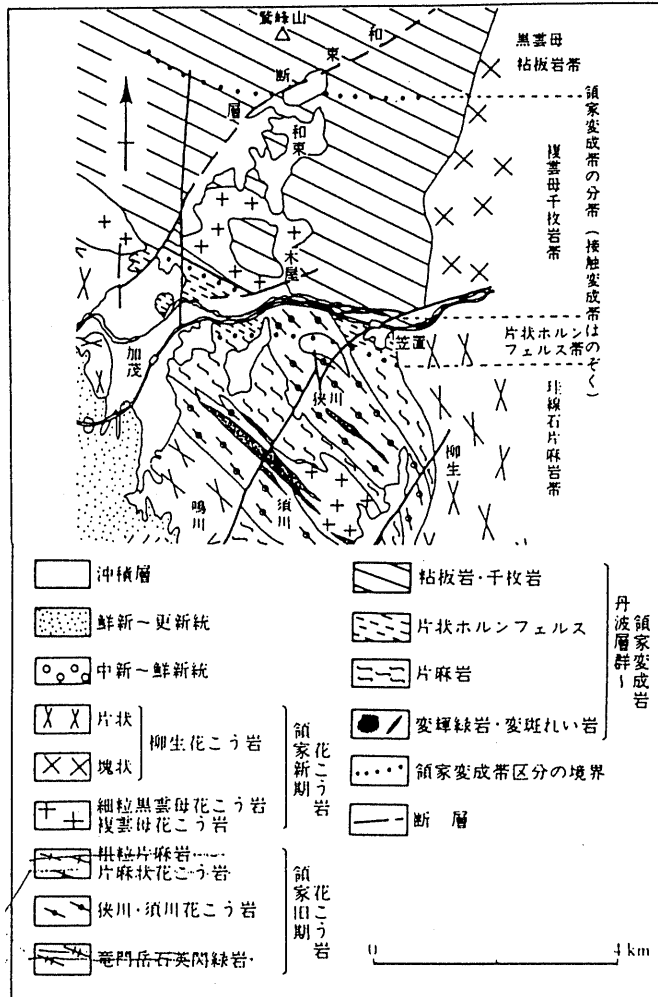


図 3 - 1 - 7 笠置地域の地質図 (清水 -1987-)

ここでは、変成岩地域は北から南へ黒雲母粘板岩帯・複雲母千枚岩帯・片状ホルンフェルス帯・珪線石片麻岩帯に分帯されている。これら変成岩の源岩は丹波層群の粘板岩とチャートが多く、石灰岩にはペルム紀のフズリナが入っているが、チャートや粘板岩は三畳紀からジュラ紀のものである。

花崗岩は、古期および新期に属する7つの岩体が識別されているが、主なものは片麻状の須川・狭川花崗閃緑岩である。また、変成岩や花崗岩中には幅50m程の変輝緑岩・変斑纒岩が岩床や岩脈として存在している。

(5) 白亜紀～古第三紀の火成岩類

西南日本内帯には、白亜紀～古第三紀の花崗岩類が火山岩類とともに広範囲に分布する。これらの花崗岩類はその性質と火成活動の時期の違いから、「山陽帯の花崗岩」と「山陰帯の花崗岩」に区別されている。すなわち、山陽帯の花崗岩は活動時期が主として白亜紀の中～後期であるのに対して、山陰帯の花崗岩の活動時期は主に古第三紀の前～後期である。

京都府下に分布する花崗岩は、山陽帯に属する比叡山花崗岩体およびその北方の比良花崗岩体の一部と山陰帯に属する和田山・宮津花崗岩体にすぎない。以下、吉田源市・西橋秀海(1987)、田結庄良昭(1987)によって記述する。

a. 山陽帯の花崗岩類

琵琶湖周辺には、丹波帯の中～古生層を貫く花崗岩体が分布している。これらは白亜紀～古第三紀初期に貫入したもので、京都府下の岩体としては、比良・比叡の2岩体がそれである。

比良花崗岩体は、比良山地にあるNNE—SSW方向の長さ15km、幅5kmの岩体で、主に黒雲母花崗岩からなる。北部は中粒相であるが、南部では粗粒相が広く分布する。

比叡花崗岩体は、比叡山南部を占める東西約5km南北5～7kmの岩株状岩体である。中心部にアルカリ長石の粗粒結晶を含む斑状の黒雲母花崗岩があり、それを等粒状の黒雲母花崗岩が取り巻いている。

b. 山陰帯の花崗岩類

丹後半島宮津付近から南福知山西方にかけて、粗粒で優白色の黒雲母花崗岩が広く分布する。ともに岩株状岩体で、年代は56～68Maで鳥取花崗岩に対比される。

和田山花崗岩：福知山の西方約10kmの和田山付近に長径約15km、短径約5kmの比較的大きな岩体を形成している。主な岩相は、カリ長石が桃色を示す中～粗

粒の角閃石黒雲母アダメロ岩で、細粒の文象花崗岩がこれを貫いている。舞鶴帯の岩石を貫いており、自変質している。

宮津花崗岩体：東西、南北とも30kmに達する大きな岩株を形成している。粗粒の黒雲母花崗岩を主とし、角閃石を含む花崗閃緑岩や石英閃緑岩も見られる。岩相は鳥取花崗岩に似ている。

2) 新第三系

近畿地方では新第三紀の始めまでに、先述した基盤岩類の東西方向の帯状構造が完成されたと考えられている（藤田和夫-1983-）。新第三系はこの複雑な構造をもつ基盤岩類を、不整合にゆるやかな構造で覆っている。

新第三系の京都府下での分布は、ほとんど日本海沿岸の丹後半島周辺に限られ、あとは京都市の南東宇治田原町にわずかに分布しているにすぎない。

以下、日本海地域と宇治田原地域とに分けて記述を進める。なお、鮮新～更新統の地層については、次の第四系の項で記述することとする。

(1) 日本海沿岸地域の第三系

兵庫県北部の但馬地域から京都府北部の日本海沿岸に分布する第三系（中新統）は、一括して北但層群と呼ばれている（池辺ほか-1965-、弘原海ほか-1966-）。

北但層群は、表3-1-7に示されるように、更に幾つかの累層に細分される。すなわち下位から、養父亜層群・城崎亜層群である。養父亜層群は更に下位から、高柳累層・八鹿累層に、城崎亜層群は豊岡累層・網野累層および丹後累層に区分されている。以下、これら地層群の特徴について、石田志郎・久富邦彦(1987)によって記述する。

a. 高柳累層

北但層群の基底層で、模式地は兵庫県養父郡八鹿町高柳で、礫岩を主とする地層である。

高柳累層相当層は、京都府下では竹野郡弥栄町に分布する。基盤の花崗岩の上に不整合に乗る花崗岩質礫岩・砂岩で、「等楽寺礫岩層」と呼ばれている。層厚は50mで、ウラン鉱を産する。

高柳累層およびその相当層は、扇状地性の岩相を示すことから、上位の八鹿累層の塩基性火山の活動に先駆けて、基盤の沈降部に堆積した扇状地礫岩や斜面崩壊堆積物や土石流堆積物からなると考えられている（弘原海ほか-1966-）。

表 3 - 1 - 7 日本海沿岸地域の中新統の層序(石田志朗-1987-を簡略化)

時代	地域		日本海沿岸地域						
	地層名		北西部	丹後半島北部	丹後半島東部	舞鶴市北東地域			
中新世	北群	城崎層	乗原石英安山岩	経ヶ岬黒雲母 角閃石安山岩層 袖志石英安山岩 質火山岩層 尾和含角閃石安山岩層		?	?	今戸鼻累層	
			磯複輝石安山岩質火山岩層	山岩層 中浜複輝石安山岩層					
	但群	蛭層	網野累層		平泥岩・砂岩・凝灰岩層 野尻凝灰岩層 本坂流紋岩層 管野安山岩層 砂方頁岩砂岩層 徳光礫岩層	長延砂岩頁岩層 本坂流紋岩類 管野安山岩類 滝根礫岩 日出流砂岩層 紋岩類	内浦層群	神野浦頁岩部層 名島山岩	塩波礫岩砂岩層
	世群	養父層群	八鹿累層	栃谷凝灰岩層・一条寺火山岩層	弥栄火山岩層				
高柳累層					等楽寺礫岩層				

b. 八鹿累層

八鹿累層は兵庫県養父郡八鹿町西部を模式地とし、下位の高柳累層を整合に覆う。大量の玄武岩質安山岩と玄武岩の溶岩からなり、各種の火砕岩および火山礫岩・砂岩などを挟む地層である。

八鹿累層相当層は、京都府下では熊野郡久美浜町や竹野郡網野町に分布する。そこでは下部を「一条寺火山岩層」上部を「栃谷凝灰岩層」とよんでいる。また、丹後半島中央部では「弥栄火山岩層」と呼ばれている。一条寺および弥栄火山岩層は、何れも走行は250～500mで、溶岩と凝灰角礫岩・凝灰岩からなる。火山岩は玄武岩・玄武岩質安山岩・複輝石安山岩である。栃谷凝灰岩層は、層厚約250mの主として凝灰岩からなる地層である。

c. 豊岡累層

豊岡累層は、兵庫県豊岡市西方を模式地とするが、丹後半島東部の京都府宮津市北部・与謝郡岩滝町・野田川町および中郡大宮町付近にも広く分布する。これらの地域の豊岡累層の層序や他地域との対比については研究者によって意見が違いますが、ここでは弘原海（1966）および東（1977）によって記述する。

丹後半島南東部地域の豊岡累層は、層厚約600mであり、下位から内山礫岩層・上世屋頁岩砂岩層・松尾礫岩層・大島礫岩砂岩層・落山頁岩砂岩層に区別される。

内山礫岩層：弥栄町等楽寺東方1kmの山道と谷で良く観察できる。層厚は駒倉で約120mであるが、場所によって変化する。礫層が薄いところでは上世屋頁岩砂岩層が厚いという傾向があり、両者は全体として約150mの厚さで連続している。

上世屋頁岩砂岩層：砂岩・頁岩互層に酸性凝灰岩層と亜炭の薄層を挟む（層厚150m）。凝灰質頁岩からは保存の良い植物化石が各地から産し、阿仁合型植物化石群と台島型植物化石群との中間型を示すといわれている。

松尾礫岩層：中郡大宮町内山一宮津市下世屋地域では、径3mもの花崗岩礫を含む淘汰の悪い礫岩層が基盤の花崗岩の上に不整合にのっている。その北方への延長は上世屋の南を東西に走る断層で北へあがり、上世屋頁岩砂岩層の上にある。礫岩層は東にいくにつれ次第に東傾斜となる。

大島礫岩砂岩層：円礫岩と粗粒な砂岩からなる。下位の大島礫岩層から漸移的に本層に岩相が変化する。

落山頁岩砂岩層：下部は砂岩と泥岩の互層からなり、上部は薄い凝灰岩層を挟む頁岩からなる。与謝郡伊根町の越山と菅野足谷の本層の凝灰質頁岩から浅海性の魚化石が産している。また、越山からは海生貝化石も産し、台島型の植

物化石も産する。

d. 網野累層

丹後半島から兵庫県出石群にかけての海岸部に分布する網野累層は、黒色頁岩を挟む火砕岩層からなり、海生貝化石や有孔虫化石を産する。網野付近と内浦湾付近では基盤岩に直接不整合で乗っている。兵庫県養父郡に分布する村岡累層とは同時異相の関係にある。

網野町西方の網野累層は、下位から木津礫岩層・上野頁岩砂岩層・新庄石英安山岩質凝灰岩層・切畑石英安山岩質溶結凝灰岩層に区分される。

木津礫岩層：中礫を主とする海浜成の円礫岩層で、礫は大部分が中・古生界に由来するチャート・砂岩・珪質岩からなる。基盤岩に不整合にのり、層厚は約110mである。

上野頁岩砂岩層：層厚約270m、貝・ウニ・底生有孔虫の化石を産する。

新庄石英安山岩質凝灰岩層：層厚200m。北部の海岸部では、下部が頁岩・凝灰岩互層で、中上部は塊状の凝灰岩であるが、上部には礫を含む。この凝灰岩層は南方に向かって、塊状凝灰岩となり、網野累層分布域の南部では、緻密な溶結凝灰岩となる。

切畑石英安山岩質溶結凝灰岩層：層厚350m、緻密で柱状節理の多い溶結凝灰岩で、黒曜石レンズが見られる。この層の西縁に沿って、南北4km東西幅300～400mの範囲に「長野角礫質礫岩」と呼ばれる礫岩層が分布する。

丹後半島東部の宮津市の北半部とその周辺に分布する網野累層は、下位から滝根礫岩泥岩層・日出流紋岩類・管野安山岩類・本坂流紋岩類・長延砂岩頁岩層に区分される。

滝根礫岩泥岩層：下部は円磨度のよい凝灰質礫岩と凝灰質頁岩の互層からなり、上部は泥岩からなる。丹後半島北部の徳光礫岩・砂方砂岩頁岩層にあたる。

日出流紋岩類：流紋岩の溶岩と火山碎屑岩からなる。

管野安山岩類：輝石安山岩・角閃石安山岩と安山岩質火山碎屑岩からなる。

本坂流紋岩類：黒雲母流紋岩の溶岩と火山碎屑岩からなる。

長延砂岩頁岩層：全体に凝灰質で、下部は砂岩が、上部は頁岩が多い。スランプ構造が頻繁にみられる。

e. 内浦層群

舞鶴市北東の内浦湾周辺の中新統は、内浦層群と呼ばれ、全体が網野累層に対比されている。中川ほか(1985)によって、下累層と今戸鼻累層に区分され、下累層はさらに下位から、名島火山岩部層・塩汲峠礫岩砂岩部層・神野浦頁岩

部層に区分される。

名島火山岩部層：福井県大飯郡高浜町名島から風島周辺に典型的に分布し、層厚約100m、西方に薄くなる。変質安山岩の溶岩と火砕岩からなり、凝灰岩・凝灰質砂岩を伴う。凝灰質砂岩からは多くの貝化石を産する。後述する塩浜峠礫岩砂岩部層とは指交関係にある。

塩浜峠礫岩砂岩部層：舞鶴市登尾から塩浜峠にいたる道路沿いを模式地とする。模式地の層厚は約70mであるが、層厚変化が激しく舞鶴市栃尾付近では5m以下となる。汽水～浅海成の堆積物で、主に礫岩・砂岩からなる。一部に凝灰質砂岩・安山岩質凝灰岩を伴う。高浜町西方の本層からは*Vicaria japonica*を産し、その他熱帯から亜熱帯の環境を示す貝化石を産する。

神野浦頁岩部層：模式地は神野浦周辺、層厚は100m以上、灰色シルト岩及び黒色頁岩からなり、2枚の凝灰岩層を挟み、それが有効な鍵層となっている。貝化石や浮遊性有孔虫化石を含んでいる。浮遊性有孔虫の化石はBlowのN9を示している。

今戸鼻累層：高浜町今戸鼻付近を模式地とし、安山岩の溶岩と変質流紋岩からなる。層厚は300m、下位の神野浦頁岩部層を非整合におおうが、その時間間隙は少ないと考えられている。

f. 丹後累層

丹後半島の先端部から網野町にかけて、網野累層をおおって分布している。安山岩と石英安山岩の溶岩・火山碎屑岩・火山礫岩からなる。

模式地の京都府竹野郡丹後町東部では、下位から中浜複輝石安山岩層・尾和含角閃石安山岩層・袖志石英安山岩質火山岩層・経が岬黒雲母角閃石安山岩層に区分されている。

(2) 宇治田原地域の新第三系

京都府綴喜郡宇治田原町に、東西約6km、南北1.6kmの広さで、東西性の向斜構造をなして分布する中新統があり、綴喜層群と呼ばれている。綴喜層群は下位から奥山田累層・湯屋谷累層に区分されている(石田ほか-1954-)。以下、石田ほか(1954)によって記述する。

a. 奥山田累層

基底礫岩から上位へ、砂岩・泥岩と細粒化する体積サイクルを示すが、北西部では基底の角礫岩の下位に細粒の凝灰岩がみられる。全体の層厚は約130mで、

下位から川上礫岩層・宮村砂岩層・栢凝灰質泥岩層に区分される。

川上礫岩層：宇治田原町川上南方の沢を模式地とし、層厚約50mの大礫を主とする礫岩層である。基盤岩とは不整合で、礫種は中・古生界に由来する砂岩・頁岩の巨礫からなる角～亜角礫と、花崗岩の円礫である。

東部の殻池峠付近では、花崗岩質の砂礫岩になり、層厚は100m以上となる。宇治田原町大福付近では、地層は緩く南へ傾斜し、角礫岩・円礫岩・円礫岩と凝灰岩や砂岩の互層の順に重なる。円礫混じりの砂岩からは貝やフジツボなどの化石を産する。

宮村砂岩層：宇治田原町宮村の奥山田小学校下の川底を模式地とする、層厚約20mの砂岩層である。貝化石の密集してつくる硬い層が何層も挟まれる。

栢凝灰質泥岩層：宇治田原町の栢西方の道路の崖を模式地とする、層厚約60mの主として塊状泥岩からなる地層である。時に中粒砂岩や凝灰岩の薄層を挟む。泥岩からは、貝化石を多産する。

b. 湯屋谷累層

浅海性の砂岩と淡水性のシルト岩・礫岩からなる層厚約90mの地層群である。下位から塩谷砂岩層・田原花崗岩質砂礫岩層に区分される。

塩谷砂岩層：層厚約40m、海浜性の小礫を含む中～細粒砂岩である。下位の栢凝灰質泥岩層を整合におおっている。貝化石を多く含むが、下部には巣穴の生痕がみられる。

田原花崗岩質砂礫岩層：層厚90m以上、淡黄～灰緑色シルト岩と花崗岩質細礫岩の互層で、亜炭の薄層を挟む。淡水性の地層と考えられる。

3) 第四系

京都府下の盆地及びその周辺や河谷沿いの低地には第四系が分布する。第四系は下位から鮮新～更新統・中上部更新統・完新統に大別される。表3-1-8は、各地の第四系の層序を一覧表にまとめたものである。

鮮新～更新統：（鮮新統は第三紀層であるが、ここでは第四系に含めて説明する。）いわゆる”大阪層群”と呼ばれている地層群あるいはその相当層で、主として未固結の礫・砂・シルト・粘土からなる。

大阪層群は模式地の大阪平野では、丘陵地で約300～400mの層厚をもち、低地部では1000mに達するという。下半部は陸水成の砂礫・シルト層からなり、上半部は下位から順にMa-1, Ma0, Ma1, … Ma10とよばれる12層の海成粘土層と陸水成の砂礫・シルト層との規則的な互層からなる。

大阪層群はこれらの多数の鍵層や植物化石の詳細な検討（大阪層群研究グループ-1951-、市原-1984-）から、メタセコイア植物群繁栄期に属する最下部と、メタセコイア植物群消滅期に属する下部、メタセコイア植物群を含まない上部層（アズキ火山灰層の下限より上）とに区分されている。

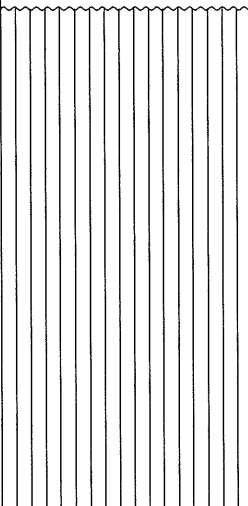
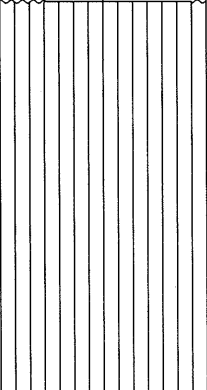
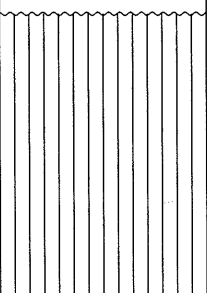
中・上部更新統：京都府下の中・上部更新統は、京都盆地・亀岡盆地などの堆積盆の中央部やその周辺の丘陵地、河谷の流域沿いなどに大阪層群をおおって、分布する段丘堆積層を主とする。

段丘は「高位段丘」・「中位段丘」・「低位段丘」の3つに区分される。

高位段丘面の分布高度は、山地では標高200m以上であるが、沿岸部では最低30m前後となる。主として赤色土壌化の進んだ風化礫層によって構成される。亀岡盆地の瓜生野礫層などが高位段丘構成層に対比される（表3-1-8）。

中位段丘は主として日本海沿岸地方に分布する。段丘面の標高は20m前後で、なだらかな平坦面を形成し、地形面の解析は進んでいない。段丘構成層は主として海成の礫・砂・粘土からなるが、その表層部は赤色土壌化し、明褐色から褐色になっている。後述する黒部貝層・M面構成層などが中位段丘構成層に対比される。また、非海成の中位段丘構成層としては、京都盆地のM面構成層、亀岡盆地の神吉層、由良川沿いの南陵層などがある（表3-1-8）。

表 3 - 1 - 8 京都府下第四系層序表

年代	層序	京都盆地	亀岡盆地		由良川沿い	日本海沿岸
			主部	北東部		
完新世	沖積層	沖積層	沖積層		沖積層	沖積層
後期更新世	L T	L T 及び扇状地 D	L T 天川 P 原層		L T 及び扇状地 D	L T
	M T	M T (砂礫層)	?	神吉層	M T	L 面 D M 面 D H ₂ 面 D 黒部貝層
中期更新世	H T	大原野礫層 桃山礫層	瓜生野礫層	?	上野累層 (園部・本郷・後川累層)	溝谷層 (礫層) 永留層
	大阪層群	上部	篠町層	越畑層	須知累層 ⋮ 後川竈坊累層	
		下部				
鮮新世	最下部					
中新世						

(那須・天白-1987-に追加)

L T : 低位段丘構成層、M T : 中位段丘構成層、H T : 高位段丘構成層、
D : 構成層、P : 泥炭層

大阪層群はこれらの多数の鍵層や植物化石の詳細な検討（大阪層群研究グループ-1951-、市原-1984-）から、メタセコイア植物群繁栄期に属する最下部と、メタセコイア植物群消滅期に属する下部、メタセコイア植物群を含まない上部層（アズキ火山灰層の下限より上）とに区分されている。

中・上部更新統：京都府下の中・上部更新統は、京都盆地・亀岡盆地などの堆積盆の中央部やその周辺の丘陵地、河谷の流域沿いなどに大阪層群をおおって、分布する段丘堆積層を主とする。

段丘は「高位段丘」・「中位段丘」・「低位段丘」の3つに区分される。

高位段丘面の分布高度は、山地では標高200m以上であるが、沿岸部では最低30m前後となる。主として赤色土壌化の進んだ風化礫層によって構成される。亀岡盆地の瓜生野礫層などが高位段丘構成層に対比される（表3-1-8）。

中位段丘は主として日本海沿岸地方に分布する。段丘面の標高は20m前後で、なだらかな平坦面を形成し、地形面の解析は進んでいない。段丘構成層は主として海成の礫・砂・粘土からなるが、その表層部は赤色土壌化し、明褐色から褐色になっている。後述する黒部貝層・M面構成層などが中位段丘構成層に対比される。また、非海成の中位段丘構成層としては、京都盆地のM面構成層、亀岡盆地の神吉層、由良川沿いの南陵層などがある（表3-1-8）。

低位段丘構成層は、現在の河谷沿いに分布し、層厚10m前後の礫層を主とする浸食段丘の構成層である。段丘面は中位段丘より急傾斜し、標高30m前後から5mまで下がり、しばしば沖積面の下にもぐっている。

京都盆地や亀岡盆地でも低位段丘相当層は、地下に埋没している。これらの地域ではその上部は泥炭層あるいは泥炭質となっており、その中に「平安神宮火山灰層」が含まれる。この火山灰層は、南九州の約21000年前の噴出とされる「始良T_n火山灰層（AT）」に対比されている。また、泥炭層あるいは泥炭質層からは、冷温帯北部から亜寒帯南部に分布する植物の遺体や花粉が含まれている。なお、「平安神宮火山灰層」の上部にみられる不整合面は、沖積層基底の不整合面と一致することから、低位段丘構成層は、最終氷期の最寒冷期の直前までに堆積した地層と考えられている。

完新統：最終氷期の最寒冷期における海水面の低下に伴う下刻作用によって形成された不整合面上に堆積した地層である。礫・砂・粘土を主とする未固結の地層で、粘土層の多い部分は軟弱地盤を形成している。

京都盆地では、下部砂泥互層・中部泥層・上部砂層となっている。

(1) 京都盆地及びその周辺の第四系

京都盆地及びその周辺には、表3-1-8に示すような第四系が広く分布し

ている。このうち、大阪層群相当層は京都～奈良にかけての丘陵地に分布し、高・中位段丘構成層は、盆地周辺の段丘を形成して分布している。低位段丘構成層は、盆地の地下に潜って地表にはみられないが、ボーリングデータなどから知られている。完新統（沖積層）は現河川に沿って分布している。次に、鮮新～更新統（大阪層群相当層）、中・上部更新統、完新統に分けて説明することとする。

a. 鮮新～更新統（大阪層群相当層）

この地域の大阪層群は、京都市深草丘陵及び向日市～西京区地域の丘陵地に分布するものと、宇治・田辺丘陵～奈良西部にかけて分布する地層群とに分けられる。図3-1-8は大阪層群の主要な分布域ごとの模式柱状図とその対比を示したものである。

深草丘陵と向日市～西京区の丘陵地域では、ピンク火山灰層の10～15m下位からMa7の約50m上の層準までの地層（大阪層群下～上部層）が露出している。層厚は130～170m、ピンク・アズキ・サクラなど6層の火山灰層とMa1～Ma7の海成粘土層を挟む砂礫層とシルト・粘土層の互層からなる。

アズキ火山灰層の下から、メタセコイア植物群の化石を産するほか、ミツガシワなどの第四紀寒冷型植物化石も報告されている。また海成粘土層からは、ハイガイ、淡水成粘土層からはドブガイ・シジミなどが産出している。また、深草のMa5とMa6の間からトウヨウゾウの臼歯化石が発見されている。

京都南部の宇治丘陵及び京阪奈丘陵に分布する大阪層群は、図3-1-8に見られるように、普賢寺火山灰層の50～60m下位からMa2の20～30m上位の層準の地層、すなわち大阪層群最下部の上半部～下部である。これらの地層は、西部では一般に東へ、東縁部では西へ緩く傾斜するが、この地域に多く見られる南北方向の撓曲や断層沿いでは急傾斜している。

宇治丘陵の本層は、層厚約240mの砂礫を主とする地層で、下位から、約50mの淘汰の悪い礫層とシルト層との互層、約160mのチャート礫を含む砂礫層、及び約30mの上部にサンドパイプの密集した層を含む砂礫層に分けられる。

京阪奈丘陵では全層厚は300mで下部は約60mの砂・シルト層、中部は約80mのチャートの礫を主とした礫層、上部は約30mでサンドパイプの密集した層を挟む砂礫層からなっている。

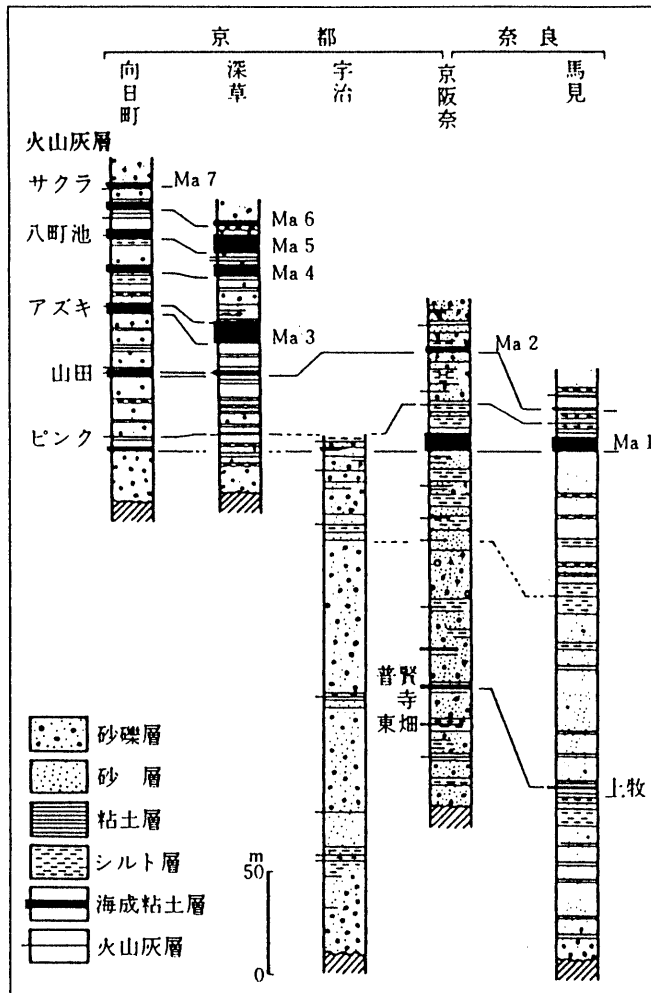


図 3 - 1 - 8 京都盆地・奈良盆地の大阪層群柱状図
(日本の地質6・近畿地方 -1987-による)

b. 中・上部更新統

京都盆地周辺に分布する中・上部更新統は、高位段丘構成層・中位段丘構成層及び低位段丘構成層である。

高位段丘構成層：は、砂礫層を主とし、宇治市南西の神明神社北方の尾根、向日市物集女西方の尾根、京都市北区の鷹峰などに分布している。また、盆地南方の木津川流域には、標高60～90mの高位段丘構成層が各所に分布している。

中位段丘構成層：は、鴨川上流の京都市北区終野と西加茂の標高100m付近の面や北区紫竹西方の標高90mの面を構成する礫層、北区の紙屋川添いの崖錐堆積物に覆われる礫層、向日市西の小畑川添いの段丘礫層、長岡京市奥海印寺の北から長岡天神にかけての面を構成する砂礫層などである。

盆地東縁では、伏見区乃木神社の礫層・宇治市伊勢田から南陵町にかけての面（標高25～45m）・宇治市矢落～善法間の面（標高35～55m）・木津川流域では城陽市市の久保の面（標高42～46m）・同水渡阪の面（標高56m）・同中の面（標高62m）など・井手町の標高70～80mの面・田辺町の標高48～60mの面・木津町の標高54～60mの面などが中位段丘面とされており、主に礫層によって構成されている。

低位段丘構成層：長岡京市西方に分布する現河床から3～5mの比高をもつ段丘面を形成している。その他にも盆地の各所に見られる扇状地はこの時期に形成されたと考えられている。

木津川流域では、宇治市陰山の面・城陽市長池の面（標高30～37m）・玉川北岸の面（標高58～80m）・同南岸の面（標高40～65m）・大里付近の面（標高40～42m）・椿井付近の面（標高45m）などが”下位段丘”とされているが、京都盆地の低位段丘との対比は十分ではない。

c. 完新統

京都盆地の沖積層の大部分は砂礫層であるが、殆どの地域ではその上部が細粒堆積物（砂層や粘土質堆積物）で覆われている。しかし表層の細粒堆積物の厚さは著しく変化している。すなわち伏見区竹田から北部では層厚が2m以下であるが旧巨椋池周辺では10m程度、もっとも厚いところで14mとなっている。

(2) 亀岡盆地及びその周辺の第四系

亀岡盆地はその東端を亀岡断層崖によって直線上に境され、西縁は入り組んだ断層角盆地である。盆地内には篠町層・段丘構成層・沖積層が分布する。

a. 鮮新～更新統（大阪層群相当層）

盆地南西部の丘陵を構成する礫・砂・粘土からなる地層（層厚約50m）は篠町層（上治-1961-）と呼ばれている。篠町層は亜炭層を挟みその中に含まれる植物遺体から大阪層群上部に対比されている。

b. 中・上部更新統

盆地北縁の瓜生野や温井などの標高150～170m段丘面を構成して、高位段丘構成層が分布する。層厚5～10mの亜角礫～亜円礫からなり、大堰川が由良川水系から桂川水系へ転換した直後の堆積物と考えられている。

盆地南半部で標高100から120mの広い平坦面を形成して低位段丘堆積層が分布する。層厚2～5mの主として風化していない砂礫層からなるが、後背湿地部には粘土層や泥炭層がみられる。泥炭層に含まれる植物遺体から最終氷期の末期に堆積した地層と考えられている。

c. 完新統

盆地内部は沖積層で覆われるが、盆地内のボーリング資料によると、上部71mまでは砂礫、それ以下は粘土と砂礫の互層となっている。このボーリングでは地表下168mで基盤岩に達しており、深度145mや162m付近の粘土層の花粉組成は大阪層群のMa3～Ma5に相当するとされている（塩野-1987-）。

(3) 由良川沿いの第四系

由良川水系には福知山盆地とその周辺地域に段丘がよく発達している。それらは、古いものから長田野面・南陵面・堀面・猪崎面・沖積段丘面と呼ばれている。

長田野面は、標高70～90mで、段丘構成層は層厚100mを越える砂礫層からなる。高位段丘に対比されているが、段丘堆積層の下部は大阪層群相当層を含む可能性もあると考えられている（那須・天白-1987-）。

南陵面は浸食面で、層厚4m前後のベニア礫層によってされ、中位段丘に対比されている。竹田川流域の標高75mから河口部の標高3mまで高度を下げながら各地に転々と分布する。

堀面・猪崎面は福知山盆地とその周辺にのみ分布する低位段丘群で、浸食段丘面である。

(4) 日本海沿岸の第四系

海岸線の屈曲が激しい典型的なリアス式海岸を示す若狭湾西部地域と海岸段丘や砂丘が分布し直線的な海岸線を示す丹後半島地域に分けられる。

若狭湾西部地域は主として河川の河口にわずかな沖積層が発達するのみで、

第四系の発達に限られている。

高位段丘構成層：丹後半島の海岸部に標高50～70mの海岸段丘が分布する。竹野郡丹後町間人の石切場では、63mの高度の所に厚さ3mの砂礫層があり、その上部は海成砂層となっている。竹野川流域には標高40～70mの定高性の丘頂面が連なり、それらは堆積面に近いものと考えられている。この堆積物は溝谷層と呼ばれ、層厚5～20mの河成砂礫層が主で、上部は花崗岩質砂層が多い。構造はほぼ水平であるが、溝谷東方では逆断層によって撓曲が生じている。

中位段丘構成層：連続性のよい海岸段丘で、段丘面はH₂・M・Lの3面に区分されている。

H₂面は標高40～55mで模式地の竹野郡丹後町願興寺では7mの海成砂層が基底の波食面を覆っている。段丘面は上流側へ高度を下げ、標高25～40mの河岸段丘へ続いている。

M面は標高10～40mの広い平坦面で、波食面を覆う層厚1m以下の砂礫層の堆積面である。しかし、丹後町上野や久美浜町神崎ではその厚さは10～20mにもなる。M面構成層の最上部は褐色風化土となり、それを大山倉吉軽石層が覆っている。

L面は丹後町を中心に断片的に分布する波食面で、標高15～20mである。丹後町経ヶ岬や間人では層厚2mの海成の砂礫層が乗っている。

以上4つの段丘面の汀線高度は、網野以東では西へ傾動する傾向が認められる。

低位段丘構成層：河川の上流域に河岸段丘として低位段丘が分布する。中郡峰山町・大宮町付近に標高20～40mの平坦面がみられ、2～5mの砂礫層がのっている。

4) 地質構造発達

近畿地方の地質構造発達史については、日本の地質6、「近畿地方」(1986)の中で、市川浩一郎・中沢圭二・市原実・清水大吉郎が詳細に論じている。

ここでは、上記の研究によって、京都府下の地質構造発達の概要をまとめておくこととする。

近畿地方に発達する地層・岩石の時代毎の分布は、清水(1986)によってまとめられているが、そのうち京都府の関係分を示したのが図3-1-9である。この図を見れば分かるように、古生代中期以前の岩類は京都府下にはなく、また近畿地方全般にもほとんど存在しない。

すなわち、古生代中期以前の日本列島は、未だ誕生していなかったのである。一方、飛騨・北上山地・高知などに分布する日本最古の岩石は、古生代中期以前のシルル～デボン紀を示している。しかし、これらの岩石は元来その場所にあったものではなく、南半球の赤道～中緯度地方にあった Gondwana 大陸の一部であったと考えられている。それがペルム紀になって、Gondwana 大陸の分裂・移動に伴って、北方に移動し中朝(中国・朝鮮)大陸に附加し、初めて大陸の南縁に日本列島の土台が築かれたと考えられている(平朝彦-1990-など)。

このように、日本列島の発達史は、中・朝大陸を形成する大陸プレートと海洋プレートの収束境界における活動史として捉えることができる。それは、活動的縁辺域での現地性の陸源碎屑層が、異地性の海洋性岩類(大洋地域の玄武岩類から成るいわゆる緑色岩類・遠洋性泥岩・石灰岩及びチャート)や小古陸または古島弧ともに、大陸へ附加・合体し地質構造が作られていった歴史であり、同時に進行していった大陸縁辺域での火成活動の歴史でもある。しかし、このような傾向が続くのも新生代前半までである。新生代後期の中新世になると、日本海が縁海として誕生し、日本列島は島弧としての発展過程をたどることになる。

以上のような日本列島の発展過程を頭に置きながら、京都府下の地質構造発達を「古生代後期から中生代中期」「中生代後期から新生代前半」「新生代後半」の三つの時期に分けて説明することとする。

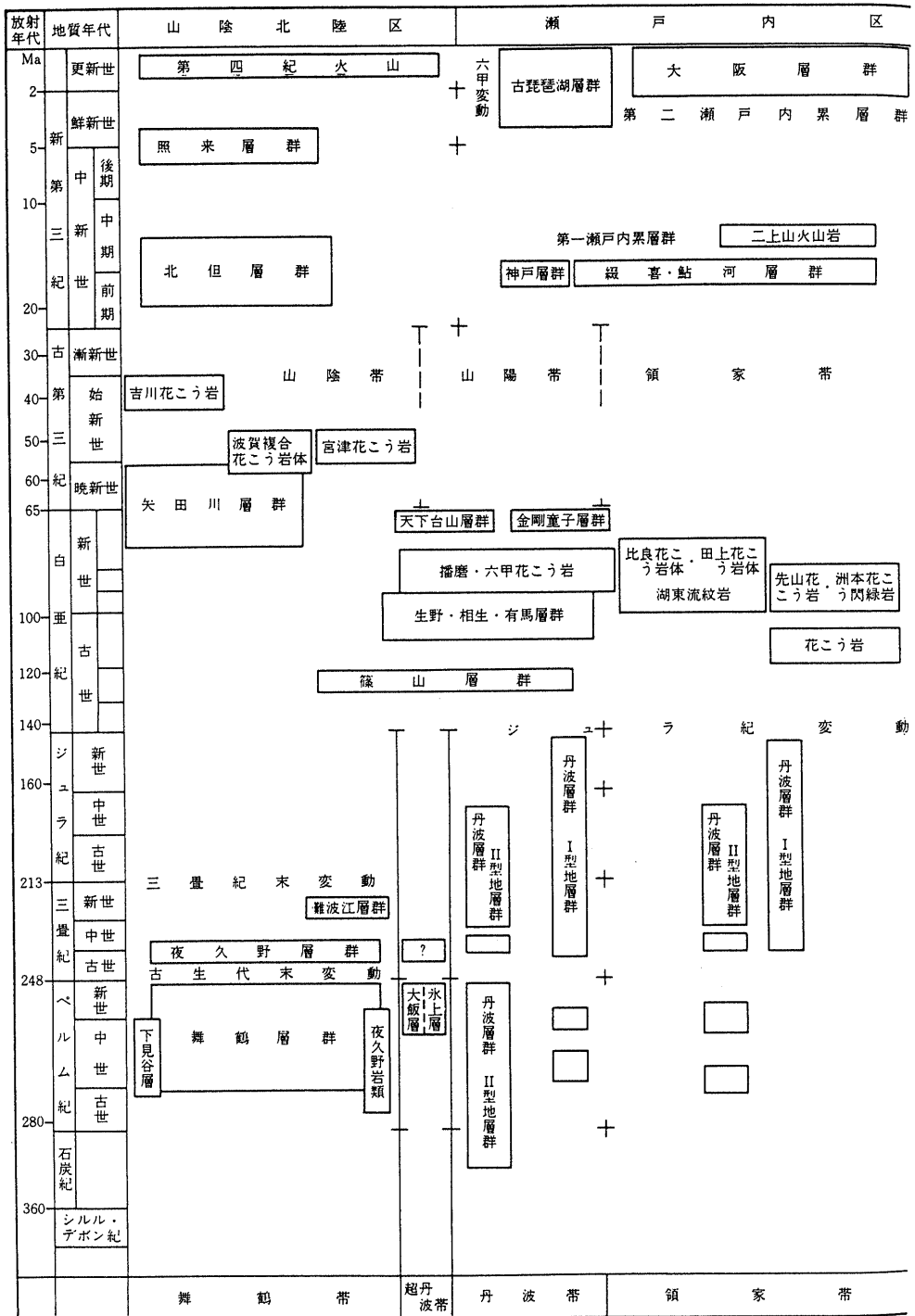


図3-1-9 近畿地方の地質と岩石の時代ごとの分布図 (清水：編図-1986-抜粋)

(1) 古生代後期から中生代中期

中国地方の古生代の石灰岩は、石炭紀中期以後の海底火山に形成されたもので、ペルム紀中期まで堆積作用が続き、ペルム紀後期には当時の大陸に附加・合体したものと考えられている。その前縁には舞鶴帯の堆積盆地が形成され、超丹波帯は恐らく舞鶴帯南縁での附加体であったのであろう。丹波帯から南部のペルム紀や三疊紀の岩石の大部分は海洋性岩類であり、当時はかなり低緯度に広がる広い海洋で形成されたものと考えられている。次の地域ごとにやや詳しく説明することにする。

舞鶴帯及びその北側地域： 舞鶴帯の北側のいわゆる丹後一但馬帯は、白亜紀以降の火成岩や堆積岩が広く分布し、その間に中国地方からの延長と見なされる先白亜系の基盤岩類がごく狭い範囲に分布している。これらの地層は、舞鶴層群と一部同時異相の関係にあるが、全体としては舞鶴層群よりやや古くその時代と岩相は中国地方の非石灰岩相の古生界に似ている。そして、舞鶴層群の中・上部の岩相は、全体として上方へ粗粒となり、また北方へも粗粒となり厚くなる傾向にある。

このようなペルム系の分布とその岩相変化から、舞鶴帯はペルム紀中頃には張力の応力場にあり、海底火山活動による緑色岩類が形成された。これは北方から陸源物質が供給される比較的陸に近いところであったと考えられる。その後、ペルム紀末になって、北方地域が隆起し、全体として浅海になっていった。中国地方では、ペルム紀新生に秋吉石灰岩に代表される石灰岩体が付加し、このとき現在の石灰岩相と非石灰岩相の分布が作られたとされている。舞鶴帯北側の大江山岩体（超塩基性岩体）の隆起はこのような付加作用の結果と考えられており、この岩体は飛騨外縁構造体の延長であるとする考えもある。

なお、夜久野岩類の成因については、従来、火成岩類は古生代後期～中生代初期の変動時貫入岩体とし、片麻岩や細粒角閃岩を古い基盤岩の断片と考えられてきたが、海洋地殻を構成するオフィオライト岩類が變成作用を受けたものと考えられるようになった。

舞鶴層群上部～中部の礫岩には古生界の礫のほかに、各種の夜久野岩類の礫を含むこと、舞鶴層群自体が三疊系の志高層群に不整合に覆われることなどから、舞鶴帯北帯の夜久野岩類は、ペルム紀新世には中国地方の古生層が大陸へ付加し上昇するとともに、隆起し削剥されたものと考えられている。

また、上部三疊系を示す難波江層群は、浅い陸棚相を示し、石炭層を挟み、その分布が舞鶴帯の南縁部に限られることから、三疊紀末には堆積盆地は狭くなりジュラ紀には陸化したと考えられる。

超丹波帯： 舞鶴帯と丹波帯との間に位置する超丹波帯は、①その上限がジ

ユラ紀に及ぶ丹波帯の地層群よりも古い②その放散虫化石群は丹波帯・舞鶴帯の同時代のいずれのものとも似ていない③地層の配列は丹波帯のそれと異なり、むしろ舞鶴帯に平行し、舞鶴帯によって衝上され、丹波帯へ衝上している。

これらのことから、超丹波帯は三疊紀における舞鶴帯への附加体を成していると考えられている。恐らく、三疊紀になると沈み込み帯が舞鶴帯南縁に移行し、舞鶴帯は陸弧—海溝間盆地となり、超丹波帯の付加課程の進行につれて隆起した。三疊紀末には南縁の夜久野岩類も上昇し、舞鶴帯の基本的な構造が完成されたものであろう。

丹波帯：丹波帯の上部古生界は、緑色岩類—石灰岩層とチャート—粘板岩層であり陸源物質に乏しい。このことから、石炭紀新世～ペルム紀初期に広い海域の中で海底火山活動が始まり、その火山の上に石灰岩層が形成されたと考えられている。チャート—粘板岩層は、海底火山の周辺に堆積したもので、石炭紀新生～ペルム紀新生の連続した層序を示している。

また、質志のペルム紀石灰岩は上部三疊系によって不整合に覆われているが、この不整合は古生代末の世界的な海退現象と関連して形成された可能性がある。

三疊紀～ジュラ紀の丹波帯の地層は、遠洋域を示す地層から陸に近いターピタイト層やオリストストロームへと変わる。しかしその移行の時期は、丹波層群のI型地層群ではジュラ紀新世に移行するのに対して、II型地層群では、三疊～ジュラ紀古世に移行する。

以上のことから、I型地層群とII型地層群は広い海域中の別々の場所で形成されジュラ紀末の断層運動で重なったものと考えられている。

(2) 中生代中期—ジュラ紀変動—

広い海域に堆積した丹波帯の地層は、ジュラ紀に入って次第に大陸へ付加していった。その後さらに南の古領家や黒瀬川の古陸塊も大陸に衝突・付加し、これまでの海域は消滅した。同時に、陸地が拡大し衝突の応力によって、隆起して複雑な地質構造が作られた。丹波帯の基本構造と言われる、II型地層群がほぼ水平にI型地層群上に衝上したデコルマン構造や丹波帯のチャートや石灰岩の覆瓦構造はこの変動時の産物と推定されている。

(3) 中生代後期から新生代前半

白亜紀から新生代の新第三紀中新世初期までの時代は、アジア大陸と合体して大陸となった舞鶴帯・丹波帯などの地域とその南に広がる四万十累層が形成された海域があった。そして、この四万十累帯も順次北の大陸へ付加し、中央構造線が作られ、現在の京都府下の地域では酸性の火山活動が活発になった。

先ず白亜紀の初めには京都府の南の領家帯では、領家変成作用と領家古期花崗岩の活動が進行した。また、この時期には内側の丹波帯に大きな褶曲群（周

山向斜・八丁背斜など)が形成され、京都府の南側に中央構造線が誕生した。

続く白亜紀の中頃には、領家帯に分布する火成岩が形成され、さらに府の南西部に分布する有馬層群の酸性の火山岩類とそれに続く花崗岩類が形成された。

古第三紀の前半になると、火成活動はさらに北の山陰帯に移り、宮津花崗岩体が形成された。

(4) 新生代後半

新生代前半までに、近畿地方の帯状構造が形成されたが、新生代の後半前期中新世の後期以後は日本列島は新しい構造運動の時期に入った。すなわち、堆積作用や火山活動は日本海側の「山陰北陸区」・瀬戸内海周辺の「瀬戸内区」・太平洋側の「南海区」に分かれ発展する。

近畿地方の新第三紀・第四紀の古地理と構造発達史は、瀬戸内区の地層群を基準にまとめられている。図3-1-10は、市原(1966)による中新世前期から更新世中期までの瀬戸内区とその周辺の発達史をまとめたものである。この図によって京都府下の新生代後半の地層の発達を概観してみよう。

中新世前期末～中期前半にかけては、図3-1-10aに見られるように、東瀬戸内の海進が京都府南部に進み、淡水域となっており、日本海側の山陰北陸地区では陸水性～海成の豊岡層が堆積している。なお、このころ丹波高原には中新統の分布は知られておらず陸地となっていたと考えられている。

中新世中期～後期(図3-1-10b)になると近畿地方の大部分は陸化し瀬戸内火山岩類の活動が活発になるが、やがてそれも止み後期中新世には静穏な陸化・浸食の時代となる。山陰・北陸地区でも同じように陸化・浸食の時代であったが、後半にはいと流紋岩の火山活動が始まり、安山岩・玄武岩を伴う湖成層の堆積がそれに続き、照来層群が堆積した。

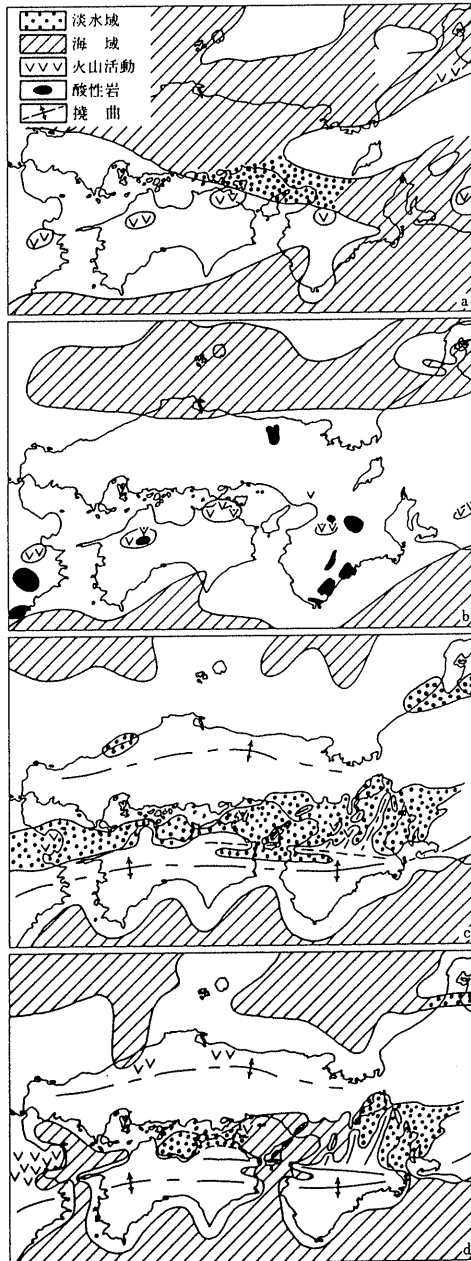
鮮新世～中期更新世の時代(図3-1-10c)は、大阪層群及びその相当層の堆積の時代である。鮮新世になって瀬戸内の沈降帯が生じ、大阪層群の堆積盆地が形成されたが、初めは湖成層～河成層の堆積の場であった。このころ山陰北陸地区では一般的な隆起が進み照来層群の上半部が堆積した。

更新世の前期後半から中期になると、大阪層群の堆積盆地に海が紀伊水道から進入し、海成層が堆積した。このころ山陰北陸区は一般に隆起を続けたが、日本海域は沈降の場であった。

大阪層群の堆積盆地を作った沈降運動やその後の隆起運動は「六甲変動」と言われているが、この六甲変動が最盛期に達したのは更新世中期末である。この時期は、丘陵構成層である大阪層群の時代から段丘構成層の時代への移行期で、現在の地形の原型はこの時代に形成されたと考えられている。

中期更新世末以降は、現在の地形の完成期である。京都盆地の沈降・後背山

地の隆起と氷河性海水面変動とが相まって、高位・中位・低位段丘構成層と沖積層が次々に堆積した。また、山陰北陸地域では一般に陸地は隆起し、海域は沈降し、河川や海岸添いには段丘構成層や沖積層が形成されたのである。



- a. 中新世前期末～中期前半
- b. 中新世中期後半または後期のはじめ
- c. 鮮新世～前期更新世前半
- d. 更新世の前期後半～中期

図 3 - 1 - 1 0 瀬戸内区の発達史 (市原 -1966-)

- 地形地質に関する文献 -

- 国土庁土地局(1976):土地分類図(京都府)縮尺1/20万
東洋一(1977):京都府奥丹後半島における中新統の層序について. 京都地学, 6, 1-6
安養寺寿樹・本田輝政・石賀裕明・田辺利幸(1987):日本の地質6, 近畿地方, 第2章(2・3), 共立出版
藤田和夫(1983):日本の山地形成論・地質学と地形学の間、蒼樹書房、466p
藤田 崇(1982):近畿地方の地質分帯と地すべり変動、地すべり、18,29-38
深草団体研究会(1962):近畿地方の新期新生代層の研究I—京都東南、深草付近の新生代層—. 地球科学, 63,1-9
藤原重彦(1982):京都市の地盤について、応用地質学の最近の研究,121-130, 日本応用地質学会関西支部
広川 治・黒田和男(1957a):5万分の1地質図幅「冠島」及び同説明書. 地質調査所, 12p.
広川 治・黒田和男(1957b):5万分の1地質図幅「鋸崎」及び同説明書. 地質調査所, 22p.
広川 治・磯身 博・黒田和男(1957):5万分の1地質図幅「小浜」及び同説明書. 地質調査所, 31p.
広川 治・東郷文雄・神戸信和(1954):5万分の1地質図幅「但馬竹田」及び同説明書. 地質調査所, 51p.
広川 治・黒田和男(1960):5万分の1地質図幅「宮津」及び同説明書. 地質調査所, 31p.
池辺展生・弘原海清・松本隆(1965):北但馬・奥丹後地域の第三系火山層序、日本地質学会第72年年会見学案内書、28p
井本伸広・清水大吉郎・武蔵野実・石田志朗(1989):京都北西部地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 地質調査所, 84p.
井本伸広・松浦浩久・武蔵野実・清水大吉郎・石田志朗(1991):園部地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 地質調査所, 68p.
猪木幸男・黒田和男・服部 仁(1961):5万分の1地質図幅「舞鶴」及び同説明書. 地質調査所, 50p.
猪木幸男・黒田和男(1965):5万分の1地質図幅「大江山」及び同説明書. 地質調査所, 81p.
猪木幸男・弘海原 清(1980):上郡地域の地質, 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅). 地質調査所, 74p
石田志朗(1981):5万分の1土地分類基本調査「大阪東北部・奈良・上野」.46-55. 京都府
石田志朗・糸魚川淳二・森島正夫・森下晶・中沢圭二・小黑讓司(1954):京都府奥山田の新生代層. 地質雑.60,160-166
石田志朗(1983):土地分類基本調査, 園部・広根5万分の1国土調査. 京都府, 81p, 表層地質図及び同説明書.
石田志朗(1984):土地分類基本調査, 綾部5万分の1国土調査. 京都府, 125p, 表層地質図及び同説明書.
石田志朗・河田清雄・宮村学(1984):彦根西部の地質. 地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所
石田志朗(1987):日本の地質6, 近畿地方第3章(3・1), 共立出版

- 石田志朗・久富邦彦(1987):日本の地質6, 近畿地方第3章(3・2), 共立出版
- 石田志朗・佐藤隆春(1987):日本の地質6, 近畿地方第3章(3・2), 共立出版
- 石賀裕明(1987):日本の地質6, 近畿地方第2章(2・3), 共立出版
- 石賀裕明(1983):”丹波層群”を構成する2組の地層群について, 丹波帯西部の例. 地質雑, 89, 443-454
- 石賀裕明(1985):丹波帯の中・古生界の年代と構造形成. 地球科学, 39,31-43
- 石渡明(1978):舞鶴帯南部の夜久野オフィオライト概報. 地球科学, 32,301-310
- 黒川勝巳・清水大吉郎(1987):日本の地質6, 近畿地方, 第2章(2・2), 共立出版
- 河田清雄・宮村学・吉田史郎(1986):20万分の1地質図幅「京都及び大阪」. 地質調査所.
- 神戸信和(1950):京都府加佐郡志高地方の地質. 地質雑, 56,119-124
- 神戸信和(1951):京都府北部の志高層群. 日本三疊系の地質,48-55, 地質調査所
- 神戸信和・広川治(1963):5万分の1地質図幅「佐用」及び同説明書. 地質調査所,
- 木村克己・牧本博・吉岡敏和(1989):綾部地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 地質調査所, 104p.
- 木村克己・中江・高橋(1994):四ッ谷地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅), 地質調査所, p.
- 近畿地方土木地質図編纂委員会(1981):近畿地方土木地質図及び同解説書. 国土開発技術センター
- 近畿農政局(1973):農業用地下水調査, 開発調査. 亀岡盆地地区調査報告書,25p.
- 近畿農政局(1979):農業用地下水利用実態調査報告書.13-14・18-23
- 近畿・東海地方新生代研究グループ(1973):近畿・東海地方における鮮新世・最新世の構造運動. 地球科学, 35,312-320
- 沓掛俊夫(1987):日本の地質6, 近畿地方第2章(2・4), 共立出版
- 楠利夫・貴治康夫・丹波帯研究グループ(1987):日本の地質6, 近畿地方・第2章(2・3), 共立出版
- 栗本史雄(1986):京都府福知山地域の超丹波帯, 構成岩類と分布について. 地球科学,40,64-67
- 中沢圭二・野上裕生(1958):京都府大江町河西付近の中・古生層. 地質雑, 64,68-
- 中沢圭二・志岐常正・清水大吉郎(1957):京都府夜久野地区の中・古生層. 地質雑. 63,455-464
- 中沢圭二・志岐常正・清水大吉郎・野上裕生(1958):舞鶴地帯の中・下部三疊系総括. 地質雑. 64,125-137
- 中沢圭二(1987):日本の地質6, 近畿地方第2章(2・2), 共立出版
- 西山岡研グループ(1967):京都盆地南西, 西山山麓の大阪層群. 地球科学. 21,1-10
- 農林水産省近畿農政局編(1983):京都府水理地質図. 農林水産省
- 大阪層群研究グループ(1951):大阪層群とそれに関連する新生代層, 地球科学, 6, 13-24
- 清水大吉郎・中沢圭二・志岐常正・野上裕生(1962):舞鶴層群の層序. 地質雑.68, 237-247
- 清水大吉郎・中沢圭二・志岐常正・野上裕生(1962):舞鶴層群の堆積と二疊紀構造運動—舞鶴地帯の層序と構造. 地質雑.68, 334-340
- 清水大吉郎(1987):日本の地質6, 近畿地方第2章(2・1,2・2), 共立出版
- 滋賀県・京都府(1982): 国土調査土地分類基本調査. 京都東北部・京都東南部・水口5万分の1, 220p.
- 鈴木茂之・杉田宗満・光野千春(1982):舞鶴地域における舞鶴層群の層序と地質構

- 造. 地質雑. 88,835-848
- 田結庄良昭(1987):日本の地質6, 近畿地方第2章(2・4), 共立出版
- 丹波地帯研究グループ(1969):丹波地帯の古生界(その1). 京都府北桑田郡京北町東部の古生層. 地球科学, 23,187-193.
- 丹波地帯研究グループ(1972):丹波地帯の古生界(その2). 京都府北桑田郡京北町南部の古生層. 地球科学, 25,211-219.
- 丹波地帯研究グループ(1974):丹波地帯の古生界(その3). 京都市北方大森・雲ヶ畑地域の古生層. 地球科学, 28,57-63.
- 丹波地帯研究グループ(1979a):丹波地帯の古生界(その4). 京都市北西山地の中・古生界の岩相と地質構造. 地球科学, 33,137-143.
- 丹波地帯研究グループ(1979b):丹波地帯の古生界(その5). 京都市北西山地の中・古生界のコノドント化石. 地球科学, 33,247-257.
- 丹波地帯研究グループ(1980):丹波地帯の古生界(その6). 京都府北桑田郡京北町東南部の地質. 地球科学, 34,200-204.
- 丹波地帯研究グループ(1990):丹波地帯の中・古生界(その7). 福井県遠敷郡名田庄村南部地域に分布するI型地層群. 地球科学, 44,77-90.
- 田辺利幸・井本伸広・丹波地帯研究グループ(1987):日本の地質6, 近畿地方・第2章(2・3), 共立出版
- 植村義博(1989):京都北部, 中丹地域の活断層. 活断層研究, no.6,P.55-63.
- 弘原海清・池辺展生・松本隆(1965):近畿北部の第三系の対比、松下進教授記念論文集、105-116
- 吉田源市・西橋秀海(1987):日本の地質6, 近畿地方第2章(2・5), 共立出版
- 吉岡敏和(1987):京都盆地周辺部における第四紀の断層活動及び盆地形成過程. 第四紀研究, vol.26,p.97-109.

4 土 壤

京都府における土壌は、土壌群11、土壌統群26に分類されている（国土庁土地局、1976）。

表 3 - 1 - 9 土 壤 統 群 一 覧 表

土 壤 群	土 壤 統 群
岩石地	岩石地
岩屑土	岩屑性土壌
未熟土	残積性未熟土壌 粗粒残積性未熟土壌 砂丘未熟土壌 人工未熟土壌
黒ボク土	黒ボク土壌 多湿黒ボク土壌
褐色森林土	乾性褐色森林土壌 乾性褐色森林土壌（黄褐色系） 乾性褐色森林土壌（赤褐色系） 褐色森林土壌 湿性褐色森林土壌
ポドゾル土	乾性ポドゾル化土壌
赤黄色土	赤色土壌 黄色土壌 暗赤色土壌
褐色低地土	褐色低地土壌 粗粒褐色低地土壌
灰色低地土	細粒灰色低地土壌 灰色低地土壌 粗粒灰色低地土壌
グライ土	細粒グライ土壌 グライ土壌 粗粒グライ土壌
泥炭土	黒泥土壌

土地分類図・京都府（1976）国土庁

(1) 岩石地

丹後半島・栗田半島・大浦半島などの日本海・若狭湾沿岸部の海食崖及び南丹地域、京都・山城地域などの溪谷に接する急斜面に分布している。磯波によって浸食を受けた露岸地または土壌層のほとんどみられない基岩の露出地が主体となっている。

(2) 岩屑土

大江山連峰（最高峰832.6m）を構成するかんらん岩・蛇紋岩などの超塩基性岩の崩壊によって堆積した崖錐の土壌である。一般に急斜面で、表面浸食を受けて層位の発達是不完全である。

(3) 未熟土

この土壌は、浸食の影響を強く受けて土層の一部が欠如された土壌（残積性未熟土壌、粗粒残積性未熟土壌）、母材が比較的新しい堆積物であって、また層位の分化が不完全な土壌（砂丘未熟土壌）、タケノコ畑及び竹材生産用の竹林（モウソウチク）として人為が加えられ、自然土壌とは異なる土壌（人工未熟土壌）の4土壌統群に分類される。

a. 残積性未熟土壌

丹後地域北西部の兵庫県に接する日本海沿岸部の新第三紀の固結堆積物（礫岩・砂岩など）よりなる小起伏山地、中丹地域の長田野洪積台地、京都市東北部の古生代の固結堆積物（主として砂岩）よりなる小起伏山地及び大起伏丘陵地、京都市東南部の大阪層群よりなる桃山丘陵などに分布している。

表面浸食により、層位の発達が不完全な土壌で、A層を欠いていることが多く、母材の特徴が強くあらわれている。

b. 粗粒残積性未熟土壌

宇治市南部の宇治丘陵に分布している。残積性未熟土壌のうち、とくに砂質及び砂礫質の土壌である。丘陵地の斜面では土壌の移動性が強く、層位の発達は悪い。

c. 砂丘未熟土壌

丹後半島の北岸ないし北西岸及び宮津湾の北西岸・栗田湾の南岸・由良川河口などの帯状に分布している。

砂丘地及び砂州にみられる粗粒質（砂質）の土壌である。土層の分化はきわめて弱く、下層土は一般に彩度の低い黄褐色から灰褐色、ときには灰色を呈していることがある。砂丘土壌はその生成過程からみて構成粒子が大きく、粗砂・細砂部分が90%以上占めている。表層における腐植含量は低く、保水力・保肥力などが著しく劣っている。

d. 人工未熟土壌

主として大阪層群の地層よりなる京都西山丘陵などに分布している竹林（コウソウチク）の土壌である。これらのなかには、タケノコ栽培を目的とした畑地と竹材の生産を目的とする林地の2つがある。

タケノコ畑は、普通、毎年300kg/10a前後のしきわら及びタケノコ畑と

母材を同じくする土壌で、タケノコ畑近辺で採取される30～50t/10aの客土が行われている。

したがって、長年の間には50cmないし100cm以上に及ぶ人工の土層が形成されている。現在竹林のところも、かつてはタケノコ栽培が行われており、土壌面からみて、竹林とタケノコ畑との区別は必ずしも明瞭ではない。したがって、これらの土壌を一括して、人工未熟土壌とした。

(4) 黒ボク土

火山灰等を母材とした黒色を呈する土壌である。黒ボク土壌と多湿黒ボク土壌がある。

a. 黒ボク土壌

府後半島の尾根にあたる中起伏山地の碓高原、大江山連峰中起伏山地の赤石岳及び江笠山、中丹地域西部の小起伏山地・火山性丘陵地、大起伏山地にあつて残丘地形をなしている長老ヶ岳、中丹・南丹地域の小起伏火山地、中丹地域の砂礫台地（中位）などに点在している。これらは、いずれも緩斜面に出現している。火山放出物の風化堆積物の上部に黒色ないし黒褐色（明度・彩度ともに2以下）の非泥炭質の腐植が集積した土壌である。

黒色を呈するA層の厚さは25～50cmであつて、A層からB層への推移状態は明瞭である。母材は非固結火成岩（火山灰）を主としているが、非火山性の母材が混在するものも一部にみられる。

b. 多湿黒ボク土壌

黒ボク土壌等が水による運積によって二次的に堆積したもので、その厚さはおおむね50cm程度であり、下層にグライ層の出現する土壌もある。これは府下各地の黒ボク土壌の分布地の低地に分布し、中丹、南丹地域に比較的多くみられる。

(5) 褐色森林土

褐色森林土は京都府の山地土壌の代表的なものであり、分布面積、範囲ともに他の土壌よりも、特に多く出現している。

これらは、さらに下記の5土壌統群に分類される。

a. 乾性褐色森林土壌

府下全域にわたって広く分布している。主として山腹上部から尾根筋にかけて出現している。A層及び粉状・粒状・堅科状などの土壌構造がよく発達し、A層はうすく、B層との境界は明瞭である。一般に酸性が強く、養分に乏しい。

b. 乾性褐色森林土壌（黄褐色系）

南丹地域及び京都・山城地域の小起伏山地など標高400m以下の低山地に

分布している。山腹から尾根筋にかけて出現しているが、乾燥の影響を強く受けて、A₀層や細粒状構造などがよく発達している。A層の厚さは比較的うすく、腐植含量は低い。

c. 乾性褐色森林土壌（赤褐色系）

丹後地域西南部の花崗岩の赤色風化の影響を受けた小起伏山地及び中丹地域、南丹地域、京都・山城地域の小起伏山地から大・小起伏丘陵地にかけて広く分布している。乾性褐色森林土壌（黄褐色系）とほぼ同一の地形に分布しているが、これと異なる点は、A層は黒褐色ないし暗赤褐色を呈し、粗しょうであること。

d. 褐色森林土壌

最も標準的な森林土壌で、本府では北緯35°から35°30′にわたる林地の主要な部分を占めている。中丹地域・南丹地域北東部及び京都・山城地域北部の中・小起伏山地などにまとまって分布している。一般に斜面の中下部や谷筋に出現しているが、壮年期山地の北斜面では尾根筋まで達している。A₀層はとくに発達しない。A層は厚く、土壌構造は団粒構造がよく発達している。

e. 湿性褐色森林土壌

中丹地域北西部、南丹地域北東部、京都・山城地域北部の谷や沢沿いに細長く分布しているが、その規模は小さい。斜面の下部、山脚部、凹型の斜面などに出現しているが、いずれも崩積土である。A層は腐植に富んでおり、とくに厚い。土壌構造は団粒構造がよく発達し、やや灰味を帯びたB層に漸変する。

(6) ポドゾル土

南丹地域北東部及び京都・山城地域北部の標高600m以上の中起伏山地の尾根、凸型斜面上部など乾燥の影響を強く受けやすいところに、局所的に出現している。寒冷な気候条件下にあるため、落葉の分解はきわめて悪く、A層のうち、とくに下層（腐葉層）が地表面に厚く堆積している。A層には灰白色の溶脱斑がみられる。B層は赤褐色ないし暗赤褐色を呈し、鉄の明瞭な集積層が認められる。

(7) 赤黄色土

赤色土壌は小起伏丘陵地及び砂礫台地などの緩斜面に出現している。過去の温暖期に生成され、浸食をまぬがれた前記の地形面に残存する古土壌である。黄色土壌は府下では、農地土壌として洪積台地及び河岸段丘などに分布し、黄色味の強い土壌である。暗赤色土壌は中・小起伏山地に分布し、赤色土壌のそれと類似するが明度・彩度ともに低く、暗赤的味の強い

土壌である。

a. 赤色土壌

丹後地域北西部の小起伏山地及び丹後地域北東部、南丹地域南部、京都・山城地域北西部（京都市西南部）にかけて、大・小起伏丘陵地に点在しているが、中丹地域の砂礫台地（中位）の一部にもみられる。A層の発達が悪い。一般にA層の腐植含量は低く、土色は黒褐色ないし暗赤褐を呈しているが、中にはやや淡色の灰黄褐色を呈しているものも一部にみられる。

b. 黄色土壌

表層又は次層が黄褐色の色調を持つ、細粒～粗粒質の未発達な台地土壌である。府下各地の山麓地、洪積台地及び開析谷底に分布している。

c. 暗赤色土壌

丹後地域南部から中丹地域北部にかけて、かんらん岩及び蛇紋岩などの超塩基性岩を母材とした中・小起伏山地にまとまって分布している。赤色土壌と類似するが、一般に土色は紫色味がかかっており、明度・彩度はいずれも低い。

(8) 褐色低地土

この土壌群は、表層下に黄褐色の色調をもつ土壌である。河川に沿った自然堤防、微高地に分布している。土性によって褐色低地土壌と粗粒褐色低地土壌の2土壌統群に区分される。

a. 褐色低地土壌

細粒～中粒質の土壌で、中丹地域の由良川沿岸及び京都・山城地域の木津川・桂川沿岸に分布している。

b. 粗粒褐色低地土壌

粗粒質の土壌で、京都・山城地域の木津川沿岸に小面積分布し、砂土の排水不良な特長を生かして果樹園（ブドウ）等として利用されている。

(9) 灰色低地土

表層及び次層、または次層が灰色～灰褐色の色調をもつ土壌である。各種形状の斑紋が出現し、また、地表下80cm以内にグライ層が出現しない土壌である府下各地の沖積地に広く分布し、ほとんどが水田として利用されている。この土壌群は地表下50cmの平均土性によって、細粒灰色低地土壌、灰色低地土壌、粗粒灰色低地土壌の3土壌統群に区分される。

a. 細粒灰色低地土壌

府下の沖積地に広く分布し、中丹地域の福知山盆地及び京都・山城地域の桂川流域に多く分布しており、ほとんどが水田として利用されている。

b. 灰色低地土壌

府下の沖積地に広く分布し、南丹地域の亀岡盆地、丹後地域の峰山盆地
上流部、及び京都・山城地域の木津川河谷上流部に多く、ほとんどが水田
として利用されている。

c. 粗粒灰色低地土壌

地表下50cm以内の平均土性が粗粒質もしくは、80cm以内に礫層及び砂礫
層のある灰色低地土で、府下各地の沖積低地に分布し、ほとんどが水田と
して利用されている。

(10) グライ土

地表下80cm以内にグライ層が出現する土壌である。地下水位が高いか排
水不良等によって、グライ層をもつ低湿地土壌で、ほとんどが水田として
利用されている。この土壌統群は地表下50cmの平均土性によって、細粒グ
ライ土壌、グライ土壌、粗粒グライ土壌の3土壌統群に区分される。

a. 細粒グライ土壌

丹後地域の半島部山間低地（地すべり台地上を含む）、中丹地域の福知
山盆地の丘陵間の低地、京都・山城地域の桂川、宇治川流域の低湿地に分
布し、ほとんどが水田として利用されている。

b. グライ土壌

土性が中粒質の土壌で、丹後地域の峰山盆地周辺の谷底沖積地、および
京都・山城地域の木津川河谷に主として分布し、ほとんどが水田として利
用されている。

c. 粗粒グライ土壌

地表下50cm以内の平均土性が粗粒質もしくは80cm以内から礫層あるいは
砂礫層の出現する土壌で、丹後地域の川上谷川下流、峰山盆地、野田川低
地下流部、および京都・山城地域の木津川下流部、宇治川両岸や、丘陵地
間の谷底に多く分布しており、いずれも、上流部に花崗岩地域があつて石
英砂を多く含む土壌である。

(11) 泥炭土

泥炭とは肉眼によって植物繊維が認められる程度に腐朽した植物残滓で
あるが、府下には泥炭をもつ土層はほとんどみられなく、黒泥層を持った
黒泥土壌のみがみられる。

a. 黒泥土壌

地表下80cm以内に厚さ30cm以上の黒色あるいは黒褐色の有機物に富み、
その分解が進み植物遺体のこん跡がほとんど認められない層を持ち、作土
下の土層は一般に灰色～灰褐色を呈している湿潤な土壌である。沖積地周

辺の微高地に存在し、府下各地に分布しているが、いずれも、きわめて小面積である。丹後地域の沖積地周辺部等にも小面積分布している。

5 海域

片山ほか（1993）によれば、本府近海の海底地形、海流、底質は以下のとおりである。

1) 海底地形

地質調査所（1993）によれば、本府近海の海底地形は以下のとおりである。

日本海の海岸線は一般に半島や湾などの出入りが少ないが、京都府から福井県西部には若狭湾が北方に向かって開口している。若狭湾湾央部の水深は約200～300mである。

陸棚の幅は経ヶ岬以西で10km前後、若狭湾内で20km前後である。陸棚の沖には水深約200～400mの縁辺台地（岩淵、1968；岩淵・加藤、1988）とよばれる平坦面が広がっている。陸棚外縁水深は経ヶ岬以西で140m前後、若狭湾で約125から140mであり、沖合の縁辺台地との間に明瞭な段差を形成している。縁辺台地は極緩く北に傾斜しており、海底面は平滑で海底谷はほとんど見られないが、ゲンタツ瀬付近に発し、ゲンタツ瀬西方をまわって北方に向かう小規模な海底谷が存在している。この海底谷はゲンタツ瀬西方までは明瞭な谷地形を示すが、若狭海盆南部に達し不明瞭となる。

経ヶ岬沖の縁辺台地の沖合には約2～10°の傾斜をもつ斜面を境として隠岐トラフが存在し、北東－南西方向にのびている。隠岐トラフはほぼ中央部にある最大比高約200mの段差によって南西部と北東部に分けられる。南西部の海底は水深約900～1,500mで北東にゆるく傾斜しており、北東部は水深約1,700～1,740mでほぼ平坦である。

隠岐トラフとほぼ平行に、その沿岸よりに越前堆列および若狭海丘列、沖合側に隠岐海嶺の3列の地形的高まりがある。越前堆列は浦島礁（ぐり）、ゲンタツ瀬、松出しなどの堆からなっており、若狭湾湾口部を形成している。ゲンタツ瀬の北西方には水深約700～1,300mの小海盆（若狭海盆と仮称する）がある。若狭海盆と隠岐トラフの間に水深約620mに達する若狭海丘列が位置する。若狭海盆の南西側は縁辺台地から徐々に深くなって連続しており、海盆底は全体として北東に向かって深くなっている。隠岐海嶺は隠岐トラフの北西方に位置し、最浅所的水深は約250mである。隠岐海嶺の北方には大和海盆が広がっている。

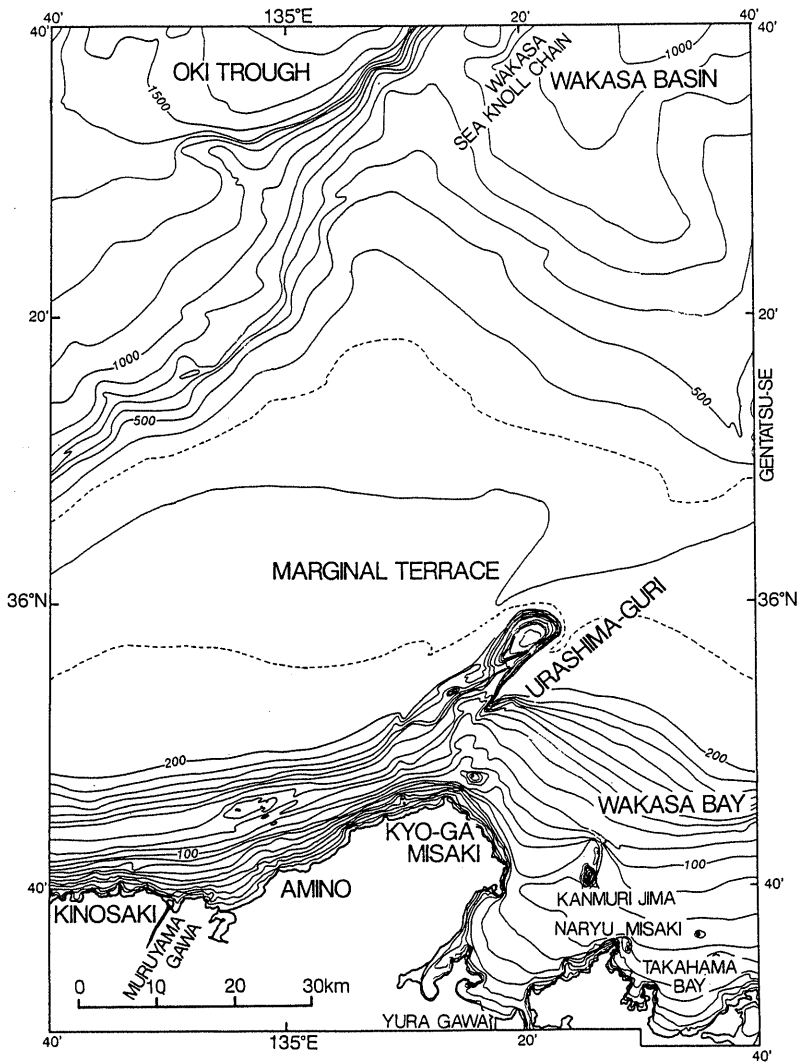
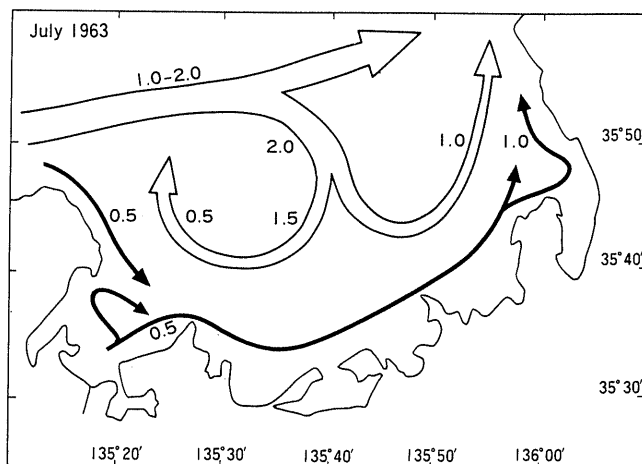


図 3 - 1 - 1 1 経ヶ岬沖海域の海底地形 等深線の単位はm
(地質調査所-1993-)

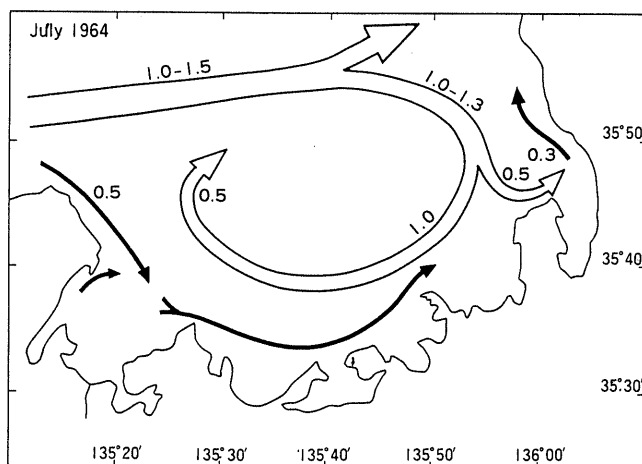
2) 海流

日本海に流入する対馬海流が、本府の海域付近で、隠岐海峡と隠岐諸島の北側を通ってきたものが合流し、沿岸近くを西から東に流れている（朝岡ほか、1985）。その流速は、ベクトル平均流速で0.2~0.4ノット、最大流速で1.5~2ノット程度である（海洋資料センター、1979）。

若狭湾の流れについては、季節変動等があるものの、概ね湾中央-湾東部から外洋水が流入し、湾西部では時計周りの循環流が卓越している（舞鶴海洋気象台、1965；朝岡ほか、1985）。1963-1964年の夏季における測定結果によれば、この循環流の流速は、流入部で1.0~2.0ノット、末端部で0.5ノット程度である（舞鶴海洋気象台、1965）。



(A) July 1963



(B) July 1964

図3-1-1-2 若狭湾内の流況例 舞鶴海洋気象台(1965)を簡略化 数字は流速(ノット)

3) 底質

陸棚上では砂質堆積物が分布し、それより沖では泥質堆積物が分布している。経ヶ岬以西の陸棚状の堆積物は主に淘汰の悪い砂質堆積物からなる。網野沖の陸棚上、浦島礁周辺は露岩域となっている。このうち網野沖では、海底微地形調査が行われ、褶曲構造を伴う基盤岩の露出が観察されている（池原ほか、1988）。若狭湾でも、由良川河口沖の泥質堆積物の分布を除いて、陸棚上には砂質堆積物が分布する。若狭湾の陸棚上の堆積物は、概して東部よりも西部の方が含泥率が高い。若狭湾湾央部には泥質堆積物が分布する。ゲンタツ瀬周辺及び若狭海丘列は露岩域となっている。縁辺台地、若狭盆地および隠岐トラフには、一般にオリブ黒から暗オリブ灰色を呈する泥質堆積物が分布するが、隠岐トラフおよび若狭海盆北部には、堆積物最表層に茶褐色の酸化層が見られる。

若狭湾湾口部からゲンタツ瀬周辺にかけての海域では、数cm～10数cmの薄い表層堆積物に覆われて、青灰白色の粘性の高い泥が分布している。この強粘性泥は未固結ではあるが上位の表層堆積物とは明瞭な境界で境される。強粘性泥を覆う堆積物は淘汰の悪い砂質泥で、周辺と比べてやや粗くなっていることが多い。この強粘性泥中に含まれる浮遊性有孔虫群集は、周辺の表層堆積物とは異なり対馬暖流の影響を受けておらず（尾田・池原、1988）、対馬暖流以前の堆積物と考えられる。

— 海域に関する文献 —

- 朝岡治・橋本祐一・片山恭男(1985): 若狭湾 II 物理. 日本海洋学会沿岸海洋研究部編、日本全国沿岸海洋誌、東京大学出版会、東京、p.958-968.
- 池原研(1988): 山陰東部沖海底表層堆積物の物理的特性、有田正史・盛谷智之編、「西南日本周辺大陸棚の海底地質に関する研究」昭和62年度研究概要報告書—経ヶ岬沖・ゲンタツ瀬海域—、地質調査所、p106-110.
- 海洋資料センター(1979): 海洋環境図、海流編—日本近海.71p.,日本水路協会
- 片山肇・佐藤幹夫・池原研(1993): 海洋地質図38経ヶ岬沖表層堆積図(20万分の1). 海洋地質図説明書、no.38、48p.,地質調査所.
- 舞鶴海洋气象台(1965): 若狭湾流動調査報告.気象庁技術報告,no.42,p.1-47
- 尾田太良・池原研(1988): 山陰東北部海域における浮遊性有孔虫群集(予察). 有田正史・盛谷智之編、「西南日本周辺大陸棚の海底地質に関する研究」昭和62年度研究概要報告書—経ヶ岬・ゲンタツ瀬海域—、地質調査所,p.167-169

3-2 土地利用・植生現況図

この図は、人間活動によって変貌してきた環境質の現況や、人間による土地の改変状況・利用用途などの現況を表示したものである。

たとえば、自然環境条件図や災害履歴図と比較して、潜在的災害脆弱地域に不適切な土地利用をしていないか、また、利用を余儀なくされて立地している場合でも、防災対策は万全であるのか、現在までの土地利用をこのまま継続していった方がいいのか、また、今後の土地利用の進展をどの地域に求めてゆくことが望ましいのか、などの検討をすることが可能であろう。

1 土地利用

京都府は、中部の大部分を丹波高原と呼ばれる山地が占め、その中を流れる桂川、由良川の流域に亀岡、福知山の盆地をはじめ小盆地が点在している。南部は、桂川、宇治川、木津川の合流点を要にして山城盆地が広がっている。

現在の京都府では、道路交通事情の影響などにより人口、産業などが京都市とその近郊部に集中し、この結果、地域の構造は、京都市を中心とした一極集中型のものとなっている。

京都府の土地利用形態は表3-2-1に示すとおりであり、府土4612km²のうち平成5年時点で森林が75%と大部分を占め、農用地は7.8%、宅地は4.8%を占めている。

表3-2-1 地目別土地利用面積(平成5年) (km²)

宅地	農用地	森林	その他	合計
222 (4.8%)	359 (7.8%)	3,459 (75.0%)	572 (12.4%)	4,612 (100%)

環境白書平成6年度版(1995)京都府より作成

1) 農地

(1) 農地の推移

平成2年の耕地面積は29,835haで、その内訳は田24,324ha(81.5%)、畑2,855ha(9.6%)、樹園地2,656ha(8.9%)となっている。

耕地面積の推移を見ると(表3-2-2)、昭和45年から平成2年の間に10,954ha減少している。特に田は昭和45年には32,635haであったが、平成2年には24,324haと8,311ha減少しており、耕地面積減少10,954haの約76%を占めている。

また畑地もこの間に1,934haの減少をしており、耕地は依然として、減少傾向が見られる。

表 3 - 2 - 2 耕地面積の推移 (単位: ha)

年次	耕地面積合計	田	畑	樹園地
昭和45年	40,789	32,635	4,789	3,365
50	35,351	28,078	3,883	3,390
55	33,818	27,171	3,373	3,274
60	31,902	25,674	3,130	3,097
平成2年	29,835	24,324	2,855	2,656

京都府統計書(1993) 京都府総務部統計課

(2) 農地の転用状況

平成元年から平成5年までの農地の転用状況を見ると(表3-2-3)、平成4年までは増加の傾向にあるが、平成5年には平成元年を下回っている。

用途別面積で見ると、その他以外では住宅地が多く占める傾向がみられ、平成5年では農地の全転用面積に対する割合が32.4%となっており、住宅地に対する需要の高さを示している。

表 3 - 2 - 3 農地転用の推移 (単位 上段ha 下段%)

年次	総数	住宅	工場	学校	道水路	植林	その他
平成元年	188.3	47.9	49.2	0.4	1.3	11.0	78.5
	99.9	25.4	26.1	0.2	0.7	5.8	41.7
2	196.3	49.1	35.2	1.6	1.3	9.5	99.6
	99.9	25.0	17.9	0.8	0.7	4.8	50.7
3	201.6	52.7	48.7	0.8	1.1	9.4	88.9
	100.0	26.1	24.2	0.4	0.5	4.7	44.1
4	239.5	59.0	36.9	0.6	1.2	9.8	132.0
	100.0	24.6	15.4	0.3	0.5	4.1	55.1
5	182.6	59.2	24.6	0.7	1.2	8.5	88.4
	100.1	32.4	13.5	0.4	0.7	4.7	48.4

京都府統計書(1993) 京都府総務部統計課

2) 森林

平成5年度の森林面積11,825haのうち、民有林が311,487ha(90.1%)と大半を占め、公有林が22,554ha(6.5%)、国有林が11,824ha(3.4%)となっている。

森林面積の推移をみると(表3-2-4)、平成元年から平成5年の間に771ha(0.2%)減少している。

表3-2-4 森林面積 (単位 ha)

年次	国有林	公有林	私有林	森林合計
平成元年	11,803	22,460	312,373	346,636
2	11,812	22,480	311,860	346,152
3	11,823	22,349	311,635	345,807
4	11,782	22,640	311,455	345,877
5	11,824	22,554	311,487	345,865

京都府統計書(1993) 京都府総務部統計課

3) 宅地

京都府の宅地利用面積は、表3-2-5に示すとおりである。平成5年時点で、191.83k㎡であり、平成元年(184.41k㎡)から4.0%の増加をしている。

表3-2-5 宅地面積の推移 (単位: k㎡)

平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年
184.41	186.35	188.41	190.20	191.83

京都府統計書(1993) 京都府総務部統計課

4) 道路

京都府の道路利用面積は、表3-2-6に示すとおりである。平成5年時点で、77.02km²であり、平成元年(73.18km²)から少しずつ増加している。

表3-2-6 道路面積・実延長の推移

	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年
面積 (km ²)	73.18	74.39	75.33	76.16	77.02
実延長 (km)	14,054	14,128	14,200	14,263	14,339

京都府統計書(1993) 京都府総務部統計課

2 現存植生

本図の現存植生は、第2回、第3回自然環境保全基礎調査(植生調査)現存植生図1/5万(環境庁 1982,1985)を参考にして作成した。当資料の凡例は45例に細かく分類されている。本図ではこの45例の分類に準じ、図示可能な範囲で表示している。

京都府の植生を概観すると、暖温帯常緑広葉樹林から冷温帯落葉樹林帯に属しており、シイ林(日本海沿岸地域ではタブが混交する。)、カシ林、タブ林(若狭湾の島)からブナ林までをみることができる。人為的かく乱をあまり受けなかった自然植生は、小規模な社寺林、若狭湾内の島々の森に限られ、ほとんど残されていないが、由良川源流域の京都大学演習林となっている約2,000haにわたるスギブナ林は学術的価値も高く、貴重な森林である。多くの地域は、古くから人為が加わった二次林で、京都府の大部分がいわば里山で、林地は畑のごとく細分され利用されてきた。丹波山地の中西部以南は5万分の1地形図「京都西北部」の愛宕山、「園部」の兵庫県境、「京都西南部」のボンボン山付近のコナラ林、ミズナラ林と南部の竹林を除いて、全域でアカマツ林が優先している。丹波山地の北西部、北東部、東部にかけては、落葉広葉樹林(コナラ林、ミズナラ林、ブナ林など)が広く分布する。丹後半島もアカマツ林とコナラ林に代表される落葉広葉樹林からなる二次林が広くみられる。

丹波帯とそれ以外の地域でスギ植栽の立地は若干異なるが、一般的には沢沿いを中心にスギが、尾根筋を中心にヒノキが広く植栽されている。

3-3 災害履歴図

この図は、過去に京都府で発生した気象災害や土砂災害など主要な自然災害の実績を図示したものである。しかし、災害状況を地図化できる環境基礎資料が乏しかったため、昭和61年7月の豪雨による湛水区域を図示したにとどめた。また、地震災害に関連する活断層及び震央分布も併せて図示した。

この図は、将来的な事前防災対策や土地利用の規制・誘導のあり方を検討する際の基礎資料として活用することができる。

1 風水害

府下における近年の主な風水害は表3-3-1のとおりである。台風や梅雨前線によるものが多く、7月～9月に災害が発生している。昭和50年代以降は、大きな被害は起こっていないが、ごく最近まで死者を出す災害が発生している。

表3-3-1 京都府の主な風水害

年月日	名称	災害の概要	被害者 総数	人的被害			住宅被害				
				死者	行方不明	負傷者	全壊	流出	半壊	床上浸水	床下浸水
S26.7.11	7月災害	亀岡地方の豪雨、日雨量143mm 篠村の被害甚大、京都市内桂川氾濫	63,196	79	35	352	52	89	127	2,964	12,020
S28.8.14 ～15	南山城水害	相楽郡、綴喜郡の集中豪雨、天井川の氾濫、総雨量東和東680mm	28,176	221	115	1,366	371	381	554	1,649	2,721
S28.9.24 ～25	台風13号	総雨量豊里村503mm、由良川、桂川、宇治川、木津川その他氾濫	313,000	111	9	1,420	2,613	400	6,951	21,331	35,667
S34.8.13 ～14	8.13水害	台風7号と前線の停滞による豪雨 総雨量花背503mm	186,000	14	-	30	42	75	98	5,508	26,056
S34.9.25 ～26	伊勢湾台風15号	台風と寒冷前線の活動による豪雨 総雨量舞鶴287mm	112,000	9	-	169	114	65	1,051	8,176	14,760
S35.8.29 ～30	台風16号	総雨量花背386mm 桂川の溢流	50,000	11	-	59	47	15	158	3,220	7,166
S36.9.15 ～16	第2室戸台風(18号)	第2室戸台風が府南部を通過 最大瞬間風速舞鶴48.3m/S	204,000	12	-	251	941	-	4,545	5	645
S47.7.10 ～17	昭和47年7月豪雨	前線の停滞による豪雨 総雨量盛岡510mm	16,869	8	-	17	15	-	33	230	4,576
S47.9.16 ～17	台風20号	台風による風水害、上林386mm 最大瞬間風速 舞鶴35.8m/S	66,415	8	1	32	17	-	79	2,958	15,744
S51.9.8 ～13	台風17号	台風17号と前線による水害 総雨量夜久野441mm	2,413	1	-	4	2	-	38	16	617
S58.9.26 ～29	台風10号	総雨量三和町苑原338mm 最大瞬間風速 舞鶴24.8m/S	487	2	-	3	7	-	7	142	2,218

「京都府地域防災計画、1994、京都府防災会議」より作成

2 雪害

府下では、冬季に気候の地域差が最もよく現れる。12月～2月の降水量は京都の約156mmに対して舞鶴では362mm、峰山丹波では510mmをこえる。これは、北西の季節風による日本海側斜面特有の「しぐれ」現象や降雪によるもので、最深積雪は丹後半島山間部で2mを超すこともある。北部の内陸部での降水量は丹後半島山間部の約2分の1である。南部の平野部での積雪は、昭和29年1月に京都で41cmの記録があるものの、20cmを越すことは希である。

府下における近年の主な雪害は表3-3-2のとおりである。

表3-3-2 京都府の主な雪害

年月日	名称	災害の概要	被害者 総数	人的被害			住宅被害				
				死者	行方不明	負傷者	全壊	流出	半壊	床上浸水	床下浸水
S38.1.末 ～2末	昭和38年 1月豪雪	網野210cm、峰山150cm 間人225cm、	-	4	-	16	39	-	151	20	196
S51.12.26 ～S52.3.5	昭和51年年末から 52年年明けにかけての 大雪	宮津市上世屋260cm、 2月25日、宮津市松屋でなだれに より5名の死者が出た。	30	5	-	-	2	-	8	-	-
S56.1. ～3.	昭和56年 豪雪	1月21日、舞鶴市で屋根の雪下ろ し中死者1名、上世屋230cm	80	1	-	49	2	-	2	-	12
S59.1. ～3.	昭和59年 豪雪	宮津市上世屋246cm、 福山市で1名の死者。	9,053	1	-	70	4	-	37	-	7

「京都府地域防災計画、1994、京都府防災会議」より作成

3 土砂災害

京都府の戦後の主な土砂災害は、表3-3-3のとおりである。特に、昭和28年の南山城災害は相楽・綴喜両郡に甚大な被害を与えた。

表3-3-3 戦後の主な土砂災害

災害発生 年 月	被害地域	災害原因	被害状況	
			死者・行方不明者	家屋被害
S.24. 7	府内全域	ヘスタ一台風	11人	5,220戸
S.26. 7	京都市 亀岡市	7月水害 (平和池の欠壊)	114人	15,252戸
S.28. 8	南山城	南山城水害	336人	5,676戸
S.28. 9	府内全域	台風13号	120人	66,962戸
S.34. 8		8月水害	14人	31,779戸
S.34. 9		台風15号	9人	24,343戸
S.35. 8	桂川水系	台風16号	11人	10,606戸
S.36. 9	府内全域	台風18号	12人	6,136戸
S.36.10		10月水害	4人	6,929戸
S.40. 9		台風23号	4人	14,945戸
S.40. 9		台風24号		
S.47. 7		7月豪雨	8人	4,854戸
S.47. 9		台風20号	8人	19,687戸
S.51. 9		台風17号	1人	550戸
S.54. 6~7		梅雨前線豪雨		1,391戸
S.54. 9~10	北部地域	台風20号		
S.54.10		台風20号		
S.57. 8	府内全域	台風10号	5人	3,285戸
S.58. 9		台風10号	2人	2,379戸
S.61. 7	南部地域	梅雨前線豪雨	1人	2,812戸
H. 2. 9	府内全域	台風19号		878戸

京都の砂防と災害(1994)京都府土木建築部砂防課

[昭和28年8月の南山城災害]

昭和28年8月の南山城災害は特筆すべきもので、府南部の相楽、綴喜両郡を中心に総雨量428mm、時間雨量100mm(和束町湯船)を越す局地豪雨に襲われ、死者221人、行方不明115人、被害家屋5、676戸木津川、和束川流域の崩壊箇所は15、592箇所、崩壊土量約800万㎡に及び、山間部はいたるところ禿げ山となった。

[地すべり]

昭和40年に丹後半島を中心に10数ヶ所の地すべりが発生した。府では、このうち3ヶ所において緊急地すべり対策を実施し、その後、地すべりは小康

状態を保っている。

京都府下でまとまった地すべりの分布をみるのは、丹後半島の一部にすぎない。すなわち、京都府与謝郡・竹野郡の地すべり地帯は、兵庫県の但馬地すべり地帯から連続するもので、新第三系（中新世）の北但層群に発生している。北但層群は、特に凝灰岩質岩層の部分に地すべりが発生しており、その内の過半数は、上部に火山岩層（安山岩類）がいわゆる”キャップロック”として存在しているのが特徴である。このような地すべりのタイプは、北九州の北松浦地方に多いことから、”北松型地すべり”と呼ばれている。

このほかの地すべり地は単発で散在し、群をなしている地すべり地は京都府下には存在しない。

長岡京の市街地の西方山地（古生層）に数カ所の地すべり地が見られるほかは、日本海海岸の青葉山西麓（青葉山火山岩類）、西舞鶴西方山地（古生層）、綾部市八津合町（古生層）にそれぞれ一カ所の地すべり地が記録されているのみである。

4 地震災害

京都府及びその周辺において過去に発生した地震の概要を資料編に示した。このうち、明治以降に被害を発生させた主な地震は次のとおりである。

- ① 濃尾地震 1891年10月28日（明治24年）：マグニチュード8.4
（震央 136.6° E, 35.6° N）
岐阜・愛知に被害。建物倒壊多数、死者7,273人、山崩れ多数、根尾谷大断層が発生。
- ② 大和地震 1899年 3月 7日（明治32年）：マグニチュード7.6
（震央 136.0° E 34.2° N）
三重県南牟婁郡・奈良県吉野郡で被害大。
- ③ 北丹後地震 1927年 3月 7日（昭和2年）：マグニチュード7.5
（震央 135.1° E 35.6° N）
震源は京都府北西部。被害は淡路・福井・岡山・米子・徳島・三重・香川・大阪に及ぶ。家屋倒壊・焼失多数、死者2,925人、津波規模1。
- ④ 河内大和地震 1936年 2月21日（昭和11年）：マグニチュード6.4
（震央135.7° E 34.5° N）
大阪・奈良に被害。家屋全半壊148戸、死者9人、崖崩れあり。
- ⑤ 東南海地震 1944年12月 7日（昭和19年）：マグニチュード8.0

(震央 136.2° E 33.7° N)

震源は熊野灘。静岡・愛知・三重・岐阜・奈良・滋賀の各県に被害大。家屋全半壊・流失多数、死者 998 人、津波来襲。

⑥ 南海地震 1946年12月21日(昭和21年) : マグニチュード 8.1

(震央 135.6° E 33.0° N)

震源は潮岬沖。中部以西の各地に被害。家屋倒壊・流失・浸水・焼失多数、死者・行方不明 1,432 人。津波来襲。

⑦ 吉野地震 1952年 7月18日(昭和27年) : マグニチュード 7.0

(震央 135.8° E 34.5° N)

震源は奈良県中北部。家屋全壊 20 戸、死者 9 人、石灯籠多数倒壊。

⑧ 越前岬沖地震 1963年 3月27日(昭和38年) : マグニチュード 6.9

(震央 135.8° E 35.8° N)

震源は越前岬沖。敦賀湾・若狭湾沿岸沿いの約 50 km に小被害。住家倒壊・破損・山崩れ、道路に亀裂。

<活断層について>

「[新編]日本の活断層(1991)活断層研究会」による活断層のうち、確実度 I、確実度 II の活断層を図示した。確実度 I とは、活断層であることが確実なもので、次のいずれかの地形的特徴をもち、断層の位置、変位の向きがともに明確であるものをいう。①数本以上にわたる尾根・谷の系統的な横ずれ、②ひとつづきであることが確かな地形面を切る崖線、③時代を異にする地形面群を切っている崖線があり、古い地形面ほど変位が大きい(変位の累積が認められる)場合、④同一地形面の変形(たわみ・傾斜など)、⑤第四紀層を変位させている断層の露頭。確実度 II とは、活断層であると推定されるもので、位置・変位の向きも推定できるが、確実度 I と判定できる決定的な資料に欠けるもの。たとえば、次のような場合。①2~3本程度以下の尾根や谷が横ずれを示す場合、②断層崖と思われる地形の両側の変位基準地形が時代を異にする場合、③明瞭な基準地形がない場合(山地など)。

地震活動に密接な関係があるとされる活断層は、京都府下では主として丹波高地を取り囲むように分布する(図 3-3-1)。特に、京都盆地周辺の活断層については調査が進んでおり、吉岡(1987)によって図 3-3-2 のような詳細な分布図と表 3-3-4 のような各断層の諸性質がまとめられている。

近畿地方の盆地の形成に関しては、Huzita(1962)は「近畿三角地帯」を提唱し、領家帯の基盤褶曲・丹波帯の断裂とブロック化を考えた。この説に従えば、

京都盆地の形成は、主として盆地周辺の丹波帯の断裂とブロック化によると考えられる。従って、京都盆地周辺の丹波帯に発達する活断層は、この運動に伴うものであるという事ができる。これら各活断層の具体的な活動の歴史については、吉岡(1987)が表3-3-5にまとめている。

現在、天然記念物(昭和4年12月17日国指定)に指定されている郷村地震断層(網野町)は、北丹後地震(1927年)に伴って変位した活断層である。この断層は、長さ15km、走行NNE、垂直変位0.8m(西側隆起、部分的に東側隆起)、水平変位2.5m(左ずれ)で、天然記念物として保存されている場所は道路がずれており、容易に横ずれの状況を確認することができる。

また、生野内には垂直断層が保存されている。

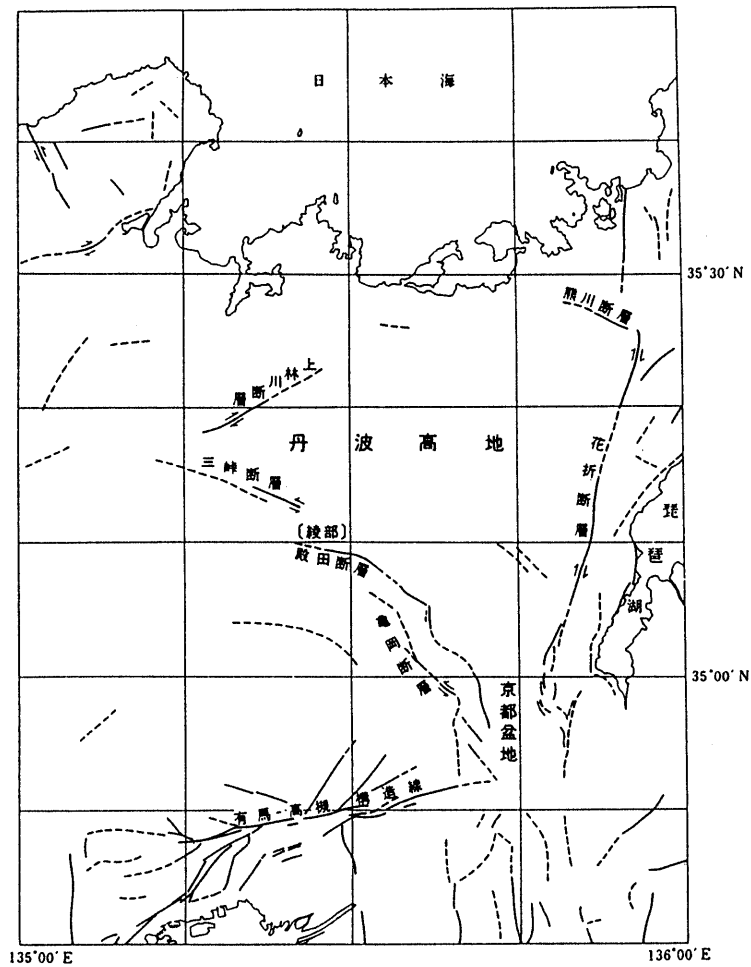


図3-3-1 丹波高地及びその周辺の活断層分布図
(木村・牧本・吉岡-1989-)

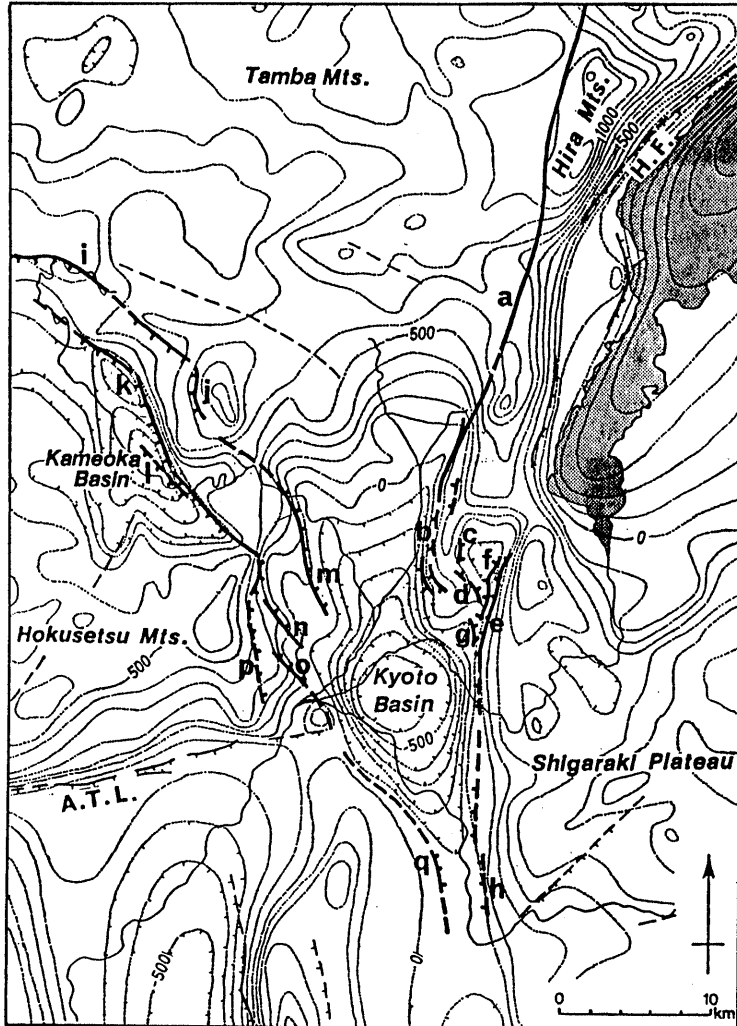


図 3-3-2 京都盆地周辺の活断層の分布 (吉岡-1987-)

点線は2km方眼による接峰面の等高線及び第四系基底の推定等深線を示す。間隔は100m。

a:花折断層 b:東山西縁断層 c:花山断層 d:勤修寺断層 e:黄檗断層 f:小野断層 g:御蔵山断層
 h:井手断層 i:殿田断層 j:越畑断層 k:亀岡断層 l:保津断層 m:程原断層 n:光明寺断層 o:金ヶ原断層
 p:西山断層 q:田辺断層 H.P.:比良断層 A.T.L.:有馬-高槻構造線

表 3 - 3 - 4 各活断層の諸性質 (吉岡 - 1987 -)

断層名	全長 (km)	走 向	断層形態	センス 横ずれ 隆起側	変位基準	変位量* (m)	活動度	備 考
花折断層	50	NNE-SSW	横ずれ	(北部) W (南部) E	腐植 (2,500年B.P.) ⁽¹⁾ 河谷の屈曲	0.4 ⁽¹⁾ 最大 530	B A ? ⁽²⁾	
東山西縁断層	6	N-S	逆?・撓曲	R	E I面	5~10	C	
花山断層	2	N-S	逆?		W II面	13+		隆起側で逆傾斜
勸修寺断層	3	NW-SE	?		SW III面	5	B	
黄巣断層	10	NNE-SSW	?		SW 沖積面	—		リニアメント
小野断層	8	NNE-SSW	横ずれ?	R	E 断層線崖	(150)		
			逆?		E 断層線崖	(400)		
			横ずれ?	R	E 河谷の屈曲	最大 300		
			逆?		E I面	—		堆積物が背斜状変形
			撓曲		E III面	2	B	
		N-S	撓曲		E I面	50	B	
			?		大阪層群中部	200?		
	1	NNE-SSW	?		E I面	—		小地溝
			?		E II面	10	B~C	
御蔵山断層	2	N-S	?		W I面	20	B	
井手断層	10	N-S	?		E 断層線崖	(100~200)		
殿田断層	15	WNW- ESE	横ずれ?		N 世木林II面	2	B	
			?	L	N 断層角盆地	—		
越畑断層	2	N-S	逆?(撓曲)		E I面	?		
亀岡断層	20	NW-SE	?		NE 断層線崖	(600)		
			横ずれ	L	E 河谷の屈曲	最大 200		
保津断層	3	NW-SE	?		NE III面	3	B	
			?		III面面高度	15~20		
檜原断層	10	NW-SE	?		W 断層線崖	(300)		
		N-S	撓曲		W 大阪層群Ma2-7 ⁽³⁾	?		
光明寺断層	4	NW-SE	横ずれ?	L	SW 河谷の屈曲	最大 200		
金ヶ原断層	2+	NW-SE	?		SW 断層線崖	(150)		
			撓曲		SW 大阪層群Ma2-7 ⁽³⁾	?		光明寺断層と連続
西山断層	10	N-S	?		W 断層線崖	(300)		
田辺断層 (僧坊撓曲)	20?	NNW-SSE	?		W 大阪層群中下部	?		
		N-S	撓曲		W 大阪層群 Ma1 ⁽⁴⁾	?		上部垂層群に覆われる

* カッコ内は断層線崖の比高を示す

(1) 石田 (1967) (2) 吉岡 (1986) (3) 西山団体研究グループ (1967) (4) 活断層研究会 (1980)

表 3 - 3 - 5 大阪層群の層序及び活断層の活動史 (吉岡 - 1987 -)

太線：断層が活動していた時期

太破線：断層が活動していた可能性がある、もしくはその一部が活動していた時期

地質時代	層序区分	年代 (万年)	海成層 段丘面	宇治・田辺	京都盆地南部	山科盆地	亀岡盆地	京都盆地北部	丹波高地内
後期更新世	上部洪積層	0	III・IV I II			花山断層 小野断層	保津断層	花折断層 菅原断層	花折断層 殿田断層 越畑断層
中期更新世	大 阪 層 群	50	Ma 8						
			Ma 7						
			Ma 6						
前期更新世	中 部 垂 層 群	100	Ma 5		黄桒断層				
			Ma 4			黄桒断層	亀岡断層		
			Ma 3						
			Ma 2	井手断層	西山断層				?
			Ma 1						
Ma 0	田辺断層								
新世	下部垂層群	150							

5 水質保全

pH, BOD (COD) 等生活環境の保全に関する環境基準については、水域ごとに利用目的に応じて、河川の場合6類型、海域の場合は3類型に区分され、あてはめられている。現在11河川の20水域及び6海域の7水域合計27水域に類型あてはめが行われている。

これらの河川及び海域におけるBOD又はCODによる環境基準の達成状況は表3-3-6のとおりである。

なお、その他の環境基準項目については、河川の大腸菌群を除いて、ほぼ維持達成している。

また、大谷川水域については河川改修により、環境基準地点である橋本樋門において長期間採水ができないため欠測になっており、環境基準の評価を行っていない。

表 3 - 3 - 6 環境基準達成状況

	元	2	3	4	5	6
河川	16/19*	16/19*	18**/19*	17/19*	18/19*	15/19*
海域	3/7	4/7	3/7	3/7	4/7	5/7
計	19/26*	20/26*	21**/26*	20/26*	22/26*	20/26*

ただし、環境基準達成水域数/類型指定水域数とする。

* : 河川改修工事などのため、評価に必要な測定ができなかった1水域を除いた数字である。

** : 木津川の水域は、三重県及び京都府の両府県に環境基準点があるが、そのうち京都府内では環境基準に適合したが三重県内で適合しなかったため、達成水域に含めていない。(環境基準の達成は、水域全体で判断するため)

平成6年度公共用水域及び地下水の水質測定結果(1995)京都府

6 地下水保全

1) 地下水

(1) 京都府の地下水の概要

地形・地質の項で述べたように、京都府の大部分の地域は、基盤岩類が直接地表に顔を出しており、北部の丹後半島の一部や盆地・河谷沿いに新第三紀層と第四紀層が小規模な分布を示すにすぎない。

一方、わが国の地下水の帯水層を形成している地層は、一般的には新第三紀鮮新世以降の地層とされている。従って、京都府下では、盆地及び河谷沿いに分布する大阪層群とその相当層、段丘堆積層及び沖積層の分布地帯が地下水利用地帯とすることが出来る。

京都盆地や亀岡盆地に主として分布する大阪層群とその相当層は、礫・砂・粘土層からなる未固結～半固結の堆積物で、被圧地下水を含んでいる。

盆地周辺や河川沿いに分布する段丘堆積層や沖積層は、扇状地堆積層として発達するものも多く、優れた帯水層を形成し、不圧地下水を含んでいる。

京都府下の地下水の利用量は、1979年の近畿農政局の報告によれば、年間約187百万トンで、その大部分は京都盆地となっている。

京都盆地における地下水利用量は、戦後の経済成長以後急激に増加の傾向をたどっており、明瞭な過剰揚水を示す部分もあり、地盤沈下などの地下水障害の発生を見る部分も知られている。

(2) 地域の地下水

a. 京都盆地

京都盆地は、南北約36km東西の幅最大約3.5kmの規模をもっている。東西及び北部の三方を標高400～700mの山地に囲まれ、その前縁には標高100～200mの丘陵が、また丘陵に続いて低位から高位の段丘が分布する（図3-3-3）。

山地は丹波帯の古期岩類とこれを貫く花崗岩類からなる。これらの岩石類は、京都盆地の地下水の容水地盤となっている。

丘陵部は、主として礫・砂・粘土からなる大阪層群によって構成され、その層厚は200m以上に達する。大阪層群は盆地の地下にも広く分布し、砂礫層を帯水層とし、粘土層を加圧層とした被圧帯水層を形成している。透水量係数は $2\sim 4 \times 10^{-3} \text{m}^2/\text{s}$ 程度と推定されている（日本の地下水-1986-）。

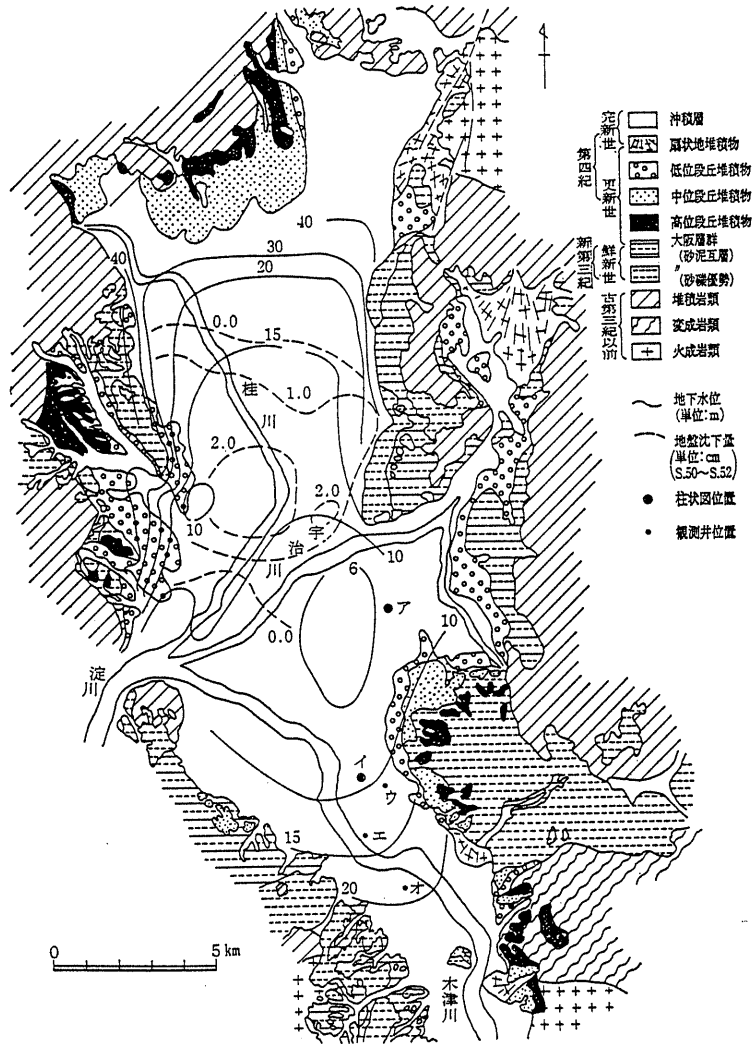


図 3 - 3 - 3 京都盆地主部水文地質図 (宮島-1986-)

大阪層群を覆って上部洪積層が分布する。上部洪積層は段丘堆積物・扇状地性堆積物などで、比較的良好な帯水層となっている。扇状地性の堆積物は、京都駅の北側に広く発達し、透水量係数は $2 \sim 4 \times 10^{-2} \text{ m}^2/\text{s}$ となっている。京都駅より南では堆積物は細粒となり、透水量係数も $1.6 \sim 2.8 \times 10^{-3} \text{ m}^2/\text{s}$ 程度になる。

盆地の表層を覆う沖積層は比較的薄く、南部の厚いところで10m程度であり、砂・泥からなり不圧地下水を胚胎している。

地下水位は不圧地下水は、5～9月に高く、1～2月に低い。被圧水頭は、5～6月の灌漑期の揚水による一時的な水位低下が見られるものの、経年的な低下傾向は見られていない。しかし、京都市南部、向日市、長岡京市、大山崎町などの地域では上水道用・工業用の地下水採取が盛んで、被圧水頭は年々低下している。また地盤沈下も発生しており、1974～1994年までの間に34cm、1990～1994年までの間に5cmの最大沈下量が観測されている。1994年の最大沈下量は、1.1cmで、1cm以上の沈下が生じている地域の面積は0.5km²未満であるが、直接の被害は発生していない（環境庁、1995、全国の地盤沈下地域の概況）。

b. 亀岡盆地

亀岡盆地は桂川上流域にひらけた構造盆地である。標高100m前後で、周囲を囲む山地の標高は400～600mである。これらの山地は丹波帯の古生層とそれを貫く花崗岩からなっている。盆地を埋める第四紀層は、井本ほか(1989)によると次表のごとくである。

表 3 - 3 - 7 亀岡盆地の第四紀層

完新世	沖積層・後背湿地堆積物
更新世	扇状地・崖錐・および 低位段丘堆積物
	大阪層群上部層相当層

大阪層群上部層相当層は、盆地南西端の湯ノ花付近の低平な丘陵をつくる、礫・砂・粘土に亜炭・火山灰を挟む地層である。厚さは約30mほぼ水平である。砂・礫の部分に地下水を胚胎しているが、その規模は大きいものではない。

崖錐・扇状地・低位段丘堆積物は、山麓の斜面をつくっている。後背地の谷から供給された礫層によって扇状地がつくられ、その間の埋め残された後背湿地地域の平坦地が低位段丘となっている。

亀岡盆地の低平地の大部分を占める沖積地は、沖積層と後背湿地堆積物からなる。桂川は亀岡盆地に入って、大量の礫を堆積し、第2次大戦後まではしばしば水害に見舞われた所である。川添いの平野から基盤山地や扇状地の間に入り込んだ低地には後背湿地が見られる。

沖積低地では古くから浅井戸によって不圧地下水が採取され、飲雑用水・灌漑用水として利用されている。また、約20本の深井戸が掘削され、主として水田の補給水に利用されている。掘削深度は60～80mが多く、揚水量は2000～4000m³/dである。

近畿農政局の調査によれば、亀岡盆地の基盤の深さは、図3-3-4に示すように、深いところでは約200mにも達する。また、同調査のボーリング結果によると、深度約70mまでは砂礫層からなり、それ以下の168mまでは粘土・砂・礫・泥炭の互層で、大阪層群相当層と考えられている。

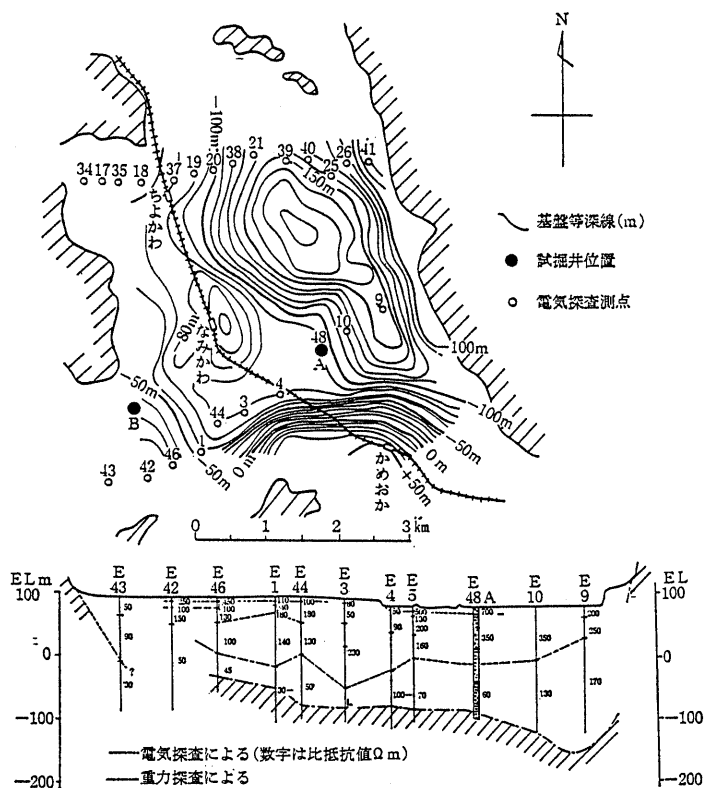


図3-3-4 亀岡盆地基盤等深線図（重力探査による）
（近畿農政局-1973-による）

c. 相楽丘陵

相楽丘陵は相楽郡木津町及び加茂町に属し、山城盆地と奈良盆地の接合点に当たる。周辺の山地は主として花崗岩と片麻岩からなり、一部に古生層のホルンフェルスがある。

丘陵の地質は、これらの基盤岩類を覆って分布する鮮新世の地層（ソノハ礫層）と大阪層群相当層である。これらの地層は比較的的空隙にとみ、地下水の帯水層を形成している。地下水盆の形は、清水・川崎(1976)に

よれば、図3-3-5の如くであり、帯水層の厚さは約100mに達する。

深井戸による揚水量は1井あたり700~1000m³/dであるが、大阪層群が薄く、ソノハ礫層が厚いところでは揚水量は少ない。

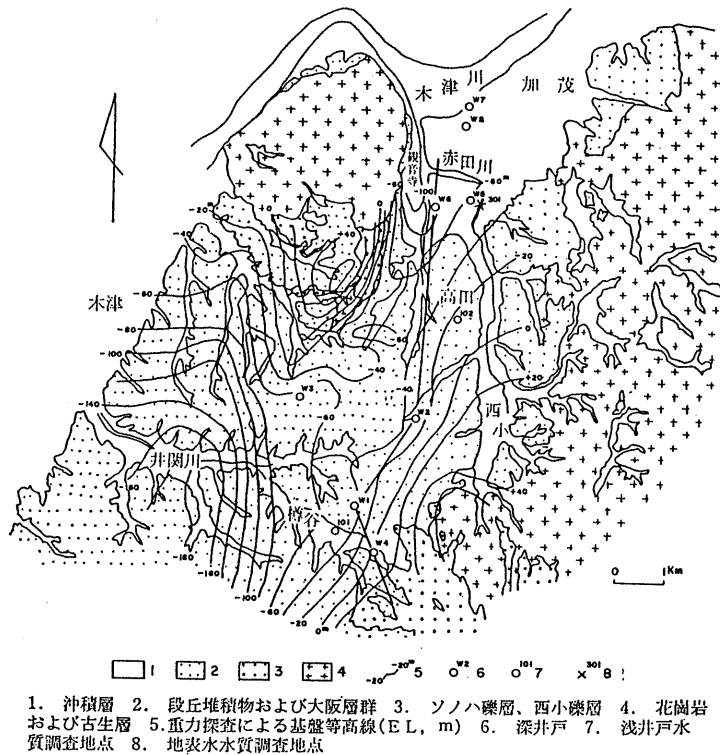


図3-3-5 相楽丘陵基盤等深線図(重力探査による)
(清水・川崎-1976-による)

d. その他の地域

丹波高原地域：

船井郡一帯のいわゆる丹波高原といわれる地域には、樹枝状の谷底平野が広がり、第四紀の堆積物が分布し比較的良好な帯水層を形成している。たとえば、山陰線胡麻駅周辺は由良川と桂川水系の分水界付近に当たるが、桂川水系の支流である胡麻川の最上流部で、層厚約35mの未固結堆積物(砂礫層)があり、そこから水位降下量わずか1mで、1200m³/dの地下水を採取しているところがある。

久美浜砂丘：

奥丹後半島の西海岸には砂丘が発達し、その背後には閉塞性の湖や湾

が見られる。これらの砂丘のうち地下水利用がもっとも盛んなのは久美浜砂丘である。久美浜砂丘は、新砂丘と古砂丘に分かれる。古砂丘は黄褐色でやや締まった砂層からなり、その上部に黄褐色の火山灰層がのるのが特徴である。

砂丘地の地下水は、古砂丘の上部にある火山灰層とその上の古土壌を不透水層とし、新砂丘の砂層を帯水層とする不圧地下水である。

久美浜砂丘では、農業用の取水施設が70数カ所有り、年間50万トンあまりを揚水し、50ha余の畑地を灌漑している。その他上水道用として、15万トン余りの地下水を利用している。なお、久美浜砂丘では、今の所塩水侵入は生じていない。

2) 地下水汚染

京都府は、地下水の水質の汚染状況を常時監視するため、平成元年から水質汚濁防止法に基づく測定計画を作成し、この計画に基づき京都府、京都市及び建設省が府内の地下水の水質測定を実施している。

平成6年度は、府内11市26町において、延べ147地点で述べ1,152件について水質測定を実施した。

環境庁が示す評価基準を超えた地点は、砒素が4地点、トリクロロエチレンが4地点、テトラクロロエチレンが12点、四塩化炭素が1地点、シス-1,2-ジクロロエチレンが2点であった。

7 大気汚染

大気汚染の状況を長期的評価による環境基準の達成状況でみると、5年度、二酸化硫黄、一酸化炭素についてはすべての有効測定局で、環境基準を達成した。二酸化窒素については、37局中0.04 μm （※ μm 値は、1日平均値の年間98%値である。）から0.06 μm までのゾーン内濃度にある測定局数は21局、0.04 μm 未満の測定局数は13局で、計34局が環境基準を達成した。

光化学オキシダントの測定データは、16市町27測定局平均で昼間の1時間値が環境基準の0.06 μm を超えたことのある日数は26日、また、昼間の1時間値が光化学スモッグ注意報発令基準である0.12 μm を超えたことのある局及び延べ日数は9局10日であった。

浮遊粒子状物質については、長期的評価による環境基準の達成状況を見ると、4年度36局中23局、5年度35局中30局の環境基準の達成にとどまっており、今後課題が残されている。

炭化水素のうちメタンを除く非メタン炭化水素濃度の5年度における測定データは10市町18測定局で得られており、これらの測定局における午前6時

から9時までの年平均値の単純平均値は、近年やや減少の状況を示している。

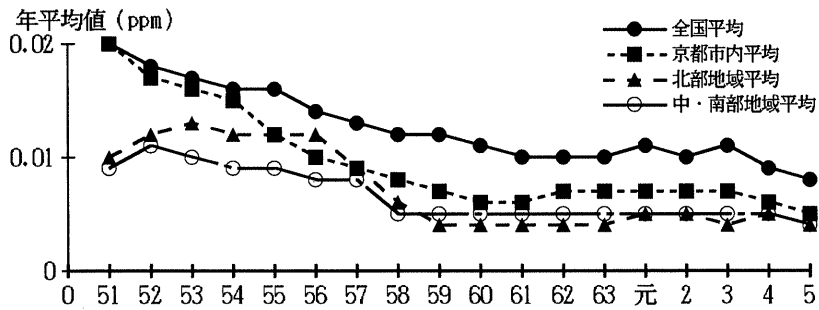


図 3 - 3 - 6 S O₂ 経年変化 (年平均値)
京都府環境白書平成6年度版(1995)京都府環境企画課より作成

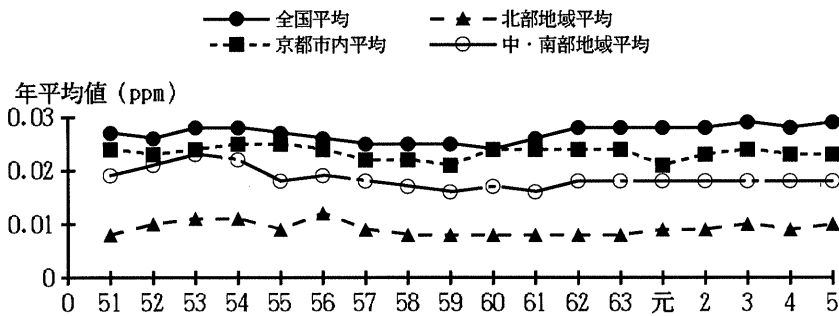


図 3 - 3 - 7 N O₂ 経年変化 (年平均値)
京都府環境白書平成6年度版(1995)京都府環境企画課より作成

8 騒音・振動・悪臭

府内における騒音の苦情は、商店・飲食店及び製造事業所に係るものが多く、次いで、建築・土木工事に関わるもの、家庭生活に起因する生活騒音の順になっており、振動の苦情は製造事業所及び交通機関に係るものが主な発生源となっている。

騒音苦情は、55年度の470件をピークに減少傾向にあるが、5年度の件数は274件となっている。

振動苦情は、49年度以降ほぼ横ばい傾向にあり、5年度の件数は15件となっている。

5年度の府内における悪臭の苦情は208件で、発生源は、製造事業所が52件、家庭生活が39件と多く、次いで商店・飲食店、下水・清掃事業、牧畜・養豚場・養鶏場・農作業の順となっている。

3-4 防災・土地保全等施設図

この図は、人為的に設置した土地保全施設や予報観測施設の分布などを図示したものである。

この図は、将来的な事前防災対策や土地利用の規制・誘導のあり方を検討する際の基礎資料として活用することができる。

1 防災施設

京都府における平成7年時点の管理中ダムは、大野ダム（京都府、多目的）、天ヶ瀬ダム（建設省、多目的）、高山ダム（水資源開発公団、多目的）、世木ダム（関西電力、発電）、和知ダム（関西電力、発電）、喜撰山ダム（関西電力、発電）の6ダムである。また、桂川（日吉町）において日吉ダム（水資源開発公団、多目的）が建設中である。それぞれの概要は、資料編のダム一覧表に示した。

京都府における砂防の歴史は古く、806年（大同元年）朝廷により大井川（嵐山）河岸の伐木禁止令が布達されたが、これがわが国の砂防の始まりといわれている。1684年（貞享元年）には京都町奉行所により土砂留工事が実施され、明治になるとオランダ人技師デレーケは淀川改修計画に先立ち、特に荒廃状況の著しい木津川流域を視察し、木津川支川不動川において試験施工を実施した。それ以来、近代砂防が始まったのである。

現在の砂防対策は、ダム工1,704基、床固工1,192基、流路工107.2kmが整備されている（平成5年4月現在）。

地すべり対策として、建設省所管の地すべり防止区域では土留工2,387m、排水ボーリング工26,647.8m、排水ボーリング17,749.4m等が整備されている（平成5年4月現在）。

急傾斜地崩壊危険区域では、擁壁工30,851m、法面工68,118mが施工されている（平成5年4月現在）。

漁港区域内には、防波堤7,655m、護岸20,323m、防砂提等3,312mの施設が整備されている。

雨量観測所は、府管理61ヶ所、建設省管理18ヶ所の合計79ヶ所である（平成7年4月現在）。

水位観測所は、府管理67ヶ所、建設省管理21ヶ所の合計88ヶ所である（平成7年4月現在）。

3-5 防災・土地保全等関係法令指定区域図

この図は、法令指定等のうち特に防災対策に係わるものの状況を編集したものである。なお、この図は、他の基本情報図や本調査の結論図との重ね合わせを容易にするために、半透明紙（トレーシングペーパーのオーバーレイ図）仕上げとした。

この図を他の基本情報図と重ね合わせることによって、例えば、自然環境条件と現況土地利用関連から生じる災害などに対して、地理的に適切な規制法令指定がなされているか、また、今後、どの地域にどのような法令指定をすることが望ましいかなどを、将来的土地利用と併せて検討することが可能であろう。

1 砂防指定地

本府は、山地や溪流は、戦前は樹木の乱伐、戦後はたび重なる風水害によってはなはだしく荒廃していたが、現在では対策工の施工によっておおむね改善されている。しかし、今日でも土地条件の脆弱な地域に大雨が降ると山腹崩壊や溪岸浸食等の土砂災害が発生している。

防災関係法令指定図に示した砂防指定地（平成6年3月現在）は、府全域で1,239ヶ所、総面積 30,117.51haである。

2 地すべり防止区域

地すべり防止法にもとづく指定区域は平成6年3月現在、建設省所管19ヶ所、構造改善局所管3ヶ所、林野庁所管5ヶ所である。

3 急傾斜地崩壊危険区域

急傾斜地崩壊危険区域は、平成6年3月時点で189ヶ所が指定されている。急傾斜地の崩壊により、多くの人命に被害が出るおそれのある区域における一定の行為を制限するため、指定している。

4 保安林

本府における森林は、その大部分が森林計画に組み入れられており、総面積が345,865haで、これは府面積の75%に及び、うち90%が民有林である。

これらの森林は、木材生産という経済機能を有すると同時に国土の保全、水源の涵養、府民の保健休養等の公的機能を有している。森林の持つこれらの機能の充実強化を図るため、それぞれの目的に応じた保安林の指定がなさ

表 3 - 5 - 1 保安林の現況（平成6年度）
（単位：ha・％）

保安林種	国有林	民有林	計	構成比
水源涵養保安林	1,414	55,549	56,963	63.0
土砂流出防備保安林	439	24,951	25,390	28.1
土砂崩壊防備保安林	52	474	526	0.6
飛砂防備保安林	0	69	69	0.1
防風保安林	0	3	3	0.0
水害防備保安林	7	1	8	0.0
潮害防備保安林	0	54	54	0.1
干害防備保安林	28	28	56	0.1
なだれ防止保安林	0	398	398	0.4
魚つき保安林	97	410	507	0.6
保健保安林	51	5,652	5,703	6.3
風致保安林	356	451	807	0.9
計	2,444	88,040	90,484	100.2

京都府環境白書平成6年度版(1995)京都府環境企画課
京都府林業統計平成6年度版(1995)京都府林務課

5 海岸保全区域

津波、高潮、波浪等による被害から海岸を護るため海岸保全区域を定めている。府内の海岸は日本海にのみ存在し、その総延長は320.6kmであって、そのうち103.2kmを海岸保全区域に指定している。所管別では、運輸省所管67.8km、建設省所管14.8km、構造改善局所管3.0km、水産庁所管17.6kmとなっている。

6 宅地造成工事規制区域

宅地造成工事規制区域は京都市内に7地区、総面積7,778ha指定されている。

7 臨港地区

臨港地区は舞鶴市に8地区（舞鶴東港3地区、舞鶴西港5地区）、148ha指定され、宮津市に1地区（宮津港）、3ha指定されている。

8 港湾区域・港湾隣接区域

本府の港湾区域は、重要港湾1港（舞鶴港）、地方港湾3港（宮津港、久美浜港及び伏見港）がある。港湾隣接区域は運輸省所管海岸保全区域の陸側の区域である。

9 漁港区域

漁港は府内に35港あり、その内訳は第1種漁港22港、第2種漁港11港、第3種漁港1港、第4種漁港1港である。

10 温泉保護地域

本府では、温泉保護地域は指定されていない。温泉湧出源泉数は、平成5年度末現在で86ヶ所で、利用源泉数55ヶ所（うち自噴13ヶ所、動力42ヶ所）、未利用源泉31ヶ所となっている。

3-6 貴重な自然・保護すべき文化財等分布図

本図では、国定及び県立の各自然公園、史跡・名勝・天然記念物、埋蔵文化財及び鳥獣保護区等の貴重な自然環境・人間の歴史的遺産の分布を取り扱っている。

貴重な自然環境や人間の歴史的遺産である文化財等は、かけがえのない財産であることから、これらを良好な状態で保存し、維持・管理していくことが肝要である。

1 自然公園

京都府には、山陰海岸国立公園と琵琶湖国定公園・若狭湾国定公園及び笠置山・るり溪・保津峡府立自然公園がある。

自然公園においては、優れた自然の風致を維持するため、保護計画を定めている。保護計画では、特に保護する必要が高い地域を特別地域に指定し、工作物の新・改・増築、木竹の伐採、土地の形状の変更等は要許可行為として規制している。また、特別地域に含まれない普通地域においては、一定規模以上の工作物の新・改・増築、土石の採取、水面の埋め立てなどの行為について届け出制とし、現在の景観を極力保護するように努めている。

表 3-6-1 京都府の自然公園一覧

区分	公園名	指定年月日	面積 (ha)
国立公園	山陰海岸	S38. 7.15	1,206 (全面積 8,763)
国定公園	琵琶湖	S25. 7.24	1,643 (全面積 97,672)
	若狭湾	S30. 6. 1	5,634 (全面積 21,091)
府立自然公園	笠置山	S24.11.10	20.0
	るり溪	S24. 6. 8	36.3
	保津峡	S24. 8.31	71.3

京都府の公園(1993)京都府土木建築部公園緑地課

① 山陰海岸国立公園

鳥取砂丘で知られている山陰海岸国立公園は京都府、兵庫県、鳥取県にまたがる延長約75kmの海岸沿いに指定されている。このうち東端を占める京都府域は網野町朝茂川から久美浜湾を経て兵庫県境にいたる海岸一帯で観賞に

② 琵琶湖国定公園

琵琶湖を中心にその周りの山々や琵琶湖を源とする宇治川の一部が琵琶湖国定公園に指定されている。このうち京都府域には、比叡山地区、宇治川沿岸地区がある。

比叡山は京都市街地からみる東山連峰の最高峰であり、山中には延暦寺がある。

琵琶湖から発する瀬田川の水が宇治川ラインとなって山城平野に開口する宇治川両岸は急峻な地形を持つ。

③ 若狭湾国定公園

若狭湾国定公園は丹後半島から福井県の三方五湖にいたる延長約115kmにおよぶ海岸線沿いが指定されている。若狭湾はリアス式海岸で屈曲が多く、天然記念物「オオミズナギドリ」の生息する冠島がある。

日本三景の一つ天橋立を始め、経ヶ岬、丹後松島、太鼓島、琴引浜など景勝地が数多い。

④ 京都府立笠置山公園

木津川南岸にそびえる笠置山は、全山花崗岩からなる急峻な孤峰で、山の南、西面は比較的傾斜がゆるく、北東面は急斜面で、木津川が笠置山脈を横断する箇所にあたる。

ほとんど全山が広葉樹におおわれている明るい自然林。一木一草すべて元弘の遺跡で、昭和7年北岸を含め史跡に指定されている。

⑤ 京都府立るり溪自然公園

園部川が半国山の急傾斜を侵食して生じた花崗岩石英粗面岩からなる長さ4kmの溪谷。

最上流部は堰堤による人造湖（通天湖）があり、溪谷の主要部分は、名勝に指定されている。

⑥ 京都府立保津峡自然公園

亀岡から嵐山にいたる山峡を保津川が迂余曲折して流れ、13kmにわたる古生層の深いV字溪谷をなしている部分で、京都市内の両岸は風致地区に、一部は名勝に指定されている。

2 歴史的な自然環境保全地域

京都府環境を守り育てる条例に基づき、歴史的遺産と一体となって歴史的風土を形成し、文化上高い価値を持つ自然環境について調査を行い、緊急性の高い9カ所を歴史的な自然環境保全地域に指定している。

表 3 - 6 - 2 歴史的な自然環境保全地域の指定状況

指 定 年月日	名 称	面 積 (h a)		
		計	特別地区	普通地区
58. 3.15	男 山	18.25	4.75	13.50
59. 3.13	岩 戸 山	13.28	10.37	2.91
60. 3.15	花背大悲山	24.30	18.70	5.60
60.12.20	当 尾	19.68	2.33	17.35
62. 3.10	小 塩 山	28.38	4.13	24.25
63. 3.18	鷲 峰 山	27.76	12.80	14.96
元. 3.24	権 現 山	14.83	10.33	4.50
2. 3. 9	禅 定 寺	15.60	1.73	13.87
6. 7.12	常照皇寺	29.37	8.48	20.89

環境白書(1995)京都府環境企画課

3 文化財

府内には、建造物や美術工芸品などの国宝・重要文化財や、史跡名勝天然記念物などが数多くあり、国内でも有数の集積度を誇っている。これらは文化財保護法や府文化財保護条例にもとづき指定されている。

史跡名勝天然記念物は、歴史的な由緒ある寺跡や宮跡、あるいは古墳などが史跡に、庭園や峡谷などは名勝に、そして貴重な動植物や地質鉱物が天然記念物として指定され、種指定の天然記念物をのぞき、土地が指定を受けている。

また、伝統的な街道や集落景観を保存する重要伝統的建造物群保存地区が府内で5ヶ所選定されている。

4 埋蔵文化財

本図では、埋蔵文化財を先土器、縄文、弥生、古墳、飛鳥時代以降の各時代別にその分布状況をまとめた。また時代がまたがるものについては両者を併記し、時代不詳のものも区別した。

京都府は多くの文化財に恵まれた地域であるが、都市化の波が急速に押し

寄せて、自然環境や歴史的風土が変貌し、文化財の保護の上にも大きな影響が及んでいる。中でも現在破壊の危機に直面している埋蔵文化財は、我々先人の生活の場や生活様式を知る上で重要な手がかりとなる資料であり、京都府だけでなく、我が国の歴史・文化を正しく理解するために欠くことのできない文化遺産である。また、遺跡の埋没状況から当時の生活・文化の推移が推定されることもあり、学術的にも価値が高いものである。

なお、京都市地区については、「京都府遺跡地図第4分冊」を、その他の地区については「京都の文化財地図帳」を参照した。

5 鳥獣保護区

鳥獣保護区は、野生鳥獣を保護繁殖させるため、鳥獣の生息環境保全する必要のある地域に設定するものである。

京都府における鳥獣保護区は、平成6年現在、59カ所合計26,128haが設定されている。このうち特別保護地区は2カ所、142haである。

表 3 - 6 - 3 鳥獣保護区特別保護地区

名 称	面積 (ha)	所在地
瑞穂町 特別保護地区	98	瑞穂町
冠島沓島 特別保護地区	44	舞鶴市

京都府鳥獣保護区等位置図(平成6年度)京都府

6 風致地区

風致地区は、都市の健全な発展と秩序ある整備をはかることを目的とした都市計画法に基づいて指定されるものである。

京都府では、4市2町で、面積15,693.6haが指定されている。

表 3 - 6 - 4 風致地区の指定状況

都市計画区域名	市町名	指定面積
京 都	京都市	14,336.3
	向日市	79.5
	長岡京市	69.0
	大山崎町	93.3
宇 治	宇治市	970.5
宇 治 田 原	宇治田原町	145.0
全府計	6市町	15,693.6

京都府の都市計画 資料編(土地利用計画)(1993)京都府土木建築部都市計画課

7 近郊緑地保全区域

近畿圏の保全区域の整備に関する法律に基づき、既成都市区域の近郊の樹林地及びこれに隣接する緑地の中から近郊緑地保全区域を指定している。

府内では、4市1町で、面積6,878haが指定されている。

表3-6-5 近郊緑地保全区域の指定状況（平成6年3月現在）

市町名	京都市	宇治市	城陽市	長岡京市	大山崎町	合計
面積(ha)	3,341	1,563	1,107	715	152	6,878

環境白書(1995)京都府環境企画課

8 貴重な植物及び動物の分布

貴重な動植物の分布については、環境庁が自然環境保全法に基づき、おおむね5年ごとに行われる自然環境保全基礎調査（一般に緑の国勢調査と呼ばれる）により把握されている。

本図では、第2回自然環境保全基礎調査の動植物分布図（1981、1/20万環境庁）と第3回自然環境保全基礎調査（1989、1/20万環境庁）を貴重な植物及び動物分布の参考とした。これらの対照表は資料編に示す。

第2回自然環境保全調査によると、特定植物群落は86箇所取り上げられている。

両生類・爬虫類は、オオサンショウウオなど学術上重要な種として7種とりあげられている。また、淡水魚類は、ニホンバラタナゴほか8種類の貴重種が確認されている。昆虫類は、指標又は特定昆虫としてゲンジボタルなど110種がとりあげられている。

京都府におけるニホンザル、ニホンジカ、ツキノワグマ、イノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマの生息状況は資料編に示すとおりである。各哺乳類とも山間地域を中心に分布するが、ツキノワグマは本府中央部に生息し、南部では確認されていない。

3 - 7 土地利用動向図

この図は、過去から現在までに、市街地がどのような発展の経過をしてきたか、また、将来どのような地域でどのような土地利用が計画されているのか、それに対して、現在どのような法令や条例によって、土地利用規制や誘導が図られているのかと言った情報を総括的に編集したものである。

1 市街地の変遷

市街地の変遷を昭和35年、昭和45年、昭和55年、平成2年のそれぞれの人口集中地区(D.I.D)を表示し、その変遷を示した。

京都市周辺：昭和35年には京都盆地の大部分がD.I.D地区であり、山科、淀及び宇治市にもD.I.D地区が存在する。昭和45年になるとそれらが連なり、向日市、長岡京市、八幡市、城陽市にもD.I.D地区が現れて、南方へ市街地が広がっている。平成2年に至るまでその傾向が著しく、木津町や加茂町にもD.I.D地区が現れている。

舞鶴市：昭和35年に西舞鶴、中舞鶴、東舞鶴にD.I.D地区が存在し、昭和45年には中舞鶴と東舞鶴が連なり、その後、2地域で市街地が拡大している。

福知山市：福知山市街地は昭和35年にD.I.D地区となっており、その後、周辺に市街地が広がっている。また、近畿自動車道福知山インターの西側が開発整備され、昭和55年に旧市街地より一回り広い市街地が生じている。

綾部市、宮津市、網野町：それぞれの3地区、は昭和35年にD.I.D地区となって、その後、市街地は拡大している。宮津市・網野町は港湾を控えているため、もともと人口密度が高く昭和30年代からD.I.D地区が存在しているが、市街地の拡大は顕著でなく、平成2年のD.I.D地区面積はそれほど広くない。

亀岡市、峰山町：それぞれの2地区は、昭和45年にD.I.D地区となって、その後、市街地は拡大している。亀岡市の市街地の拡大は顕著であり、平成2年のD.I.D地区面積は宮津市や網野町の2倍以上となっている。

園部町：昭和55年にD.I.D地区となって、平成2年にわずかに市街地が広がっている。

2 土地利用規制等関係法令指定地

1) 都市地域

都市地域は、一体の土地として総合的に開発、整備し、及び保全する必要がある地域であり、都市計画法に基づく都市計画区域に相当する。

市街化区域は、市街地の開発、都市施設の整備を計画的に推進する区域

であり、市街化調整区域は、市街化を抑制すべき区域である。本府は、平成5年3月現在、市街化区域が30,958ha、市街化調整区域が127,967haとなっている。

2) 農業地域

農業地域は、農用地として利用すべき土地があり、総合的に農業の振興をはかる必要がある地域であり、農業振興地域整備に関する法律に基づく農業振興地域に相当する。

農用地区域は、農業振興地域整備計画のうち農用地利用計画により定められるもので、農用地などとして利用すべき土地の区域である。

この農用地利用計画に定められた農用地等の農業以外の用途への転換は、法律上、農地転用の禁止及び開発行為の制限等の処置がとられ、将来とも農用地等として積極的な利用を図ることとされている。

3) 森林地域

森林地域は、林業の振興または森林の有する諸機能の維持増進を図る必要がある地域であり、森林法に基づく国有林または地域森林計画対象民有林の区域に相当する。地域森林計画対象民有林において森林所有者は、府が編成する地域森林計画の遵守が義務付けられており、立木を伐採する場合には知事への事前届け出が必要であり、1haを超える森林の開発行為の場合には、知事の許可が必要である。

3 基幹的整備開発状況

平成5年度末現在の主要施設の整備開発状況について、とりあげている。以下整備済としているのは、平成元年度以降に整備済となったものについてのみとりあげている。

1) 都市開発・整備

① 土地区画整理事業

新市街地における3ha以上の土地区画整理法の事業を表示した。府下で事業計画47区域のうち整備済みのものは6区域である。

② その他の住宅団地造成事業

土地区画整理事業以外の3ha以上の造成事業を表示した。府下で事業計画17区域のうち整備済みのものは7区域である。

③ 工業団地造成事業

5ha以上の工業団地造成事業（農村工業導入地区に係るものを除く）を表示した。府下の事業計画3区域すべて整備済みである。

④ 商業・流通施設団地造成事業

3ha以上の流通業務団地、市場、卸売団地等の造成事業を表示した。府下の事業計画は1区域で整備済みである。

⑤ その他の大規模公共公益施設

3ha以上の学校、病院、社会福祉施設、コミュニティーセンター等の大規模公共公益施設を表示した。府下の事業計画は10区域のうち整備済みのものは2区域である。

2) 農業・農村整備

① ほ場整備事業

10ha以上の土地改良法により行うほ場整備事業を表示した。府下で事業計画162区域のうち整備済みのものは100区域である。

② 農用地造成事業

10ha以上の土地改良法により行う農用地造成事業を表示した。府下の事業計画は2区域で未整備である。

③ 農村工業導入事業

農村地域工業導入促進法第5条第2項第1号の工業導入地区を表示した。府下の事業計画8区域すべて整備済みである。

3) 森林整備・保全

① 森林整備・保全事業

生活環境保全林整備事業等の森林整備・保全事業を表示した。府下で事業計画6区域のうち整備済みのものは4区域である。

4) 休養・レクリエーション施設

① 公園・緑地

3ha以上の都市公園法第2条第1項の都市公園を表示した。府下で事業計画34区域のうち整備済みのものは9区域である。

② その他の休養・レクリエーション施設

10ha以上の観光レクリエーション地区等の休養・レクリエーション施設を表示した。府下の事業計画は19区域のうち整備済みのものは8区域である。

5) その他の施設

① ダム

たん水面積10ha以上の河川法第44条第1項のダムを表示した。府下で事業計画のある日吉ダムは、平成4年度に工事着手し、平成9年度に完了の予定である。

② 大規模導水路

琵琶湖疎水は1868年の東京遷都後、衰えていく京都の産業振興をはかって琵琶湖から水を引いたものである。その一部をトンネルで通して九条山に達し、一部は北の松ヶ崎へ、一部は東山西麓を伏見へ引いている。

③ 変電所

3ha以上の電源開発促進法第3条第1項の電源開発基本計画に定められた発電所（ただし、①ダムに記載されたものは除く）を表示した。府下の事業計画は1区域で整備済みである。

④ 公有水面埋立（干拓地を含む）

1ha以上の公有水面埋立法第2条第1項の埋立免許又は同法第42条第1項に係る区域及び港湾法第58条第2項の埋立免許又は承認に係る区域（ただし、全域が都市開発整備に記載されるものは除く）を表示した。府下の事業計画10区域のうち整備済みのものは4区域である。

4 交通施設整備状況

平成5年度末現在の交通施設の整備状況について、とりあげている。以下整備済としているのは、平成元年度以降に整備済となったものについてのみとりあげている。

1) 道路

① 高速自動車道路

道路法第3条第1号の高速自動車国道を表示した。府下の整備計画6路線のうち3路線が整備済みである。

② 一般国道

道路法第3条第2号の一般国道を表示した。府下の整備計画23路線のうち4路線が整備済みである。

③ 主要地方道

道路法第56条に基づき建設大臣の指定する主要な府道もしくは市道を表示した。整備計画路線16路線のうち5路線が整備済みである。

④ 農道

広域営農団地農道（広域農道）を表示した。府下の整備計画路線3路線のうち1路線が整備済みである。

⑤ その他の道路

①～④以外の土地利用動向に与える影響の大きい道路（広域基幹林道）を標示した。整備計画路線5路線はまだ未整備である。

2) 鉄道

① 新幹線

全国新幹線鉄道整備法第2条の新幹線鉄道を表示した。東海道新幹線はすでに整備済みである。

② 鉄道・その他

新幹線鉄道以外の鉄道事業法第2条の鉄道に係る鉄道を表示した。整備計画路線12路線のうち4路線が整備済みである。

3-8 土地保全基本図・土地保全基本指針マトリックス

本調査では、整理した基本情報図の地理的分布状況を把握し、かつ、自然環境条件図、土地利用・植生現況図、災害履歴図等の各図の要素間の重なり状況を検討し、自然環境条件と災害現象の面的な関係を把握した。そして、土地利用の制約性と可能性からみて、共通する土地属性を有する土地の区分を行い、適正な土地利用と保全を図るための基本指針を作成し、それをマトリックス表に整理した。

1) 利用方法

土地保全基本マトリックスでは、縦軸に土地保全基本図の土地区分を配列し、横軸の上欄に土地利用タイプ別の土地保全基本指針（配慮事項）、下欄に上欄の配慮事項に関する対応策の例をそれぞれ示した。縦軸（土地区分）と横軸（土地保全上の配慮事項）の交差欄には、各々の土地区分に対する配慮事項の拘束性を記号（●◎○）を用いて段階的に表示した。

このマトリックスを横軸に追うことにより、それぞれの土地区分に対して、土地の防災・保全上どのような点に配慮すべきか（横軸上欄）、又、それに対する対応策はどのようにしたらよいのか（横軸下欄）、を検索することができる。マトリックスを縦軸に追えば、それぞれの配慮事項が、どのような土地区分のところで適用されるべきかを検索することができる。

2) 土地区分

土地区分は、本府の土地保全上同質と考えられる地域を区分したものである。土地区分は、自然環境条件、土地利用・植生、災害履歴、防災対策の状況、土地利用の動向、貴重な自然・文化財等をすべて考慮し、その結果、地質を中心に地形・植生を加味したものとした。

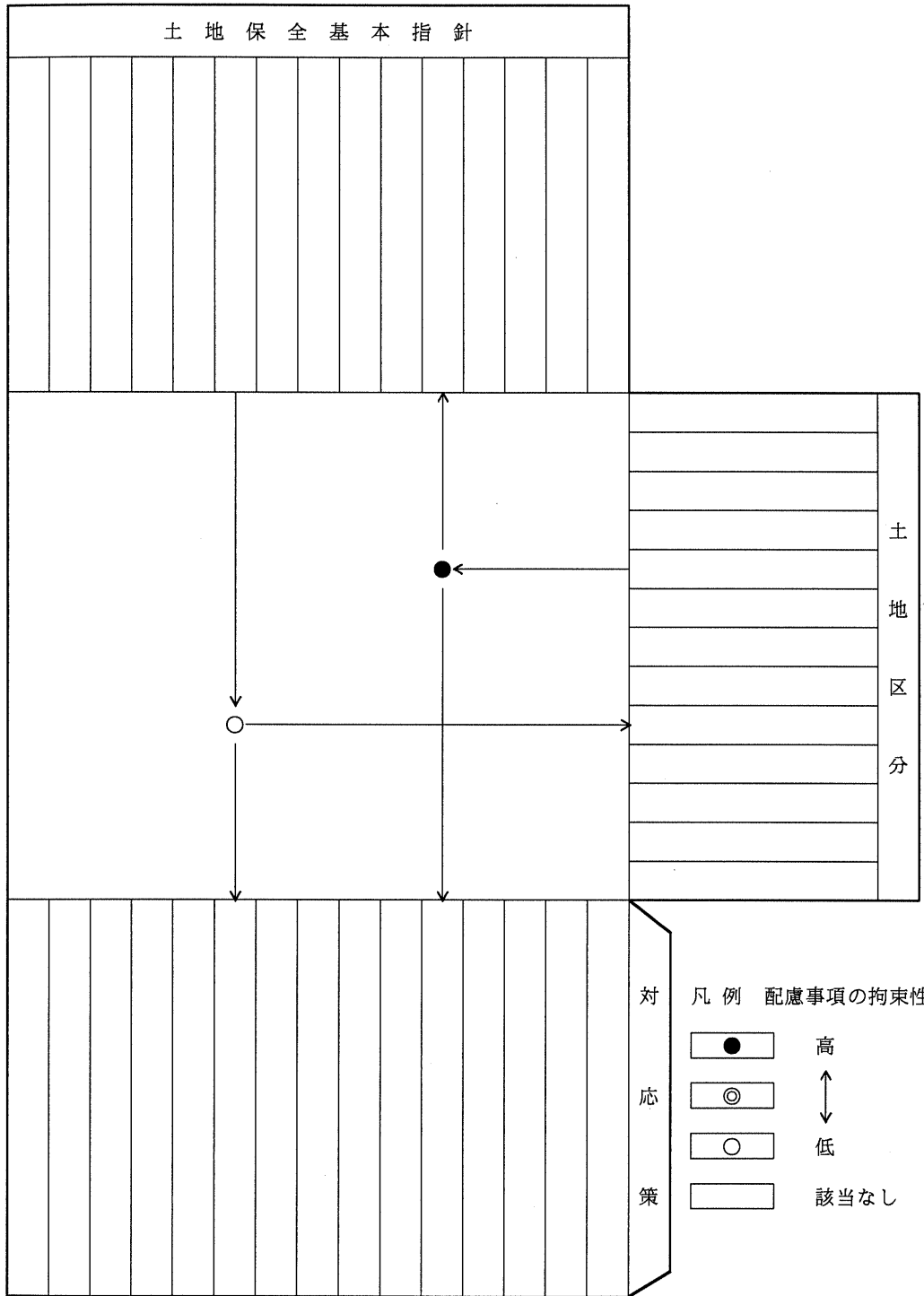


図 3 - 6 - 1 土地保全基本マトリックスの構成

第 4 章

第4章 土地保全基本指針

土地利用のあり方は、社会・経済的な情勢の変化や土木技術の向上等とあいまって、時代の流れとともに変化してゆくものである。現在では、社会・経済的な要請があれば、従来、土地利用上の障害因子となっていた各種条件も、資本金や高度な土木技術を駆使して開発を推進することも可能である。

しかし、こうした資本金、技術力を背景として推進される開発は、自然環境の保全、貴重な事象の保護といった観点からも十分検討されなければならない。人間による無秩序な土地改変は、環境に複雑かつ多大な影響を与え、ひいては将来にわたって生活環境を悪化させることになる。

土地資源は有限である。土地は、それぞれの土地が本来持っている地域固有の特性を生かして利用されることが望ましい。しかし、近年は土地開発の進む過程で、立地条件に恵まれた土地は次第に枯渇し、土地の特性には必ずしも適正とは言えない土地利用を余儀なくされているところが少なくない。

こうした土地利用は、本来その土地が潜在的に有していた自然環境の許容量を超え、様々な面で、災害の危険性を高めることにもつながっている。いったん災害が発生すると、人命や産業基盤はもとより、文化的・学術的遺産の社会的損失は図り知れないものがある。

自然環境条件の内的・外的営力による特性を事前に把握し、過去に生じた災害現象を理解した上で、適正な土地利用配置計画を行えば、災害は決して避けられないものではない。そのためには、自然環境特性を踏まえた、適正な土地利用と保全のあり方を事前に検討し、規制・誘導を図りつつ、土地利用計画を推進することがきわめて重要である。

本調査では、以上の観点から、災害の未然防止といった安全性を基本軸に、府下を共通な土地属性をもつ地域に区分し、これを基本として、適正土地利用の可能性と利用に際してとるべき保全策を検討した。その結果は「土地保全基本図及び基本指針マトリックス」（結論図）に編集したとおりである。

京都は、歴史的に社会・経済・文化の中心地であることから、数多くの文化財や遺跡に恵まれている。また、北部の日本海沿岸は、複雑な海岸線のほとんどが国立公園か国定公園で、日本三景の天橋立等、良好な景勝地に恵まれている。

京都府の北部及び中部地域では、山地が卓越していることから、流域面積が小さく勾配の急な河川が多く見られる。このため、梅雨期や台風期の豪雨により河川は急激に増水し、大規模な氾濫は少ないものの小規模な浸水被害

が生じやすい。

一方、南部地域は、古くから社会経済活動の中心として発展してきた地域であり、古くから治水事業が実施されてきた。しかし、近年の流域内の土地利用の高度化、都市機能の集中、資産の集積により、総合的な治水対策の観点に立った流出抑制対策や内水対策が重要な課題となっている。

京都府下において土地保全上留意すべき課題（土地保全基本指針）は、「土地保全基本図及び土地保全基本指針マトリックス」（本図）から詳細に読むことができるが、以下では、京都府下を1. 北部地域 2. 中部地域 3. 南部地域の3地域に分けて（図4-1）、それぞれの地域の土地保全上特に留意すべき事項を要約した。



図4-1 府内地域区分図

1. 北部地域

本地域は、日本海に面した舞鶴市と宮津市を中心とした海岸の低地部とその背後の丹後山地及び丹後半島地域から成っている。

自然景観、歴史、文化等を背景に「丹後リゾート開発」及び「北近畿高次機能集積ゾーン整備構想」が推進されている。

(1) 風水害・高潮対策

低地部は地形的に施設の立地が高い反面、洪水や高潮の被害を受ける危険性が高い。昭和34年9月には、伊勢湾台風による京都府内全域にわたる被害があり、由良川水系でも水害が発生した。予想を上回る集中豪雨もあり得るのでこうした自然環境を十分に考慮した対応が必要である。

(2) 地震・津波対策

軟弱地盤からなる地域では、特に地震時に激しい地盤振動が予想されるので、それに応じた構造物の強化が必要である。また、砂質地盤で地下水位の高い低地部では、地盤振動によって液状化現象を起こし、構造物の倒壊を招くおそれがあるので、適切な地盤改良や基礎の確保が必要である。また、海岸付近の低地では、津波に対する配慮が必要である。

昭和2年の北丹後地震では、死者2,925人におよぶ被害を受けた。その時、動いた郷村断層は、天然記念物として保存されており、現在でも道路がずれているのを確認することができる。

久美浜湾低地、伊根町蒲入海岸、由良川下流域、舞鶴低地などの沖積地は地盤が悪く、また、内陸部の大宮町や峰山町の竹野川流域低地の地盤もやや悪い。このような地域では、地震時の地盤振動による建造物被害等に配慮が必要である。

(3) 斜面崩壊・土石流対策

丹後半島に分布する宮津花崗岩は、深部まで風化が及んでおり、ことに粗粒黒雲母花崗岩において著しい。舞鶴湾を取り囲む山地にも夜久野岩類の花崗岩があり、同様に風化が著しい。また、昭和28年9月の13号台風の集中豪雨の際に、斑瀾岩（夜久野岩類）よりなる山地斜面は崩壊しやすいことが指摘された。舞鶴市に分布する超丹波帯の砂岩は、塊状灰緑色砂岩を主とし、圧碎岩化を受けている。

このような地域には、今後とも砂防・斜面保護対策等を継続的に強化するとともに集中豪雨時の避難体制を確立しておく必要がある。

(4) 地すべり対策

京都府下では、丹後半島の一部にまとまった地すべりの分布がみられる。すなわち、京都府与謝郡・竹野郡の地すべり地帯は、兵庫県の但馬地すべ

り地帯から連続するもので、新第三系（中新世）の北但層群に発生している。北但層群は、特に凝灰岩質岩層の部分に地すべりが発生しており、その内の過半数は、上部に火山岩層（安山岩類）がいわゆる”キャップロック”として存在しているのが特徴である。

昭和40年の風水害により丹後半島を中心に10数ヶ所の地すべりが発生した。府では、このうち3ヶ所において緊急地すべり対策工事を実施した。その後、地すべりは小康状態を保っている。

この地域は地質的に地すべりを生じやすい素因を有することから、地すべりに対する監視と、必要に応じて、砂防や地すべり対策事業の拡充、河川の護岸の強化などの対策が必要である。

(5) 地下水保全

丹後半島の西海岸には砂丘が発達し、その背後には閉塞性の湖や湾が見られる。これらの砂丘のうち地下水利用がもっとも盛んなのは久美浜砂丘である。砂丘地の地下水は、古砂丘の上部にある火山灰層とその上の古土壌を不透水層とし、新砂丘の砂層を帯水層とする不圧地下水である。

久美浜砂丘では、農業用の取水施設が70数ヶ所有り、年間50万トンあまりを揚水し、50ha余の畑地を灌漑している。その他上水道用として、15万トン余りの地下水を利用している。久美浜砂丘では、今のところ、塩水侵入は生じていないが、地下水使用量が増大すれば塩水侵入する可能性があるので、地下水の保全対策が必要である。

丘陵地や上流域の開発に伴う人工被覆を抑制し、透水性の確保に努めるとともに、適正な地下水利用についての配慮が必要である。

2. 中部地域

本地域は、舞福山地と丹波山地から成っている。舞福山地には、由良川が流れ、河岸段丘や谷底平野を形成し、福知山盆地がある。丹波山地は府の中央部を占め、主に中古生層の複雑な地質構造に支配された地形を示している。丹波山地の東側の若丹山地は、低地は少なく、わずかに由良川上流の河谷と周山盆地が発達するにすぎない。丹波山地の西側の撰丹山地は若丹山地より一段低く標高400～500mで、北は由良川流域、南は桂川が広がり亀岡盆地・河谷盆地・須地盆地や段丘もみられる。

(1) 風水害対策

昭和28年9月に、台風13号の集中豪雨によって、由良川が洪水氾濫して、綾部市街などが大きな被害を受けた。福知山盆地では、綾部より上流の由良川の河床勾配が急であるのに対して、下流由良川の勾配が緩やかである。

とくに、福知山より下流の勾配が緩やかであり、かつ谷幅が狭いので、洪水の時に排水難に陥り、盆地に湛水して遊水池化し、古来、しばしば氾濫してきた。

由良川の峡谷内には発電、防災のために立木、和知、大野ダムが設けられている。とくに大野ダムは大規模で、昭和28年の13号台風による下流の洪水後に防災のために建設された。桂川においては日吉ダムが下流の利水を目的として建設計画が進められている。

亀岡盆地の河原林町より下流では、昭和28年の台風13号により、保津峡が排水難になったため逆流氾濫を招いて、湛水地域となった。昭和24年には集中豪雨により、寒谷川上流をせき止めた平和池の堰堤が決壊し、下流の篠を中心に洪水災害が発生した。また、亀岡盆地において、桂川の支流三俣川、七谷川等は天井川となっている。天井川は破堤による洪水の潜在的危険性をもたらすだけでなく、排水不良に基づく慢性的な内水災害地区を出現させるため、防災上の配慮が必要である。

桂川は周山より下流で峡谷をなし、排水難のために洪水時に湛水、逆流氾濫を見る。

天井川の上流においては、砂防対策の拡充・強化が必要であり、由良川、大堰川の中下流においては、護岸工や堤防の拡充・強化が必要である。

(2) 地震対策

本地域では、地盤の悪い亀岡盆地や山間部の谷底平野において、地震時の地盤振動による建造物被害等に配慮が必要である。

(3) 土砂災害対策

昭和28年9月の13号台風に伴う集中豪雨は、総降水量600mmに達し、丹波山地内に斜面崩壊や土石流が発生した。

本地域の花崗岩は、丹後半島から続く宮津花崗岩、亀岡市の行者山花崗岩等がある。いずれも風化が深部まで及んでおり、風化土砂を流出しやすい。亀岡市西部の行者山花崗岩体と亀岡盆地内部の小丘陵の花崗岩体、両岩体ともに風化の顕著な部分では、地表下10m以上にわたってマサ化が進んでいる。

昭和28年9月の13号台風の集中豪雨の際に、斑糲岩（夜久野岩類）よりなる山地斜面は崩壊しやすいことが指摘された。また、大江山破碎帯の斑糲岩、蛇紋岩化した超塩基性岩は、山地崩壊を起こしやすい。

亀岡盆地の南の竜ヶ尾山の古生層の砂岩（丹波帯）の部分は山地斜面のうすい剥落が著しい。園部町北部から亀岡市南部の砂岩及び砂岩・泥岩互層（丹波帯）は、風化が著しい。塊状砂岩を主とし、層状砂岩も認められ

るが、その場合でもブロック化が著しい。超丹波帯の砂岩は、塊状灰緑色砂岩を主とし、圧砕岩化を受けている。

頁岩類（丹波帯）の黒色頁岩は、黒色～暗灰色を呈し、剥離性に富む。風化が進むと赤褐色を呈し、剥離が顕著となり、ペンシル型の岩屑の集合体に変化することが多い。

緑色岩類（丹波帯）は、鈍青緑色を呈し、不均質やや粗しょうのものは、粘板岩の中に挟まれ、緑色凝灰岩質の粘板岩を中間層として、粘板岩に漸移する。風化を受けやすく、風化すれば、赤褐色の土壌となり、母岩の境界部は粘土状となって滑りやすくなる。

丘陵地を構成する第三系の構成礫は、しばしば、くさり礫となっている。礫質堆積物（中新統上部～更新統上部の園部層）は、中礫大の角～亜角礫層で、チャート礫を除く頁岩・砂岩などの礫は風化してくさり礫となっている。礫岩（須知層）は、中～大礫を主とする中新統～鮮新統の固結岩である。風化すると赤色・褐色の”くさり礫”となるが、しまりはよい。

このような地域には、今後とも砂防・斜面保護対策等を継続的に強化するとともに集中豪雨時の避難体制を確立しておく必要がある。

(4) 地下水保全

丹波高原には、樹枝状の谷底平野が広がり、第四紀の堆積物が分布し比較的良好的な帯水層を形成している。たとえば、桂川水系の支流である胡麻川の最上流部で、層厚約35mの未固結堆積物（砂礫層）があり、そこから水位降下量わずか1mで、1200m³/dの地下水を採取しているところがある。

亀岡盆地では古くから浅井戸によって不圧地下水が採取され、飲雑用水・灌漑用水として利用されている。

丘陵地や上流域の開発に伴う人工被覆を抑制し、透水性の確保に努めるとともに、適正な地下水利用についての配慮が必要である。

3. 南部地域

本地域は、桂川流域・宇治川流域に属する京都盆地・その周辺山地及びその南の木津川流域である。宇治川下流域は、近年、都市化が進み、都市型水害の発生頻度が増加する傾向にある。

(1) 風水害対策

古代から現在まで、流域の森林の伐採、採草地や耕地造成、近年の住宅地、ゴルフ場、道路建設など、上流域の破壊が進むにつれて、水害や土砂害が激化してきた。それとともに治山治水工事をくりかえす長い歴史を経てきた。今日では上流の治山、溪床の整備、ダム建設をはじめ流域の水の

流出の総合管理によって治水が行われている。

鴨川は平安時代以来しばしば氾濫をくりかえし、防鴨河使が設けられたり、秀吉の時代には、氾濫を防ぐ堤防の効果を持たせた”御土居”が築かれたりした。昭和10年には鴨川が氾濫して大災害が生じた。京都盆地の鴨川の扇状地上に形成された市街地をみると、近年市街化が急激に進み、今なお局地的に内水災害などをみることがある。

京都盆地南部では、かつて、木津川、宇治川、桂川、巨椋池の堤防がしばしば決壊したので、河道がつけかえられ、明治以後、今日の三川合流が完成された。しかし、昭和28年台風13号の際、宇治川左岸（中書島の対岸の大黒島）で幅400mにわたって破堤して、旧巨椋池の再現を思わせるような湛水面を生じた。その後の高度経済成長期以降、住宅地化が進んできたが、内水排除に問題を残しており、昭和61年7月の大雨によって巨椋池干拓地を含む古川流域で浸水被害が発生した。宇治市遊田地区では2日間にわたって浸水した。

木津川の支流には天井川が発達している。築堤により木津川の河床が上昇するとともに本流に合流する支流の流入を容易にするために、計画的に河床を高くしたものである。天井川化することによって、上流からの土砂流出を容易にした。木津川右岸では鉄道や道路の上を天井川が架橋されている。

このような天井川の築堤によって堤内では逆に出水時に排水難に陥り、湛水氾濫によるいわゆる内水災害を生じる。湛水の内容は雨水のほかに、天井川からの漏水などよりなる。そのために水田の湿田化や大雨時の一時的冠水を招き、ポンプ排水や宅地化のための盛土など人工的に湛水に対して調節を必要とする地域となった。そのため木津川沿いの集落は微高地に盛り土をし、石垣を積んで盛り土集落をなし、集落の周りに堀を掘って環濠集落をなしている。

土砂流出の著しい天井川の上流においては、砂防対策、中・下流においては護岸工、堤防、排水機の拡充・強化が必要である。また、丘陵地や上流域では、開発に伴う人工被覆を抑制し、都市的土地利用地域では、雨水浸透施設の設置を推進するなどして、雨水表面流出を抑制する配慮が必要である。

(2) 地震対策

京都盆地南部の標高10～15mの地域は、軟弱地盤であり、地盤沈下が進むと水害となる危険性が大きい。桂川、鴨川、宇治川の各河川の下流部及び合流点付近では、地盤が液状化する危険がある。久御山町より木津町に

延びる木津川低地の地盤もやや悪い。また、琵琶湖疎水の導入路は山科から東山に抜けているが、導入路の破壊があると低い地域では浸水する危険がある。嵐山（保津峡右岸）、東山の比叡や大文字、桃山丘陵の西南端には急傾斜地があり、大地震時に崩壊する危険性がある。主として宅地造成と砂利採取行為によって生じた人工改変地は、市内の西南部及び北部～東部～東南部に多くみられる。特に盛土部においては、十分な締固めがなされていない場合に、大災害となる危険性を秘めている。

このような地域では、地震時の地盤振動による建造物被害等に配慮が必要である。

(3) 土砂災害対策

花崗岩地帯は、深部まで風化して”マサ化”が進んでおり、風化土砂を流出しやすい。本地域には京都市東北山地に北白川花崗岩、南山城に領家花崗岩が分布している。昭和28年8月15日に「南山城の大水害」が発生し、崩壊箇所は15,592ヶ所、崩壊土量は約800万 m^3 に及んだ。この地域には、過去に宝暦元年4月(1951)にも大水害を受けた記録がある。北白川花崗岩帯では、いわゆる”白川砂”の採掘が進められている。白川の北の音羽川では昭和47年9月に土砂流の氾濫により災害が生じた。台風20号に伴う集中豪雨にもとづくもので、上流の谷頭部における花崗岩の風化土層に人工的な土地改変が加わって崩壊が生じ、上流では土石流、下流では土砂流となって流下した。音羽川の旧河道は後につけかえられ、河道を狭くして現河道のように改められたために、土砂流は旧流路をたどって、その後、建設された小学校のグラウンドや校舎を横切り、現河道を埋めて氾濫した。

山麓に向かって住宅などの都市的土地利用が拡大していく場合に、耕地や河道を人工的に改変するにあたり、その土地の自然環境や災害履歴に基づく防災的配慮が必要とされる。

鮮新世の粘土は砂礫と比べ固結度が大きい。砂礫、とくに花崗岩質の砂礫は鮮新世のものであまり固結せず、また風化してくさり礫となつているところが多い。

大阪層群の砂・砂礫・粘土層は固結度が低く、工事は容易であるが、一方、切り取り法面は崩壊、流亡する傾向があるのでその点に十分な注意を要する。土質、法面勾配、地下水処理などに配慮が必要である。大阪層群の泥は乾燥するとよく締まり、固結するが、水を含んだ状態では、さほど締まっていない。海成粘土は硫酸イオンを多量に含み、鉄管埋設工事などで問題とされた。また風化過程で細かく碎ける特徴をもつ。花崗岩質砂層は粒子の密着が弱く、水が充満されたとき法面が流れ出し、崩壊することが

多い。大阪層群下部あるいは古琵琶湖層群相当層とされる、宇治・城陽丘陵から定寺・奥山田の砂礫を主とする地層は、いずれも固結せず、ルーズである。

綴喜層群は、部分的に石灰質層や団塊、あるいは礫質で硬いが、大部分は軟岩よりなる。綴喜層群最上位の田原花崗岩質砂礫岩層は、花崗岩質砂岩に細礫岩をはさむものであり、部分的に花崗岩そのもののように堅固であるが、風化し砂礫粒間がルーズなところも多い。栢凝灰質泥岩層は、硬く、緻密な暗灰色泥岩でほとんど層理を示さない。風化すると角ばった破片に壊れて崩れる。

緑色岩類に含めた輝緑凝灰岩は、風化するととくに粘土化が進みやすく、道路などの切り土による崖では粘土化した部分からの崩落が起こりやすい。

このような地域には、今後とも砂防・斜面保護対策等を継続的に強化するとともに集中豪雨時の避難体制を確立しておく必要がある。

(4) 軟弱地盤対策

沖積平野や干拓地は、シルト層や粘土層、砂層が厚く堆積した軟弱地盤である。軟弱地盤の地域は地盤支持力が低いため、高層建築物等の建設にあたっては、十分な基礎の確保が必要である。

かつて存在していた巨椋池は、京都盆地の最低部に生じた湛水域で、木津川、宇治川、桂川の流入と淀川の流出の差によって遊水池となったものである。旧巨椋池は、水深2mのごく浅い池であって、宇治川の掘削、太閤堤、槇島堤など堤防の築造によって、次第に縮小し、近年、排水干拓された。巨椋池の干拓は昭和8年から始まり、排水路網、東口の排水機の設置により昭和16年に完成した。乾陸化した土地は今日では都市的土地利用が進み、国道1号線が通り、向島から小倉にかけて京都市のニュータウンとなっている。

巨椋池の干拓地周辺は、標高10mに満たない低湿地で、粘土層を含む軟弱地盤地域なので、構造物等の基礎工に十分な配慮が必要である。

(5) 地下水保全

京都盆地における地下水位は、現在では、安定した状況にあるが、1956～1966年の間、中京区、下京区で地下水位が約5m低下し、その結果地盤沈下が表面化した。京都市南部、向日市、長岡京市、大山崎町などの地域では上水道用・工業用の地下水採取により、地下水位が低下し、1975～1987年までの間に2cm以上の地盤沈下が観測された。

相楽丘陵では、鮮新世の地層と大阪層群相当層が帯水層を形成し、その厚さは約100mに達している。深井戸により1井あたり700～1000m³/dの地

下水が利用されている。

丘陵地や上流域の開発に伴う人工被覆を抑制し、透水性の確保に努めるとともに、適正な地下水利用についての配慮が必要である。

調査成果についての留意点

<地質の編集について>

京都府の中央部から北西部にかけては1 / 5万地質図幅が公表されており、同じく中央部から南版部にかけては1 / 5万土地分類図の表層地質図が公刊されている。

主としてこれらの資料を用いて1 / 15万地質図のコンパイルを行ったが、資料は次のように、作成年度が異なり、その精度や信頼性もまちである。

(地質図幅)

「冠島」(1958)、「宮津」(1960)、「丹後由良」(1958)、「舞鶴」(1961)、「小浜」(1957)、「大江山」(1965)、「福知山」(1990)、「綾部」(1989)、「四谷」(1994)、「園部」(1991)、「京都西北」(1989)

(土地分類—表層地質図—)

「綾部」(1984)、「四谷・小浜・北小松・熊川」(1987)、「園部・広根」(1983)、「京都西北」(1981)、「京都西南部」(1972)、「京都東北・京都東南部」(1984)、「奈良・上野」(1983)

以上のリストをみてもわかるように、京都府北部の地質図幅は殆どが1950年代の調査資料を基に作成されている。それに対して、府中央部の地質図幅は殆どが1990年代に公刊されており、そのギャップは大きい。その間、日本列島の地質に関する見解は大きく変化し、従って、地質解釈や地質図の作成手法にも大きな差が生じている。

中央部から南部の表層地質図は、殆どが1980年代に作成されたもので、近代地質学の洗礼を受けた後の作成となっているが、その後公刊された中央部の地質図幅との間にはなお幾多のギャップがみられる。

従って、15万分の1地質図のコンパイルに当たっては、次のような基準を設けて作業を進めた。

- ① 1990年代の地質図幅のデータを最優先させる。
- ② 南部の5万分の1地質図幅のないところについては、表層地質図の資料を用い、周辺の5万分の1地質図幅との整合性をとりながら、15万分の1地質図を作成する。
- ③ 北部で、古い地質図はあるが、表層地質図のない部分については、岩層分布については地質図によるが、全体の構造・地質解釈などについては、学会誌などに発表された1980年代以降の諸論文の地質図(例えば日本地質誌・近畿地方-1987-など)を参照した。
- ④ 北部で、5万分の1地質図も表層地質図もない部分については、前述の論文のほか、20万分の1地質図・土地分類図などを参考に補完した。

参考資料・文献リスト

◎自然環境条件図

土地分類基本調査「園部・広根」

1986年 4月 京都府農林部耕地課

○地形分類図	1/ 5万	1985年 3月	京都府
○表層地質図	1/ 5万	〃	〃
○土 壤 図	1/ 5万	〃	〃
○傾斜区分図	1/ 5万	〃	〃
○水系・谷密度図	1/ 5万	〃	〃
○土地利用現況図	1/ 5万	〃	〃

土地分類基本調査「綾部」

1986年 3月 京都府農林水産部耕地課

○地形分類図	1/ 5万	〃	京都府
○表層地質図	1/ 5万	〃	〃
○土 壤 図	1/ 5万	〃	〃
○傾斜区分図	1/ 5万	〃	〃
○水系・谷密度図	1/ 5万	〃	〃
○土地利用現況図	1/ 5万	〃	〃

土地分類基本調査「大阪東北部・奈良・上野」

1983年 3月 京都府農林部耕地課

○地形分類図	1/ 5万	〃	京都府
○表層地質図	1/ 5万	〃	〃
○土 壤 図	1/ 5万	〃	〃
○傾斜区分図	1/ 5万	〃	〃
○水系・谷密度図	1/ 5万	〃	〃
○土地利用現況図	1/ 5万	〃	〃

土地分類基本調査「京都西南部」

1972年 経済企画庁総合開発局国土調査課

○地形分類図	1/ 5万	〃	経済企画庁
○表層地質図	1/ 5万	〃	〃
○土 壤 図	1/ 5万	〃	〃
○傾斜区分図	1/ 5万	〃	〃
○水系・谷密度図	1/ 5万	1972年	〃

土地分類基本調査「四谷・小浜・北小松・熊川」

1987年 3月 京都府農林水産部耕地課

○地形分類図	1/ 5万	〃	京都府
○表層地質図	1/ 5万	〃	〃
○土 壤 図	1/ 5万	〃	〃
○傾斜区分図	1/ 5万	〃	〃
○水系・谷密度図	1/ 5万	〃	〃
○土地利用現況図	1/ 5万	〃	〃

土地分類基本調査「京都東北部・京都東南部・水口」

1984年 4月 京都府農林部耕地課

○地形分類図	1/ 5万	1984年 3月	京都府・滋賀県
○表層地質図	1/ 5万	〃	〃
○土 壤 図	1/ 5万	〃	〃

○傾斜区分図	1/ 5万	//	//
○水系・谷密度図	1/ 5万	//	//
○土地利用現況図	1/ 5万	//	//
土地分類基本調査「京都西北部」		1981年12月	京都府農林部耕地課
○地形分類図	1/ 5万	//	京都府
○表層地質図	1/ 5万	//	//
○土 壤 図	1/ 5万	//	//
○傾斜区分図	1/ 5万	//	//
○水系・谷密度図	1/ 5万	//	//
○土地利用現況図	1/ 5万	//	//
土地分類図(京都府)	1/20万	1976年	国土庁土地局
海洋地質図 38 経ヶ岬沖表層堆積図	1/20万	1993年	地質調査所
京都地学、6、1-6 京都府奥丹後半島における中新統の層序について(東 洋一)		1977年	
地球科学、63、1-9、近畿地方の新期新生代層の研究 I - 京都東南、深草付近の新生代層(深草団体研究会)		1962年	
応用地質学の最近の研究、121-130、京都市の地盤について(藤原重彦)		1982年	応用地質学会関西支部
5万分の1地質図幅「冠島」及び同説明書、12P、(広川治1/ 5万・黒田和男)		1957年	地質調査所
5万分の1地質図幅「鋸崎」及び同説明書、22P、(広川治1/ 5万・黒田和男)		1957年	//
5万分の1地質図幅「小浜」及び同説明書、31P、(広川治1/ 5万・磯身 博・黒田和男)		1957年	//
5万分の1地質図幅「但馬竹田」及び同説明書、51P、(広川治1/ 5万・東郷文雄・神戸信和)		1954年	//
5万分の1地質図幅「宮津」及び同説明書、31P、(広川治1/ 5万・黒田和男)		1960年	//
京都北西部地域の地質、地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)、84P、(井本伸宏・清水大吉郎・武蔵野実・石田志朗)		1989年	//
園部地域の地質、地域地質研究報告、(5万分の1地質図幅)、68P、(井本伸宏・松浦浩久・武蔵野実・清水大吉郎・石田志朗)		1991年	//
5万分の1地質図幅「舞鶴」及び同説明書、50P、(猪木幸1/ 5万・黒田和男・服部 仁)		1961年	//
5万分の1地質図幅「大江山」及び同説明書、81P、(猪木幸1/ 5万・幸男・黒田和男)		1965年	地質調査所
上郡地域の地質、地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)、74P、(猪木幸男・弘海原 清)		1980年	//

5万分の1土地分類基本調査「大阪東北部・奈良・上野」1/5万、46-55、(石田志郎)	1981年	京都府
地質雑誌、60、160-166、京都府奥山田の新生代層(石田志朗・糸魚川淳二・森島正夫・森下晶・中沢圭二・小黒譲司)	1954年	
彦根西部の地質、地域地質研究報告(5万分の1図幅)(石田志朗・河田清雄・宮村 学)	1984年	地質調査所
地質雑誌、89、443-454”丹波層群”を構成する2組の地層群について、丹波帯西部の例(石賀裕明)	1983年	
地球科学、39、31-43 丹波帯の中・古生界の年代と構造形成(石賀裕明)	1985年	
地球科学、32、301-310 舞鶴帯南部の夜久野オフィオライト概報(石渡 明)	1978年	
20万分の1地質図幅「京都及び大阪」(河田清雄・宮村 学・吉田史郎)	1986年	地質調査所
地質雑誌、56、119-124 京都府加佐郡志高地方の地質(神戸信和)	1950年	
京都府北部の志高層群、日本三畳系の地質、48-55、(神戸信和)	1951年	地質調査所
5万分の1地質図幅「佐用」及び同説明書(神戸信和・広川 治)	1/5万 1963年	//
綾部地域の地質、地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)、104P、(木村克己・牧本 博・吉岡敏和)	1989年	//
四谷地域の地質、地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)、(木村克己・中江・高橋)	1994年	//
近畿地方土木地質図及び同解説書(近畿地方土木地質図編纂委員会)	1981年	国土開発技術センター
農業用地下水調査、開発調査、亀岡盆地地区調査報告書、25P	1973年	近畿農政局
農業用地下水利用実態調査報告書、13-14・18-23	1979年	近畿農政局
地球科学、35、312-320 近畿・東海地方における鮮新世・最新世の構造運動	1973年	近畿・東海地方 新生代研究グループ
地球科学、40、64-67、京都府福知山地域の超丹波帯、構成岩類と分布について(栗本史雄)	1986年	
地質雑誌、64、68 京都府大江町河西付近の中・古生層(中沢圭二・野上裕生)	1958年	
地質雑誌、63、455-464 京都府夜久野地区の中・古生層(中沢圭二・志岐常正・清水大吉郎)	1957年	
地質雑誌、64、125-137 舞鶴地帯の中・下部三畳系総括(中沢圭二・志岐常正・清水大吉郎・野上裕生)	1958年	

日本の地質6、近畿地方（日本の地質「近畿地方」編集委員会）	1987年	共立出版
地球科学、21、1-10 京都盆地南西、西山山麓の大阪層群（西山団研グループ）	1967年	
京都府水理地質図（農林水産省近畿農政省）	1983年	農林水産省
地質雑誌、68、237-247、舞鶴層群の層序、（清水大吉郎・中沢圭二・志岐常正・野上裕生）	1962年	
地質雑誌、68、334-340 舞鶴層群の堆積と二疊紀構造運動－舞鶴地帯の層序と構造－（清水大吉郎・中沢圭二・志岐常正・野上裕生）	1962年	
地質雑誌、88、835-848、舞鶴地域における舞鶴層群の層序と地質構造（鈴木茂之・杉田宗満・光野千春）	1982年	
地球科学、23、187-193、丹波地帯の古生界（その1）、京都府北桑田郡京北町東部の古生層（丹波地帯研究グループ）	1969年	
地球科学、25、211-219、丹波地帯の古生界（その2）、京都府北桑田郡京北町南部の古生層（丹波地帯研究グループ）	1972年	
地球科学、28、57-63、丹波地帯の古生界（その3）、京都市北方大森・雲ヶ畑地域の古生層（丹波地帯研究グループ）	1974年	
地球科学、33、137-143、丹波地帯の古生界（その4）、京都市北西山地の中・古生界の岩相と地質構造（丹波地帯研究グループ）	1979年	
地球科学、33、247-257、丹波地帯の古生界（その5）、京都市北西山地の中・古生界のコノドント化石（丹波地帯研究グループ）	1979年	
地球科学、34、200-204、丹波地帯の古生界（その6）、京都府北桑田郡京北町東南部の地質（丹波地帯研究グループ）	1980年	
地球科学、44、77-90、丹波地帯の中・古生界（その7）、福井県遠敷郡名田庄村南部地域に分布するI型地層群（丹波地帯研究グループ）	1990年	
活断層研究、NO、6、P、55-63 京都北部、中丹地域の活断層（植村義博）	1989年	
第四紀研究、Vol、26、P、97-109 京都盆地周辺部における第四紀の断層活動及び盆地形成過程（吉岡敏和）	1987年	

◎土地利用・植生現況図

第2回自然環境保全基礎調査（植生調査）現存植生図	1/5万	1982年	環境庁
「冠島」「丹後由良」「舞鶴」「綾部」「網野」「宮津」「大江山」			
「福知山」「塩江」「城崎」「出石」「但馬竹田」			
第3回自然環境保全基礎調査（植生調査）現存植生図	1/5万	1985年	〃
「水口」「上野」「熊川」「北小松」「京都東北部」			
		～1987年	

「京都東南部」「奈良」「小浜」「四ッ谷」「京都西北部」

「京都西南部」「大阪東北部」「園部」「広根」「篠山」

京都の水産 これからの漁業 1995年 3月 京都府水産事務所
京都府水産要覧 平成6年度 1/20万 京都府

◎災害履歴図及び防災保全等関係法令指定図

京都府地域防災計画 1995年 3月 京都府防災会議
京都府地域防災計画 震災対策計画編 1993年 6月 京都府防災会議（事務局）
消防防災年報 平成5年版 1995年 1月 京都府
京都府水防計画 1995年 京都府
京都の砂防と災害 1994年 3月 京都府土木建築部砂防課
砂防指定地・地すべり防止区域・急傾斜地崩壊危険区域1/15万 1994年 4月 京都府土木建築部砂防課
位置図
7. 2 1 豪雨のつめあと 京都府土木建築部
土砂災害防災パンフレット(点検マップ) 1/2.5万 京都府土木建築部砂防課
～
1/ 5万
地すべり防止区域位置図(内部資料) 1/2.5万 農林水産部耕地課
地すべり等崩壊災害危険地調査 1/ 5万 農林水産部耕地課
地すべり防止区域位置図(内部資料) 1/ 5万 農林水産部森林保全課
地すべり危険地位置図(内部資料) 1/20万 農林水産部森林保全課
地すべり、18,29-38 近畿地方の地質分帯と地すべり変 1982年
動(藤田 崇)
京都府保安林配備図 1/20万
京都府宅地造成工事規制区域図 1970年 5月 京都府土木建築部建築課
海岸保全区域図(No.1、No.2、No.3、No.4) 1/ 5万 1991年 京都府
京都の河川と海岸 1993年 3月 京都府土木建築部河川課
京都府河川・海岸図 1/ 1 5万 京都府土木建築部
京都府漁港位置図 1/10万 京都府農林水産部水産課
舞鶴港(舞鶴港計画図) 1/1.6万 1993年 京都府港湾事務所
京都府防災・保全等規制現況図 1/ 5万 1979年 1月 京都府
1/20万
平成6年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果 1995年10月 京都府
[新編]日本の活断層一分布図と資料 1/30万 1991年3月 活断層研究会
全国の地盤沈下地域の概況 平成6年度 1995年11月 環境庁水質保全局

◎防災・土地保全等施設図

京都府京都土木事務所管内図 1/ 5万 1990年 1月 京都府京都土木事務所
京都府乙訓土木事務所管内図 1/ 4万 1994年 京都府乙訓土木事務所
京都府乙訓土木事務所管内図 1/ 1万 // //
京都府宇治土木事務所管内図 // 京都府宇治土木事務所

京都府宇治土木事務所管内図	1/ 5万 1995年	京都府土木建築部
京都府田辺土木事務所管内図	1/2.5万1992年	京都府田辺土木事務所
京都府田辺土木事務所管内図	1/ 5万 1994年	京都府土木建築部
京都府木津土木事務所管内図	1/ 5万 1994年	//
京都府周山土木事務所管内図	1/ 5万 //	//
京都府亀岡土木事務所管内図	1/ 5万 1995年 5月	京都府土木建築部
京都府園部土木事務所管内図	1/ 5万 1994年 4月	//
京都府綾部土木事務所管内図	1/ 5万 1994年	京都府土木建築部
京都府福知山土木事務所管内図	1/ 5万 1994年	//
京都府舞鶴土木事務所管内図	1/ 5万 1994年 4月	//
京都府宮津土木事務所管内図	1/ 5万 1994年 4月	//
京都府峰山土木事務所管内図	1/ 5万 1994年	//
由良川・円山川地域主要水系利水現況図	1/ 5万	国土庁土地局
淀川・大和山・紀の川水系利水現況図	1/ 5万 1970年 3月	経済企画庁総合開発局
京都府雨量水位テレメータ配置図	1/15万	京都府土木建築部

◎貴重な自然及び保護すべき文化財分布図

地域環境地図情報（自然編）	1987年 3月	京都府衛生部公害対策室
○京都府自然環境保全指定地域図	1/15万	
○京都府動植物分布図（その1）	1/15万	
〔植物群落，昆虫類，鳥類〕		
○京都府動植物分布図（その2）	1/15万	
〔ほ乳類，両生・は虫類，淡水魚類〕		
地域環境地図情報（自然編）		
○京都府動植物分布図（改訂版）	1/15万 1989年 3月	京都府衛生部環境対策室
自然環境情報図（京都府）	1/20万 1989年	環境庁
自然環境保全調査報告書（基礎調査） 京都府		環境庁
○京都府現存植生図	1/20万 1975年	
○京都府植生自然度図	1/20万 //	
○京都府すぐれた自然図	1/20万 1976年	
特定植物群落調査報告書 追加調査・追跡調査（京都府）	1988年	環境庁
第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図 京都府	1/20万 1981年	環境庁
自然環境保全基礎調査報告書 京都府の昆虫（I）	1983年	京都府
自然環境保全基礎調査報告書 京都府の両生・は虫類	1987年	//
京都府歴史的な自然環境保全地域	1995年 4月	京都府
環境白書	1995年 3月	京都府環境企画課
京都府鳥獣保護区等位置図（平成6年度）	1/15万	京都府
平成6年度 京都府で狩猟をされる皆さんに		京都府
琵琶湖国定公園区域図	1/ 5万 1974年 3月	京都府土木建築部都市計画課
平成6年度公共用水域及び地下水の水質測定結果	1995年	京都府

京都府立るり溪自然公園区域図	1/ 7千		
京都府立保津峡自然公園区域図	1/ 5万	1974年 3月	京都府土木建築部都市計画課
京都府立笠置山自然公園区域図	1/ 5千	〃	〃
山陰海岸国立公園計画図	1/ 5万		
若狭湾国定公園（京都府地域）区域及び公園計画図	1/ 5万		
花背大悲山 京都府歴史的自然環境保全地域		1992年 4月	京都府保健環境部環境対策室 環境企画課 緑の環境推進係
禪定寺 京都府歴史的自然環境保全地域		1993年 3月	〃
鷲峰山 京都府歴史的自然環境保全地域		〃	〃
小塩山 京都府歴史的自然環境保全地域		〃	〃
当尾 京都府歴史的自然環境保全地域		1992年 4月	〃
岩戸山 京都府歴史的自然環境保全地域		1993年 3月	〃
男山 京都府歴史的自然環境保全地域		〃	〃
権現山 京都府歴史的自然環境保全地域		1989年 3月	京都府衛生部環境対策室（自然保護担当）
常照皇寺京都府歴史的自然環境保全地域		〃	〃
常照皇寺京都府歴史的自然環境保全地域 指定書及び保全計画書		1994年	京都府
禪定寺京都府歴史的自然環境保全地域 指定書及び保全計画書		1990年	京都府
権現山京都府歴史的自然環境保全地域 指定書及び保全計画書		1989年	〃
鷲峰山京都府歴史的自然環境保全地域 指定書及び保全計画書		1988年	〃
小塩山京都府歴史的自然環境保全地域 指定書及び保全計画書		1987年	〃
当尾京都府歴史的自然環境保全地域 指定書及び保全計画書		1985年	〃
花背大悲山京都府歴史的自然環境保全地域 指定書及び保全計画書		1985年	〃
岩戸山京都府歴史的自然環境保全地域 指定書及び保全計画書		1984年	〃
男山京都府歴史的自然環境保全地域 指定書及び保全計画書		1983年 3月	〃
巨樹・巨木林調査報告書 近畿版（滋賀県・京都府・ 大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県）		1991年	環境庁
京都の文化財地図帳		1984年 3月	（財）京都府文化財保護基金
京都の文化財地図帳（平成5年改訂増補）		1994年12月	（財）京都府文化財保護基金
京都府遺跡地図 第1分冊 [第2版]	1/ 1万	1988年 3月	京都府教育委員会
京都府遺跡地図 第2分冊 [第2版]	1/ 2.5万		
京都府遺跡地図 第2分冊 [第2版]	1/ 1万	1987年 3月	〃
	1/ 2.5万		

京都府遺跡地区 第3分冊 [第2版]	1/ 1万	1986年 3月	〃
	1/2.5万		
京都府遺跡地区 第4分冊 [第2版]	1/ 1万		〃
	1/2.5万		
京都府遺跡地区 第5分冊 [第2版]	1/ 1万	1985年 3月	〃
	1/2.5万		
地図にみる京都の歴史	1/1.3万	1976年10月	京都市史編さん委員会
	〃		
	1/ 3万		
平安京提要 付図			角川書店
○平安京条坊復元図	1/ 1万		
○平安京大内裏(平安宮)復元図	1/2.5千		
○平安宮内裏復元図	1/ 1千		
○平安宮朝堂院・豊楽院復元図	〃		
京都府の公園	1995年 3月	京都府土木建築部公園緑地課	
京都府指定・登録等文化財市町村別件数一覧	1995年 3月	文化財保護課	
京都府指定・登録文化財・文化財環境保全地区 及び選定保存技術件数一覧	1995年 3月	〃	
国宝・重要有形文化財市(区)町村件数一覧	1995年 6月	〃	
京都府指定・登録文化財等目録 (付録 市町村指定文化財目録)	1992年11月	京都府教育委員会	

◎土地利用動向図

平成6年度 土地利用動向調査	1/20万	1994年11月	京都府土地政策室
京都府の都市計画		1992年	京都府土木建築部都市計画課
京都府の都市計画 資料編 (土地利用計画)		1993年 3月	〃
京都府都市計画総括図(綾部)	1/2.5万	1994年 5月	京都府土木建築部都市計画課
京都府都市計画総括図(福知山)	1/2.5万	1990年 3月	〃
京都府都市計画総括図(京都)	1/2.5万	1993年 3月	〃
京都府都市計画総括図(丹波)	1/2.5万	1994年	京都府土木建築部
京都府都市計画総括図(峰山・網野)	1/2.5万	1990年 3月	〃
京都府都市計画総括図(宮津)	1/2.5万	1991年 4月	〃
京都府都市計画総括図(舞鶴)	1/2.5万	1994年 5月	京都府土木建築部都市計画課
京都府都市計画総括図(宇治・綴喜・相楽・宇治田原)	1/2.5万	1992年12月	〃
京都府都市計画区域図	1/15万	〃	〃
京都府都市計画総括図(南丹)区域区分の変更案総括図 (特定保留解除)		1992年12月	
京都府都市計画総括図(宇治・綴喜・相楽・宇治田原) 区域区分の変更案総括図	1/2.5万		
京都府都市計画市街化区域及び市街化調整区域区分図 (相楽)区域区分の変更案総括図	1/2.5万		京都府土木建築部都市計画課
昭和35年国勢調査報告 第4巻 都道府県編その26 京都府	1960年		総理府統計局

昭和45年国勢調査報告 第3巻 都道府県・市町村編 その26 京都府	1970年	//
昭和55年国勢調査報告 第2巻 基本集計結果(1) その2 都道府県・市区町村編 26京都府	1980年	//
平成2年国勢調査報告 第2巻 第1次基本集計結果 その2 都道府県・市区町村編 26京都府	1990年	//
丹波広域基幹林道 建設事業路線計画図	1/ 5万	京都府農林水産部林務課・丹波 広域基幹林道建設事務所
京都府亀岡土地改良事務所管内図	1/ 5万	
京都府丹後土地改良事務所事業位置図	1/ 5万 1995年	京都府丹後土地改良事務所
京都府中丹土地改良事務所事業位置図	1/ 5万 1995年	京都府中丹土地改良事務所
京都府南丹土地改良事務所管内図 事業実施箇所位置図 (船井郡・北桑田郡・亀岡市の一部)	1/ 5万 1992年	京都府南丹土地改良事務所
京都府山城土地改良事務所事業位置図	1/ 5万 1992年 3月	京都府山城土地改良事務所

◎その他

京都府土地利用基本計画	1/ 5万 1995年 4月	京都府
	1/20万	
平成5年 京都府統計書	1995年 3月	京都府総務部統計課
平成6年度 農林水産部行政の概要		京都府農林水産部
あすへひろがる京都の農林水産業	1993年11月	京都府農林水産部
京都の農業農村整備(京都府の農業農村整備事業位置図)	1/20万 1995年	京都府農林水産部耕地課
京都府林業統計 平成6年版	1994年11月	京都府農林水産部林務課
京都府工場用地案内	1/15万 1994年11月	京都府商工部工業課
京都の景観 保全と創造	1991年	京都市都市計画局都市景観部
京都国際文化観光都市建設計画 総括図-3(景観保全)	1/ 3万 1991年 7月	京都市計画局
京都府木津地方振興局管内図	1/ 5万 1990年	京都府木津地方振興局
京都府峰山地方振興局管内図	1/ 5万 1992年 1月	京都府峰山地方振興局
丹波リゾート構想	1989年10月	京都府企画・活性化局地域整備推進室
丹波リゾート構想圏域図	1/ 5万 1990年 3月	丹波リゾート推進連絡協議会
京の川-山紫水明処(2版)	1995年 3月	京都市建設局
府政のしおり	1995年	京都府知事公室広報課
京都府管内図	1/15万	京都府土木建築部
京都府管内道路図	1/20万 1995年 4月	
1/20万 地勢図(京都全域)	1/20万 1991年10月	国土地理院
	~	
	1995年 7月	
1/ 5万 地形図(京都全域)	1/ 5万 1981年12月	国土地理院
	~	
	1995年 8月	

資料編

資料編の目次

1. 京都府における主な災害一覧表	132
2. 近畿地方における大地震の分布	156
3. 既往被害地震	157
4. 史実に正確を期し難い地震	161
5. ダム一覧表	162
6. 京都府雨量水位観測所一覧表	163
7. 建設省雨量水位観測所一覧表	173
8. 建設省所管砂防指定地・地すべり防止区域・急傾斜地崩壊危険区域 一覧表	175
9. 建設省所管の地すべり防止区域	176
10. 林野庁所管の地すべり防止区域	176
11. 構造改善局所管の地すべり防止区域	176
12. 災害危険区域一覧表	177
13. 宅地造成工事規制区域	179
14. 海岸保全区域所管別諸元	179
15. 京都府の漁港	179
16. 国指定選定文化財の全国及び京都府内所在件数等一覧表	180
17. 特別史跡・名勝・天然記念物、重要伝統的建造物群保存地区	180
18. 京都府指定・登録等文化財市町村別件数一覧	181
19. 哺乳類分布メッシュ図	182
20. 貴重な植物及び動物の生育地対照表	184
21. 都市計画区域等の状況	188
22. 地域地区決定状況	189

1. 京都府におけるおもな災害一覧表（京都府地域防災計画、1995、京都府防災会議）

西暦	年号	月 日	災害の 種類	災害の原因	おもな被害地域	おもな観測値	おもな 被害
1864	元治元年	5月29日 (7月2日)	洪水		京都		
〃	〃	11月23日 (12月21日)	初雪		京都		
〃	〃	12月16日 〔1985年〕 1月13日	深雪		京都		
1866	慶応2年	5月14日 (6月26日)	洪水		京都丹後	大雨洪水	
〃	〃	8月6日 (9月14日)	洪水		近畿	大風雨洪水	
1868	明治元年	閏4~5月 (5~7月)	洪水		近畿	豪雨洪水	
1869	明治2年	7月12日 (8月19日)	風雨		近畿	暴風雨	
1870	明治3年	7月19日 (8月15日)	洪水		近畿	大風雨洪水	
〃	〃	8月7日 (9月2日)	洪水		京都		
〃	〃	9月18日 (10月12日)	風雨		近畿以東	大風雨	
1871	明治4年	5月17日 (7月4日)	洪水		四国、中国、近畿	大風雨洪水	
1875	明治5年	6~7月	干ばつ		四国、近畿		
1877	明治10年	7月10日	洪水		京都	大雨洪水	
1880	明治13年	7月1日	洪水		中国、中部、近畿	豪雨洪水	
〃	〃	10月8日	風雨		近畿、東海道、関東	大風雨	
1881	明治14年	9月13日	洪水		近畿、中部	暴風雨洪水	
1882	明治15年	冬	温暖		近畿		
1883	明治15年	7月~8月	干ばつ		京都府	大干ばつ	
〃	〃	9月10日	風雨		九州、四国、近畿	大風雨	
〃	〃	10月7日	風雨		近畿、北陸、奥羽	暴風雨	
〃	〃	10月12日	風雨		九州、四国、中国	大風雨	
1884	明治14年	7月12日	風水害		京都	大風雨	
〃	〃	7月12日	水害		山城		
〃	〃	8月10日	暴風雨		九州、四国、近畿		
〃	〃	8月25日	暴風雨		奥羽		
〃	〃	9月15日~18日	暴風雨		九州、四国、中国		
〃	〃		暴風雨		近畿、北陸		
1885	明治18年	7月1日	洪水		京都府	大風雨洪水	
〃	〃	冬	寒冷		近畿		
1886	明治19年	7月	干ばつ		京都府		
1887	明治20年	10月7日	洪水		四国、近畿、東海道	暴風雨洪水	
1888	明治21年	3月24日	干ばつ		京都府	湿度京都10% に降る	
〃	〃	夏秋	干ばつ		京都府		
1889	明治22年	7月22日	水害		鴨川、桂川流域		

西暦	年号	月日	災害の種類	災害の原因	おもな被害地域	おもな観測値	おもな被害
1889	明治22年	8月19日	水害	濃尾大地震	山城、丹波	最高気温京都 30℃以上に昇る(30.1℃) 最低気温京都 氷点下11.9℃ に降る	
1890	明治23年	5月3日~5日	水害		山城、丹波		
〃	〃	9月12日	水害		両丹		
〃	〃	10月1日	高温				
		0月0日					
		0月0日					
1891	明治24年	1月26日	低温				
〃	〃	8月16日	風水害		両丹地方		
〃	〃	10月28日	地震				
1892	明治25年	5月23日	水害		山城両丹		
〃	〃	10月2日	初雪		京都初霜の最早		
1893	明治26年	7月	干ばつ	京都府	大雷雨 最高気温京都 30℃以上となる。 (30.8℃)		
1893	明治26年	8月22日	水害	丹後			
〃	〃	8月27日	雷雨	丹後			
〃	〃	10月1日	高温				
〃	〃	10月16日	水害	山城両丹			
1894	明治27年	8月	干ばつ	京都府			
1895	明治28年	6月14日	水害	山城			
〃	〃	6月27日	風水害	山城両丹			
1896	明治29年	4月7日	水害	山城			
〃	〃	5月20日	風害	南山城			
〃	〃	8月30日	風水害	府下全城			
〃	〃	9月7日	水害	木津川			
1897	明治30年	9月28日~30日	水害	綾部	最低気温京都 氷点下にする	桃実(梅)位の 降雹被害あり。	
〃	〃	11月1日	低温				
1899	明治32年	3月7日	地震	紀和地震			丹後
〃	〃	5月12日	降雹				
〃	〃	8月18日	出水	保津川			京都初結氷あり。
〃	〃	9月7日~8日	水害	丹波			
〃	〃	10月24日	結氷				
		月日					
1900	明治33年	8月20日	水害	山城			京都根雪あり 京都終雪あり 雨量京都 231.8mm 最高気温京都 35℃以上に昇る。 (36.7℃)
1902	明治35年	4月10日	雪				
〃	〃	4月11日	雪				
1903	明治36年	7月7日~9日	水害	山城			
〃	〃	9月9日	高温				

西暦	年号	月日	災害の種類	災害の原因	おもな被害地域	おもな観測値	おもな被害
1904	明治37年	1月27日	低温		周山	最低気温周山 氷点下15.7℃	
〃	〃	7月10日	風水害		府下	雨量京都 106.9mm 風速京都 S E100m	
〃	〃	9月16日	水害		山城、丹後	雨量黒田 196.3mm	
1904	明治37年	1月26日	雪		宮津	積雪宮津86cm	
1906	明治39年	9月1日	水害		木津川流域	雨量大河原 158.6mm	
1907	明治40年	8月25日	水害		丹波	雨量綾部 536.2mm	
1908	明治41年	5月1日	低温			最低気温氷点 下に降りる -0.3℃	
〃	〃	8月7日	水害			雨量松山 188.5mm	
1909	明治42年	1月30日	大雪		丹波	積雪京都30cm	
〃	〃	9月19日	水害		丹波	雨量本梅 202.6mm	
〃	〃	11月9日	高温			最高気温京都 25.2℃	
1910	明治43年	9月6日	水害		丹波	雨量本梅 209.1mm	
〃	〃	12月2日	霜			12月2日から 翌年1月10日 まで京都毎日 霜あり	
1911	明治44年	8月3日	水害		山城	雨量京都 156.9mm 雲ヶ畑 166.6mm	
1912	大正元年	9月14日	水害 火災	雷雨	京都市、郡部	落雷10数ヶ所	
〃	〃	9月23日	水害		全域	雨量亀岡 195.0mm	
1913	大正2年	夏	干ばつ			雨量京都7月 24.7mm	
1915	大正4年	10月1日	高温			最高気温京都 30.5℃	
1916	大正5年	12月28日	大雪		山城	積雪京都22cm	
1917	大正6年	1月30日	大雪		丹波	積雪宮津80cm	
〃	〃	10月11日	風水害			風速京都 N E20.8m	

西暦	年号	月日	災害の種類	災害の原因	おもな被害地域	おもな観測値	おもな被害
1918	大正7年	2月19日	低温		北桑田郡	気温周山零下 15.7℃	
"	"	8月20日	水害		丹波、丹後	雨量綾部 231.5mm	
"	"	9月14日	水害		丹後	雨量久美浜 332.9mm	
"	"	9月24日	風害			峰山 316.2mm 風速京都 NW26.3m	
1921	大正10年	9月26日	風水害		全域	雨量細見 265.9mm 風速京都 SW20.9m	
1922	大正11年	1月23日	大雪		丹波	積雪宮津 78.5cm	
"	"	7月4日	水害		全域	雨量宮島 231.6mm	
1923	大正12年	3月28日	高温			最高気温京都 25.0℃	
"	"	6月8日	水害		伏見	雨量伏見 144.5mm	
"	"	6月27日	水害		山城	雨量京都 142.9mm	
"	"	9月1日	地震	関東大震災			
1924	大正13年	夏	干ばつ		丹波西部	雨量京都6月 84.3mm	
1925	大正14年	5月6日	高温			気温京都最高 31.2℃	
"	"	5月25日	地震	北但馬地震			
"	"	7月10日	水害		山城、丹波	雨量京都 244.9mm	
"	"	9月18日	水害		由良川、桂川水系		山城茶 26.. a 全滅
1926	大正15年	5月17日	結氷 晩霜		山城		
"	"	12月25日	大雪		山城	積雪京都 19.9cm	
1927	昭和2年	2月4日	大雪		丹後	積雪久美浜 107cm	
"	"	3月7日	地震	北丹後地震	丹後		
"	"	7月31日	雷雨		京都市内、郡部		
1928	昭和3年	4月24日	水害		山城	雨量京都 207.3mm	
"	"	7月18日	水害		丹波	雨量松山 189.5mm	
1929	昭和4年	2月15日	大雪		丹後	積雪宮津95cm	

西暦	年号	月 日	災害の 種 類	災害の原因	おもな被害地域	おもな観測値	おもな 被 害
1929	昭和4年	3月14日	寒 冷			平均気温京都 氷点以下	桑園 被害
1930	昭和5年	4月20日	降 雹		丹後北部南部、丹波 西部	雹子供の拳大	
1931	昭和6年	5月28日	降 雹		山城西部	雹直径1cm	
〃	〃	10月13日	水 害		丹後	雨量宮津 141.2mm	
1932	昭和7年	7月31日	水 害		山城、丹波	雨量綾部 299.1mm	
〃	〃	9月25日	降 雹		天田、可鹿郡	鶏卵大の雹	
1933	昭和8年	夏	干ばつ			雨量京都6月 91.5mm	
1934	昭和9年	2月27日	大 雪	室戸台風	丹後	風速京都 S28.0m	
〃	〃	9月21日	風水害			瞬間 WNW42.1m	
1935	昭和10年	6月28日	水 害		山城	雨量京都 (12時間) 269.9mm	
〃	〃	8月10日	水 害		山城、丹波南部	雨量京都 213.9mm 雨量向日町 294.4mm	
1936	昭和11年	2月 3日	大 雪	河内大和 地 震	丹後	積雪野間 290cm	
〃	〃	2月 5日	大 雪		山城	積雪京都 31.6cm	
〃	〃	2月21日	地 震				
〃	〃	5月11日	晩 霜		宇治田原		
〃	〃	9月 1日	雷 雨	京都洛北、丹波南部 丹波西部、丹後	京都洛北、丹波南部		
〃	〃	9月11日	風 害		丹波西部、丹後		
1938	昭和13年	7月 3日~ 6日	水 害		山城、丹波南西部	雨量西別院 410.3mm	
〃	〃	7月20日	高 温		最高気温京都 37.8℃		
〃	〃	8月 1日~ 2日	水 害		山城	雨量大原 285.3mm	
1939	昭和14年	夏	干ばつ	大干ばつ		雨量京都5月 40.4mm 7月 28.8mm	
1945	昭和20年	6月20日	水 害		丹波	雨量園部 319.0mm	
〃	〃	10月 7日~9日	風水害				

西暦	年号	月日	災害の種類	災害の原因	おもな被害地域	おもな観測値	おもな被害
1946	昭和21年	5月1日～2日	水害		山城	雨量比叡山 141.8mm	
1947	昭和22年	7月9日	水害		丹波	雨量下和知 197.0mm	
〃	〃	9月14日	風水害	キャスリン 台風			
1949	昭和24年	6月19日	風水害	デラ台風	丹波	雨量亀岡 244.4mm	
〃	〃	7月28日	風水害	ヘスター 台風		雨量知井 490.0mm	

昭和 年次	名 称	災害の 種 類	月 日	災 害 の 概 要 (激 甚 地)	被害者 総 数	人 的 被 害		
						死 者	行 方 不明者	負 傷 者
25	ジェーン 台 風	風水害	9月 3日	最大瞬間風速 京都28.8m (京都市、乙訓、綴喜 相楽、南桑田、北桑 田、船井郡)	人 35,026	人 7	人 4	人 364
26	7月災害	水 害	7月11日	亀岡地方の豪雨で(11 日雨量143mm)平和池の 決壊による篠村の被害 甚大京都市内の桂川は んらん降雨は南山城は じめ府下全域にわたっ た。	63,196	79	35	352
28	南 山 城 水 害	水 害	8月14日~15日	相楽郡、綴喜郡の集中 豪雨と井手町大正池の 決壊天井川のはんらん 総雨量 大河原 284mm 東和東 680mm 湯 船 428mm	28,176	221	115	1,366
28	台風13号	水 害	9月24日~25日	総雨量 豊里村 503mm 舞鶴市 470mm 由良川、桂川、宇治川 木津川その他のはんら んにより府下全域にわ たる被害	313,000	111	9	1,420
29	6,23水害	水 害	6月23日	雨量 園部 132mm 周山 130mm 綾部 111mm (福知山、園部、綾部)	-	-	1	-
29	6,30水害	水 害	6月29日~30日	雨量 周山 121mm 京都 115mm 田辺 93.4mm (田辺、園部、峰山)	-	-	-	-
29	7.5 水害	水 害	7月 4日~ 6日	雨量 田辺 154.4mm 木津 145.7mm (京都府南部)	-	-	-	-
29	台風12号	風 害	9月13日~14日	最大瞬間風速 京都 18.6m 雨量 上夜久野 79mm	-	-	-	3
29	台風14号	水 害	9月17日~18日	雨量 上林 186mm 京都 112.7mm (福知山、舞鶴、宮津)	-	-	-	-

住宅被害					被害金額（千円）					
全壊	流失	半壊	床上 浸水	床下 浸水	農林	土木	商工	住宅	その他	総額
戸 684	戸 3	戸 3,328	戸 353	戸 3,053	2,726,000	507,000	634,000	3,087,000	573,000	7,532,000
52	89	127	2,964	12,020	3,010,097	2,314,823	261,340	608,420	15,691	6,205,371
371	381	554	1,649	2,721	6,819,134	4,042,014	1,217,000	2,596,536	383,615	15,058,299
2,613	400	6,951	21,331	35,667	13,338,120	11,441,103	12,857,680	16,866,625	1,109,931	15,613,459
-	-	2	6	110	52,449	356,041	-	-	-	408,490
-	-	-	-	-	44,940	112,691	-	-	-	157,681
-	-	-	-	-	37,176	68,801	-	-	-	105,977
-	-	2	-	-	218,892	-	-	-	-	218,892
-	-	-	-	10	99,042	41,211	-	-	-	140,253

昭和 年次	名 称	災害の 種 類	月 日	災 害 の 概 要 (激 基 地)	被 害 者 総 数	人 的 被 害		
						死 者	行 方 不明者	負 傷 者
29	台風15号	風 害	9月26日	最大瞬間風速 京都 19.0m 舞鶴 34.3m 雨量 宮津 85mm 上夜久野 159mm (福知山、綾部、舞鶴)	-	3	-	34
32	丹後町 力石火災	火 災	4月 7日	風呂場の煙突の余熱による力石部落の24世帯 54棟全焼、救助法適用 (京都市、亀岡市)	10,300	-	-	-
32	台風5号 梅雨前線	水 害	6月27日~28日	台風7号の影響と前線の 停滞による豪雨 総雨量 花背 503mm 周山 330mm (福知山市、大江町 京北町、美山町 日吉町、園部町 八木町、京都市南区 伏見区、宇治市)	186,000	14	-	30
34	8.13水害	水 害	8月13日~14日	台風7号の影響と前線の 停滞による豪雨 総雨量 花背 503mm 周山 330mm (福知山市、大江町 京北町、美山町 日吉町、園部町 八木町、京都市南区 伏見区、宇治市)	186,000	14	-	30
34	伊勢湾 台風15号	水 害	9月25日~26日	台風の影響と寒冷前線の 活動 総雨量 舞鶴 287mm 峰山 226mm 宮津 243mm (舞鶴市、宮津市 福知山市、大江町 綾部市、京北町 美山町、宇治市 加茂町、南山城村 笠置町)	112,000	9	-	169
35	台風16号	水 害	8月29日~30日	総雨量 花背 386mm 周山 362mm 園部 314mm 桂川のいつ流(京北町 日吉町、園部町 八木町、亀岡市)	50,000	11	-	59
36	梅雨前線 豪 雨	水 害	6月24日~30日	宇治川、木津川の内水 大谷川のはんらん 総雨量 花背 478mm 京都 414mm (京都市、乙訓郡 宇治市、八幡市 舞鶴市)	10,000	-	-	1

住 宅 被 害					被 害 金 額 (千 円)					
全 壊	流失	半 壊	床 上 浸 水	床 下 浸 水	農 林	土 木	商 工	住 宅	その他	総 額
120	-	224	-	-	524,508	12,499	44,700	166,095	24,468	772,270
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	25	2,058	53,589	89,150	-	740	-	143,479
42	75	98	5,508	26,056	2,037,000	1,570,000	400,000	1,146,000	-	5,153,000
114	65	1,051	8,176	14,760	3,050,000	3,030,000	690,000	1,380,000	100,000	3,250,000
47	15	158	3,220	7,166	1,769,735	1,489,938	233,000	638,600	11,000	4,142,273
1	-	14	330	1,507	541,588	673,356	1,200	43,770	-	1,259,914

昭和 年次	名 称	災害の 種 類	月 日	災 害 の 概 要 (激 甚 地)	被 害 者 総 数	人 的 被 害		
						死 者	行 方 不明者	負 傷 者
36	第2室戸 台 風	風水害	9月15日~16日	第2室戸台風が府南部 を通過 瞬間最大風速 京 都 34.3 m/s 舞 鶴 48.3 m/s	204,000	12	-	251
36	10月水害	水 害	10月26日~28日	木津川、宇治川、桂川 由良川の増水と内水 (福知山市、大江町 舞鶴市、亀岡市 宇治市)	35,000	3	1	3
37	6月大雨	水 害	6月 9日~10日	総雨量 花 背 530mm 周 山 328mm 綾 部 190mm 福知山 164mm 和 知 167mm 大野ダム 154mm	-	-	-	-
38	昭和38年 1月豪雪	雪 害	1月末~2月末	網 野 210cm 峰 山 150cm 間 人 225cm	-	4	-	16
38	5月長雨	長 雨	4月下旬~ 6月上旬	府下全域梅雨 (福知山 463mm 宮津 429mm 舞鶴 500mm)	-	-	-	-
39	台風20号	風水害	9月24日~25日	最大瞬間風速 舞 鶴 22.5m 京 都 29.2m 久美浜 79mm 宮 津 108mm 園 部 118mm	-	-	-	7
40	台風23号	風水害	9月10日	最大瞬間風速 京都 25.8m 南東 舞鶴 39.6m 南南東 久美浜 273mm (8日~10日) (園部、福知山)	58,147	3	-	67
40	台風24号 秋雨前線 (9.14豪 雨)	風水害	9月14日~17日	最大瞬間風速 京都 36.7m 北北西 舞鶴 33.1m 北西 知井 518mm(13日~ 17日) (宇治、福知山、大江 舞鶴)	54,531	1	-	34

住 宅 被 害					被 害 金 額 (千 円)					
全 壊	流失	半 壊	床 上 浸 水	床 下 浸 水	農 林	土 木	商 工	住 宅	そ の 他	総 額
941	-	4,545	5	645	2,760,000	252,000	864,000	3,025,000	393,000	7,294,000
3	2	39	2,968	3,917	956,618	1,006,300	244,059	601,930	6,484	2,815,391
-	-	-	273	451	251,000	609,403	-	41,000	-	901,403
39	-	151	20	196	2,671,325	335,002	1,142,315	833,351	92,085	5,074,078
1	-	-	63	527	2,245,547	637,137	-	33,300	-	2,915,984
3	-	11	1	165	693,746	490,574	50,733	55,004	-	1,290,057
75	-	355	7	1,025	1,463,000	408,505	36,400	656,170	51,084	2,615,159
29	-	167	2,068	8,682	2,687,000	1,691,735	222,829	505,660	36,676	5,113,900

昭和 年次	名 称	災害の 種 類	月 日	災 害 の 概 要 (激 甚 地)	被 害 者 総 数	人 的 被 害		
						死 者	行 方 不明者	負 傷 者
42	昭和42年 7月豪雨	水 害	7月 8日～13日	前線の停滞による豪雨 京 都 200mm(8日～10日) 亀 岡 258mm(8日～10日) 上黒田 185mm(8日～10日) 田 歌 181mm(8日～10日) 宇 治 82mm(12日～13日) 田 辺 73mm(12日～13日) (京都市、亀岡市 京北町)	56,520	-	-	34
47	昭和47年 7月豪雨	水 害	7月10日～17日	前線の停滞による豪雨 上 林 389mm(9日～14日) 舞 鶴 362mm(9日～14日) 盛 郷 510mm(9日～14日) 福知山 401mm(9日～14日) 京 都 321mm(9日～14日) 木 津 259mm(9日～14日) (府下全域)				
47	台風20号	風水害	9月16日～17日	台風による風水害 最大瞬間風速 舞鶴 35.8mm 北北西 京都 22.8mm 北西 花 背 244.5mm 西別院 229 mm (16日～17日) 田 歌 259 mm (16日～17日) 盛 郷 216 mm (16日～17日) 上 林 297 mm (16日～17日) 峰 山 216.5mm (16日～17日) (舞鶴市・大江町災害 救助法適用)由良川・ 中小河川氾濫	66,415	8	1	32
49	台風18号	水 害	9月 8日～9日	台風と前線による水害 降水量 京都 36mm 亀岡 104mm大野 106mm 福知山 233mm 夜久野 220mm 物部 224mm舞鶴 186mm 宮津 218mm (物部、福知山、舞鶴 宮津、峰山管内)	1,613	-	-	-

住宅被害					被害金額（千円）					
全壊	流失	半壊	床上 浸水	床下 浸水	農林	土木	商工	住宅	その他	総額
4		4	636	13,460	696,250	930,478	9,358	227,110	9,240	1,872,436
15	-	33	230	4,576	4,001,651	4,654,715	13,780	-	295,151	8,965,297
17	-	79	2,958	15,744	6,434,584	11,010,814	340,747	-	639,457	18,425,602
-	-	7	3	495	644,030	2,137,183	1,100	-	426,291	3,208,604

昭和 年次	名 称	災害の 種 類	月 日	災 害 の 概 要 (激 甚 地)	被 害 者 総 数	人 的 被 害		
						死 者	行 方 不明者	負 傷 者
50	台風6号	風水害	8月23日	台風による風水害 最大瞬間風速 京都 22.9m/S 降水量 京都 91mm 宇治 108mm 岡山 109mm 榎 125mm 亀岡 122mm 花背 229mm 大野 119mm 峰山 122mm (府下全域)	1,042	-	-	-
51	台風17号	水 害	9月 8日～13日	台風17号と前線による水害 降水量 京 都 310mm 宇 治 233mm 木 津 313mm 周 山 285mm 大 野 299mm 綾 部 376mm 福知山 382mm 夜久野 441mm 宮 津 388mm 峰 山 339mm (府下全域)	2,413	1	-	4
51	昭和51年 年末から 52年年始 にかけて の大雪	大 雪	51年12月26日 ～52年 3月 5日	各地の積雪状況 宮津市上世屋 260cm 舞鶴市大山 161cm 弥栄町野中 160cm 伊根町本庄 115cm 2月25日、宮津市松屋でなだれにより5名の死者が出た。	30	5	-	-
52	前線低気 圧大雨	水 害	11月16日 ～11月17日	前線による水害 降水量 京 都 68.5mm 亀 岡 81.0mm 花 背 103.0mm 綾 部 143.0mm 福知山 140.0mm 舞 鶴 124.0mm 宮 津 116.5mm	1	-	-	-

住宅被害					被害金額（千円）					
全壊	流失	半壊	床上 浸水	床下 浸水	農林	土木	商工	住宅	その他	総額
-	-	1	3	271	22,420	2,222,996	100	-	1,400,613	3,646,129
2	-	38	16	617	2,001,209	6,131,689	12,850	-	938,725	9,084,473
2	-	8	-	-	1,201,713	-	-	20,170	184,219	1,406,102
-	-	1	-	-	150,554	735,054	-	-	-	885,608

昭和 年次	名 称	災害の 種 類	月 日	災 害 の 概 要 (激 甚 地)	被 害 者 総 数	人 的 被 害		
						死 者	行 方 不明者	負 傷 者
53	53年夏期 の干ばつ	干ばつ	夏 期		-	-	-	-
54	昭和54年 6月26日 から7月 2日にか けての梅 雨前線に よる大雨	水 害	6月26日 ～7月 2日	梅雨前線による水害 降水量 京 都 233.5mm 宇 治 259.5mm 木 津 266.0mm 園 部 207.5mm 福知山 238.0mm 舞 鶴 147.5mm 宮 津 153.0mm 峰 山 114.5mm	-	-	-	-
54	台風16号	風水害	9月30日 ～10月 1日	台風16号による風水害 降水量 伊根町 132.0mm 舞 鶴 169.5mm 福知山 86.0mm 亀 岡 90.5mm 京 都 54.0mm 瞬間最大風速 33.4m 最大風速 21.1m (舞鶴市)	288	-	-	6
54	台風20号	風水害	10月18日～19日	台風20号による風水害 降水量 宮 津 205.0mm 峰 山 171.0mm 綾 部 152.0mm 宇 治 55.5mm 京 都 51.5mm 瞬間最大風速 29.0m (京都)	-	-	-	2
55	冷 夏	冷 害	6月～ 9月	冷害による農産被害は 府下全域に及んだが、 特に丹後・丹波地方の 被害が大きかった。	-	-	-	-
55	前線による 大雨	水 害	8月22日～23日 8月26日～27日	前線による水害 降水量 京 都 148.5mm 周 山 131.0mm 綾 部 99.0mm 宮 津 120.5mm	378	-	-	1

住 宅 被 害					被 害 金 額 (千 円)					
全 壊	流失	半 壊	床 上 浸 水	床 下 浸 水	農 林	土 木	商 工	住 宅	そ の 他	総 額
-	-	-	-	-	2,444,914	-	-	-	-	2,444,914
-	-	-	-	326	579,015	1,669,472	300	-	9,644	2,258,431
-	-	2	84	1,143	2,628,899	1,639,520	35,970	-	199,993	4,504,382
-	-	1	1	200	822,627	1,846,119	4,000	-	54,437	2,727,183
-	-	-	-	-	9,057,194	-	-	-	-	9,057,194
-	-	-	115	3,363	311,897	292,067	-	-	500	604,464

昭和 年次	名 称	災害の 種 類	月 日	災 害 の 概 要 (激 甚 地)	被 害 者 総 数	人 的 被 害		
						死 者	行 方 不明者	負 傷 者
56	昭和56年 豪 雪	大 雪	1月～3月	各地の積雪状況 舞鶴市大山 120cm 宮津市上世屋 230cm 伊根町寺領 215cm 弥栄町野中 186cm 久美浜町河梨 181cm 1月21日、舞鶴市で屋根の雪下ろし中滑落し1名の死者が出た。	80	1	-	49
57	昭和57年 大 雪	大 雪	1月16日～20日 1月29日～31日	各地の積雪状況 宮津市上世屋 112cm 伊根町寺領 105cm 峰山町丹波 64cm	1	-	-	-
57	降ひょう	雷雨にともなう降ひょう	6月20日	城陽市、井手町、和束町などで直径約1cm大の降ひょう。	5	-	-	-
57	台風10号	風水害	8月 1日～ 3日	台風10号による風水害 降水量 綾部市故屋岡 271cm 美山町田歌 244cm 同町盛郷 225cm 和束町鷲峰山 225cm 京都市花背 213cm 最大瞬間風速 34m/s (舞鶴) 最大風速 18.5m/s (舞鶴)	676	-	-	5
58	梅雨前線による大雨	水 害	6月20日～21日	梅雨前線による大雨 降水量 向日市上植野町 180cm 京都市上賀茂 176cm 府庁 171cm	-	-	-	-
58	台風10号	風水害	9月26日～29日	台風10号による風水害 降水量 三和町菟原 338mm 三和町三和 318mm 京都市上賀茂 292cm 三和町田ノ谷 284cm 最大瞬間風速 24.8m/s (舞鶴) 最大風速 16.8m/s (舞鶴) 三和町及び舞鶴市で各1名の死者が出た。	487	2	-	3

住宅被害					被害金額（千円）					
全壊	流失	半壊	床上 浸水	床下 浸水	農林	土木	商工	住宅	その他	総額
2	-	2	-	12	965,055	374,483	4,025,860	-	595,303	5,960,701
1	-	-	-	8	1,276,700	-	-	-	104	1,276,804
-	-	-	1	32	122,696	17,700	-	-	464	140,860
2	-	4	195	1,828	8,044,242	12,841,596	182,258	-	372,841	21,440,937
-	-	-	-	-	113,827	316,300	-	-	-	480,127
7	-	7	142	2,218	6,910,449	19,942,236	23,400	-	456,460	27,332,545

昭和 年次	名 称	災害の 種 類	月 日	災 害 の 概 要 (激 基 地)	被 害 者 総 数	人 的 被 害		
						死 者	行 方 不明者	負 傷 者
59	昭和59年 豪 雪	大 雪	1月～ 3月	各地の積雪状況 宮津市上世屋 246cm 綾部市老富 215cm 福知山市雲原 200cm 福知山市で1名の死者 が出た。	9,053	1	-	70
59	梅雨前線 による大 雨	水 害	6月25日～27日	梅雨前線による大雨 降水量 加茂町 149mm 笠置町 148.5mm 南山城村 134mm	256	-	-	1
59	梅雨前線 による大 雨	水 害	7月16日	梅雨前線による大雨 降水量 宮津市 47.5mm 加悦町 58.5mm 野田川町 52.5mm	212	-	-	-
60	梅雨前線 豪雨及び 台風6号	水 害	6月18日 ～ 7月19日	梅雨前線豪雨及び長雨 6月21日～7月1日 までの継続雨量 京都市 332.0mm 向日市 398.0mm 宇治市 374.0mm 美山町 391.0mm 三和町 295.0mm 舞鶴市 305.0mm	1,091	-	-	1
60	7月下旬 から9月 中旬にか けての高 温干ばつ	干ばつ	7月下旬～ 9月上旬	干ばつによる農作物被 害 7月22日～9月5日 までの雨量 宇治市 5mm 木津町 5.5mm 舞鶴市 7mm 峰山町 4mm	-	-	-	-
61	7月20日 から22日 にかけて の梅雨前 線大雨	水 害	7月20日～22日	梅雨前線による大雨 7月20日～22日ま での総雨量 京都市 194mm 長岡京市 311mm 田辺町 268mm 宇治市 322mm 木津町 195mm	9,822	1	-	2

住宅被害					被害金額（千円）					
全壊	流失	半壊	床上 浸水	床下 浸水	農林	土木	商工	住宅	その他	総額
4	-	37	-	7	2,006,153	150,196	169,558	-	1,783,688	4,109,595
-	-	-	1	84	228,565	558,600	-	-	12,100	799,265
-	-	-	-	68	15,000	119,816	-	-	-	134,816
-	-	1	14	328	966,000	2,961,795	-	-	27,209	3,955,928
-	-	-	-	-	1,177,230	-	-	-	-	1,177,230
12	-	12	162	2,471	10,848,380	7,296,300	199,460	-	142,869	18,487,009

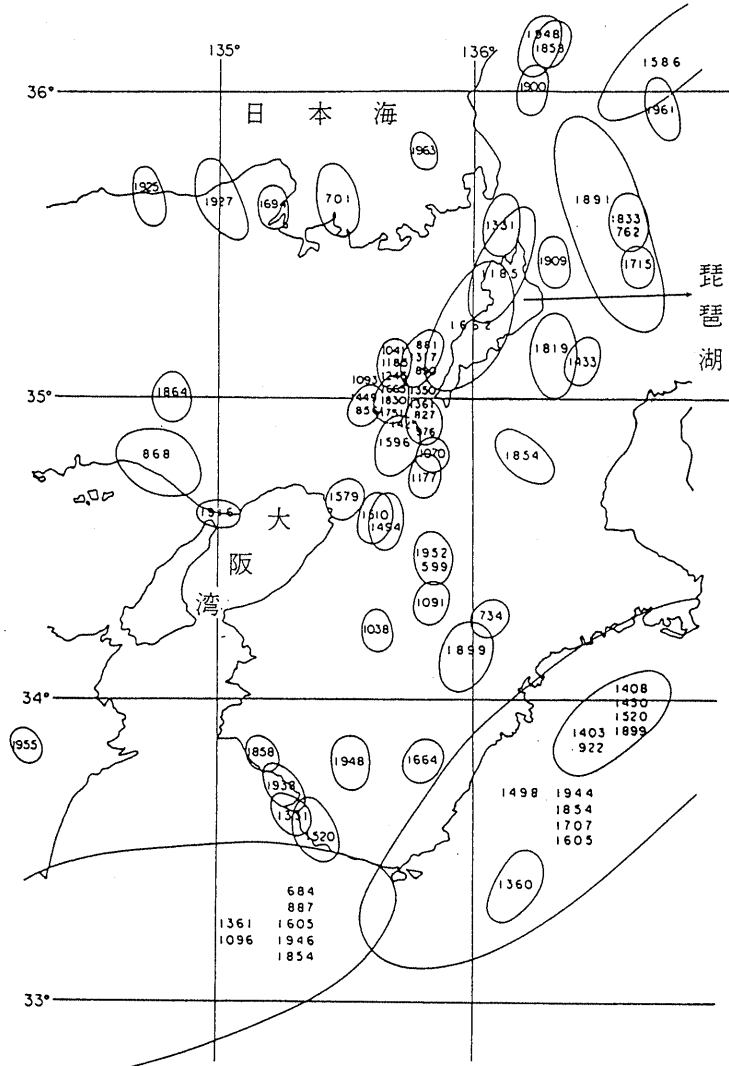
昭和 年次	名称	災害の 種類	月 日	災 害 の 概 要 (激 甚 地)	被 害 者 総 数	人 的 被 害		
						死 者	行 方 不明者	負 傷 者
62	7月14日 から21日 にかけて の梅雨前 線大雨	水 害	7月14日～19日	梅雨前線による大雨 7月14日～15日の雨量 京都市 242mm 亀岡市 227mm 7月19日～20日の雨量 京北町 156mm 京都市 132mm	1,748	-	-	1
62	台風第19 号	風水害	10月16日～17日	降水量 宮津市 207mm 夜久野町 195mm 福知山市 170mm 最大風速 17m/s (丹後町)	714	-	-	1
63	8月24日 から25日 にかけて の大雨	水 害	8月24日～25日	降水量 久美浜町 211mm 宮津市、網野町 186mm	336	-	-	1
平成 元年	4月29日 の凍霜害	凍霜害	4月29日	府南部、中部	-	-	-	-
	9月2日 から3日 にかけて の大雨	水 害	9月2日～3日	秋雨前線による大雨 周山 202mm 亀岡 158mm	26	-	-	-
平成 2年	台風19号	水 害	9月17日 ～ 9月20日	降水量 美山町 391mm 久美浜町 356mm	5	-	-	5
平成 3年	台風19号	風水害	9月27日 ～ 9月28日		15	-	-	15
平成 4年	8月18日 から20日 にかけて の大雨	水 害	8月18日 ～ 8月20日	降水量 京都市 332mm 京北町 232mm	1	1	-	-
平成 5年	7月3日 から6日 にかけて の大雨	水 害	7月3日 ～ 7月6日	降水量 向日市 155mm 八幡市 144mm	-	-	-	-

住宅被害					被害金額（千円）					
全壊	流失	半壊	床上 浸水	床下 浸水	農林	土木	商工	住宅	その他	総額
-	-	1	6	515	578,464	702,764	-	-	9,202	1,209,430
-	-	-	42	208	786,912	772,575	9,750	-	83,950	1,653,187
-	-	1	94	1,077	767,961	3,583,672	-	-	14,809	4,366,442
-	-	-	-	-	2,109,391	-	-	-	-	2,109,391
-	-	-	12	118	929,325	2,344,190	-	-	317,705	3,591,220
1	-	6	52	560	4,594,420	7,176,630	17,458	-	376,489	12,164,997
1	-	2	-	8	1,130,570	201,018	100,200	-	202,467	1,634,255
1	-	-	-	-	196,562	573,453	-	-	16,167	786,182
1	-	-	10	414	926,469	1,129,456	10,000	-	34,148	2,100,073

2. 近畿地方における大地震の分布

(京都府地域防災計画震災対策計画編、1993、京都府防災会議)

(数字は発生西暦年)



3. 既往被害地震（京都府地域防災計画震災対策計画編、1995、京都府防災会議）

M：マグニチュード（規模）

西 暦 年 月 日	日 本 暦 年 月 日	震 央		M	震 災 地 平 均 半 径 (km)	地 域 ・ 被 害
		東 経	北 緯			
599. 5.28	推古 7. 4.27	大 和		7.0	40	倒壊家屋を出した
701 .5.12	大宝 1. 3.26	135.4°	35.6°	7.0	40	丹後。地震あうこと3日、舞鶴沖の冠島山頂を残して海中へ没した津波規模2。
734. 5.18	天平 6. 4. 7	136.1°	34.3°	7.0	40	畿内。民家倒壊、圧死多く、山崩れ、川塞ぎ、地割れが無数に生じた。
745. 6. 5	天平17. 4.27	136.6°	35.5°	7.9	120	美濃。正倉、仏寺、民家の倒壊多く、摂津では余震が約20日間続いた。
827. 8.11	天長 4. 7.12	135.6°	34.9°	6.7	28	京都。倒壊家屋多数、余震が1年以上続く。
856. 4.	斉衡 3.	京 都		6.4	19	家屋・仏塔倒壊、余震多し。
881. 1.13	元慶 4.12. 6	京 都		6.4	14	官庁・民家破損多く、御所の石垣崩れる。余震多し。
887. 8.26	仁和 3. 7.30	135.3°	33.0°	8.6	230	五畿七道。被害は近畿地方の全域に及び、京都では社寺・民家の倒壊多く、圧死多し。津波襲来、摂津で被害最大、余震多し。
890. 7.10	寛平 2. 6.16	京 都		6.2	14	家屋傾く。
934. 7.16	承平 4. 5.27	京 都		6.2	14	京中の築垣多く転倒した。
938. 5.22	承平 8. 4.15 (天慶1.)	135.8°	34.8°	6.9	36	京都南部・滋賀県西部に被害、家屋倒れ、石垣崩れ、圧死あり。余震6ヶ月に及ぶ。
976. 7.22	天延 4. 6.18 (貞元1.)	135.8°	34.9°	6.7	28	山城・近江。両京屋舎・社寺・官庁の倒壊多し。圧死50人、余震数ヶ月に及ぶ。
1041. 8.25	長久 2. 7.20	京 都		6.4	19	法成寺の鐘楼倒れる。
1070.12. 1	延久 2.10.20	135.8°	34.8°	6.4	19	山城・大和。東大寺の巨鐘落つ。石垣崩れる。
1091. 9.28	寛治 5. 8. 7	135.8°	34.3°	6.2	14	山城・大和。法成寺の仏像倒れる金峰山の金剛蔵王宝殿破損。
1093. 3.19	寛治 7. 2.14	京 都		6.4	19	ところどころの塔破損。
1096.12.17	嘉保 3.11.24 (永長1.)	137.3°	34.2°	8.4	195	畿内・東海道。東大寺の巨鐘落つ諸寺に被害、大極殿破損、勢多橋落つ。津波が伊勢・駿河を襲う。余震多し。

西 曆 年 月 日	日 本 曆 年 月 日	震 央		M	震 災 地 平 均 径	地 域 ・ 被 害
		東 経	北 緯			
1099. 2.22	承德 3. 1.24 (康和1.)	135.5°	33.0°	8.0		南海道。興福寺金堂小破、大門と廻廊倒壊。摂津天王寺に被害、土佐で田千余町（約1,000ha）みな海に沈む。
1137. 8.10	保延 3.	京 都		6.2	14	
1185. 8.13	元暦 2. 7. 9 (文治1.)	136.1°	35.3°	7.4	60	近江・山城・大和。京都特に白河辺の被害大。社寺・官庁・家屋の倒壊多く、宇治橋落ちる。余震多し。
1185. 9.14	元暦 2. 8.12 (文治1.)	京 都				上記地震の余震。多少の被害あり
1245. 8.27	寛元 3. 7.27	京 都		6.2	14	被害少なからず。
1317. 2.24	正和 6. 1. 5 (文保1.)	135.8°	35.1°	6.7	28	京都。白河辺の人家悉くつぶれ、社寺の被害多く、死者5人。余震多し。
1350. 7. 6	正平 5. 5.23	京 都		6.2	14	祇園社の石塔の九輪落ち砕け、余震は6月に及んだ。
1361. 8. 3	正平16. 6.24	135.0°	33.0°	8.4	195	畿内・土佐・阿波。山城・摂津から紀州熊野に至る諸堂倒壊破損多し。津波・被害は摂津・土佐・阿波で多く、余震多数。流死60人余
1369. 9. 7	正平24. 7.28	京 都		6.1	12	東寺の講堂傾く。
1425.12.23	応永32.11. 5	京 都				築垣多く崩れる。
1449. 5.13	文安 6. 4.12 (宝徳1.)	135.6°	35.0°	6.4	19	山城・大和。洛中堂塔被害多し。石垣崩れ、淀大橋三間及び桂橋二間落下。人馬多く死す。余震多し
1466. 5.29	文正 1. 4. 6	奈 良・京 都				天満社・糺社の石灯籠崩れる。
1498. 9.20	明応 7. 8.25	138.2°	34.1°	8.6	230	東海道沖大地震。京大仏破損。紀伊から房総に至る海岸と甲斐で振動強く、津波来襲。
1510. 9.21	永正 7. 8. 8	135.7°	34.6°	6.7	28	摂津・河内。大阪で被害大。河内藤井寺・常光寺などつぶれ、摂津四天王寺石鳥居破損。
1586. 1.18	天正13.11.29	136.8°	36.0°	7.9	117	畿内・東海・東山・北陸諸道。飛騨白川谷で山崩れ、城・民家300余戸倒壊埋没、多数圧死。東寺講堂・三十三間堂の仏像が破損倒壊
1596. 9. 5	文禄 5閏 7.13 (慶長1.)	135.7°	34.8°	7.0	40	伏見大地震、京都及び畿内。三条より伏見の間被害最も多く、伏見城天主倒壊、東寺・天竜寺・社寺・民家倒壊、約600人圧死。大阪・神戸でも壊家多く、堺で死者600人余。余震は翌年に及ぶ。

西 曆 年 月 日	日 本 曆 年 月 日	震 央		M	震 災 地 平 均 径	地 域 ・ 被 害
		東 経	北 緯			
1662. 6.16	寛文 2. 5. 1	136.0°	35.3°	7.6	82	山城・大和・河内・和泉・摂津 丹後・若狭・近江・美濃・伊勢 駿河・三河・信濃。京都で町屋 1,000戸倒壊し、死者200人。 祇園石鳥居倒れ、五条石橋20余間 落ち、三条大橋が破損、諸所の城 破損。
1664. 1.4	寛文 3.12. 6	京 都 ・ 山 城		5.9	10	二条城・伏見城の諸邸破損、洛中 の築垣崩れる。
1665. 6.25	寛文 5. 5.12	京 都		6.1	12	二条城石垣12～13間崩れ、二の丸 殿舎破損。
1694.12.12	元禄 7.10.26	丹 後		6.1	12	宮津で地割れ、泥を噴出。家屋が 倒壊、特に土蔵は大破。
1707.10.28	宝永 4.10. 4	135.9°	33.2°	8.4	195	宝永地震、五畿七道。被害は東海 道、伊勢湾、紀伊半島で最も激し い。全体で倒壊家屋29,000戸、死 者4,900人津波襲来。
1751. 3.26	寛延 4. 2.29 (宝暦1.)	京 都		6.4	19	築地・町屋破損、余震多し。
1830. 8.19	文政13. 7. 2 (天保1.)	135.7°	35.0°	6.4	19	京都及び隣国。御所破損、二条城 本丸大破、洛中の土蔵すべて破損 京都で死者280人。余震多し。
1854. 7. 9	嘉永 7. 6.15	136.2°	34.8°	6.9	36	伊賀・伊勢・大和及び隣国。上野 四日市・奈良・大和郡山で民家倒 壊多数、死者多し。
1854.12.24	嘉永 7.11. 5 (安政1.)	135.6°	33.2°	8.4	195	安政地震、畿内・東海・東山・北 陸・南海・山陰・山陽道。32時間 前にもM8.4の地震が発生。家屋 倒壊・焼失・流失多数、死者約 3,000人。津波襲来。
1891.10.28	明治24.10.28	136.6°	35.6°	8.4	195	濃尾地震、岐阜・愛知。建物倒壊 多数、死者7,273人、山崩れ多数 根尾谷大断層が発生。
1892. 1. 3	明治25. 1. 3	136.8°	35.4°	6.5		濃尾地震余震。田の陥没・地割れ ・噴水砂などあり。建物傾斜、壁 に亀裂。
1894. 1.10	明治27. 1.10	137.0°	35.0°	7.4		濃尾地震余震。岐阜県内では、屋 根瓦・壁に被害、地割れあり。
1896. 5. 7	明治29. 5. 7	135.7°	35.1°	5.1		濃尾地震余震
1899. 3. 7	明治32. 3. 7	136.0°	34.2°	7.6		三重・奈良。三重県南牟婁郡・ 奈良県吉野郡で被害大。

西 曆	日 本 曆	震 央		M	震 災 地 平 均 径	地 域 ・ 被 害
年 月 日	年 月 日	東 経	北 緯			
1927. 3. 7	昭和 2. 3. 7	135.1°	35.6°	7.5		北丹後地震、京都府北西部。被害は淡路・福井・岡山・米子・徳島三重・香川・大阪に及ぶ。家屋倒壊・焼失多数、死者2,925人、津波規模1。
1936. 2. 21	昭和11. 2. 21	135.7°	34.5°	6.4		河内大和地震、大阪・奈良。家屋全半壊148戸、死者9人、崖崩れあり。
1944.12. 7	昭和19.12. 7	136.2°	33.7°	8.0		東南海地震、熊野灘。静岡・愛知三重・岐阜・奈良・滋賀の各県に被害大。家屋全半壊・流失多数、死者998人、津波襲来。
1946.12.21	昭和21.12.21	135.6°	33.0°	8.1		南海地震、潮ノ岬沖。中部以西の各地に被害。家屋倒壊・流失・浸水・焼失多数、死者・行方不明1,432人。津波襲来。
1952. 7.18	昭和27. 7.18	135.8°	34.5°	7.0		吉野地震、奈良県中・北部。家屋全壊20戸、死者9人、石灯笼多数倒壊。
1963. 3.27	昭和38. 3.27	135.8°	35.8°	6.9		越前岬沖地震、越前岬沖。敦賀湾若狭湾沿岸沿いの約50kmに小被害住家倒壊・破損・山崩れ道路に亀裂。

4. 史実に正確を期し難い地震（京都府地域防災計画震災対策計画編、1995、京都府防災会議）

M：マグニチュード（規模）

西 曆	日 本 曆	震 央	M	震 災 地 平 均 径	地 域 ・ 被 害
年 月 日	年 月 日	東経 北緯			
675.	白鳳 4.11.	丹 波			丹波国大地震
931.	承平 7. 4.15	丹 波			丹波大地震
1469.	文明 7. 6.11				丹波大地震
1496.	明応 5. 5.11 同 8.25				丹後・但馬大地震
1660.	万治 3. 1. 4				丹後・但馬大地震
1666.	寛文 6. 5.				宮津城内外堀へコノシロ多く海より上がりて死す（地震津波？）
1666.	寛文 6. 8. 1				但馬国蛇山鳴動、地震地割れ、死人多し。
1786.	天明 6. 7. 同 8.29				宮津如意寺谷大崩れ洪水。
1847.	弘化 4. 1.13 同 3.24				木津村、中館、上野、和田。二丈余り地落。 善光寺地震（3月24日）と越後の地震（3月29日）か？
1888.4.11	明治21.4.11				宮津地震

5. ダム一覽表 (京都府水防計画、1995、京都府)

概要	名称	大野ダム	天ヶ瀬ダム	高山ダム	世木ダム	和知ダム	喜撰山ダム	布目ダム
管理者	京都府	建設省	水資源開発公団	関西電力	関西電力	関西電力	関西電力	水資源開発公団
目的	多目的	多目的	多目的	発電	発電	発電	発電	多目的
工期	自昭和32年11月 至昭和36年3月	自昭和32年4月 至昭和40年3月	自昭和35年4月 至昭和44年3月	自昭和16年9月 至昭和27年1月	自昭和41年2月 至昭和43年12月	自昭和42年3月 至昭和44年12月	自昭和61年5月 至平成4年4月	自昭和61年5月 至平成4年4月
形式	屈折型 重力式コンクリートダム	ドーム式 アーチコンクリートダム	アーチ重力式 コンクリートダム	重力式可動せき型 コンクリートダム	重力式可動せき型 コンクリートダム	中央土質しゃ水型 ロックフィルダム	重力式コンクリートダム	重力式コンクリートダム
工費	3,010,000千円	6,660,000千円	11,800,000千円	1,018,000千円	1,105,741千円	17,900,000千円		
サーチャージ水位	T.P 175.00 m	T.P 78.50 m	135.00 m	198.50 m	120.50 m	296.00 m	EL 287.30 m	
最低水位	T.P 155.00 m	O.P 58.00 m	104.00 m	188.50 m	118.00 m	270.00 m	EL 256.00 m	
総貯水量	28,550,000 ㎥	26,280,000 ㎥	56,800,000 ㎥	5,595,000 ㎥	5,119,200 ㎥	7,227,000 ㎥	17,300,000 ㎥	
有効貯水量	21,320,000 ㎥	20,000,000 ㎥	49,200,000 ㎥	2,770,000 ㎥	1,286,000 ㎥	5,326,000 ㎥	15,400,000 ㎥	
堰高	61.4 m	73.0 m	67.0 m	35.50 m	25.2 m	91.0 m	72.0 m	
堰頂長	305.0 m	254.0 m	208.7 m	138.15 m	141.0 m	255.0 m	322.1 m	
放水門	クレスト テンターゲート 3門	テンターゲート 4門	ローラーゲート 6門	ラジアルゲート 6門	ラジアルゲート 4門	スライドゲート 1門	非常用洪水吐：自由越流 堰方式 幅13m×11門 =143.0m	
設備	高圧ランタンゲート3門	高圧ローラーゲート3門	高圧ラヂアルゲート4門				常用洪水吐：高圧ラヂアルゲート1門	
計画洪水流量	2,400 ㎥/S	1,360 ㎥/S	3,400 ㎥/S	1,790 ㎥/S	2,640 ㎥/S	463,800 ㎥/S	460 ㎥/S	
調整後流量	1,400 ㎥/S	840 ㎥/S 二次調整 160 ㎥/S	1,800 ㎥/S				100150 ㎥/S	
取水口門扉(発電)	ローラーゲート 1門	ローラーゲート 2門	ローラーゲート 1門	ローラーゲート 1門	ローラーゲート 1門	取水口2 (門扉なし)		
発電所	最大使用水量	25.00 ㎥/S	14.00 ㎥/S	11.60 ㎥/S	35.00 ㎥/S	(揚水) 248.0 ㎥/S (220.0 ㎥/S)	管理用：2.2 ㎥/S	
	最大出力	11,000KW	92,000KW	6,000KW	7,000KW	466,000KW (490,000KW)	管理用：990KW	
年間発電電力量	48,881MWH	376,924MWH	30,471MWH	40,870MWH	29,472MWH	513,920,000KWH		
ダムの位置	北桑田郡美山町椋原	宇治市栲島町六石	相楽郡南山城村	船井郡日吉町天若	船井郡和知町市場	宇治市池尾	左：奈良市北野山町地先 右：奈良市丹生町地先	

6. 京都府雨量水位観測所一覧表（京都府水防計画、1995、京都府）
 (1) 雨量観測所

(平成7年4月1日現在)

コード 番号	観測所名	所在地	管理者	施設種類		備考
				自記	テレメータ	
20R01	府 庁	京都市上京区下立売通新町西入り藪ノ内町 京都府庁内	河川課長		◎	
35R01	京 都	京都市左京区賀茂今井町10-4 京都土木事務所内	京都土木 事務所長		◎	
35R02	大 原	京都市左京区大原上野町			◎	
35R03	上 賀 茂	京都市北区上賀茂十三石山			◎	
35R04	中 川	京都市北区中川北山町			◎	
35R05	勸 修 寺	京都市山科区勸修寺東出町			◎	
36R06	貴 船	京都市左京区鞍馬貴船町87			◎	
21R01	乙 訓	向日市植野町馬立8 乙訓土木事務所内	乙訓土木 事務所長		◎	
22R01	宇 治	宇治市宇治若森7-6	宇治土木		◎	
22R02	笠 取	宇治市西笠取7番11	事務所長		◎	
23R01	田 辺	綴喜郡田辺町字田辺小字明田1 田辺土木事務所内	田辺土木 事務所長		◎	
23R02	八 幡	八幡市八幡東島2の1			◎	
23R03	荒 木	綴喜郡宇治田原町荒木台地1-1			◎	
23R04	井 手	綴喜郡井手町小字南玉水67 井手町役場内		◎		
24R01	木 津	相楽郡木津町大字木津小字上戸18 木津土木事務所内	木津土木 事務所長		◎	
24R02	菱 田	相楽郡精華町菱田宮西22の2			◎	
24R03	鷲 峰 山	綴喜郡宇治田原町大字奥山田小字上上福92			◎	
24R04	湯 船	相楽郡和束町湯船 和束町農業共同組合湯船支所内			◎	

コード 番号	観測所名	所在地	管理者	施設種類		備考
				自記	テレメータ	
24R05	北大河原	相楽郡南山城村大字北大河原小字久保14-1	木津土木 事務所長		◎	
26R01	花背	京都市左京区花背大布施町772	周山土木 事務所長		◎	
26R02	上黒田	北桑田郡京北町大字上黒田小字水出20			◎	
26R03	周山	北桑田郡京北町字周山小字上段1 周山土木事務所内			◎	
26R04	上弓削	北桑田郡京北町大字上弓削小字宮ノ本6			◎	
25R01	亀岡	亀岡市荒塚町1丁目4-1	亀岡土木 事務所長		◎	
25R02	本梅	亀岡市本梅町中野煙川8-5			◎	
25R03	東別院	亀岡市東別院町東掛一ア20-2			◎	
27R01	園部	船井郡園部町小山東町藤ノ木21 園部土木事務所内	園部土木 事務所長		◎	
27R02	榎	船井郡園部町大字河内小字ガマ4の1			◎	
27R03	殿田	船井郡日吉町殿田小字大貝15の2			◎	
27R04	高屋川橋	船井郡丹波町大字豊田小字下川原7の1地先			◎	
27R05	八木大橋	船井郡八木町大字西田小字金井畠46の4地先			◎	
27R06	四ツ谷	船井郡日吉町字四ツ谷柏木5			◎	
28R01	綾部	綾部市川糸町丁畠10-2	綾部土木 事務所長		◎	
28R02	八津合	綾部市八津合町寺田			◎	
29R01	福知山	福知山市篠尾新町1丁目91 福知山土木事務所内	福知山 土木 事務所長		◎	
29R02	田ノ谷	天田郡三和町字田ノ谷小字藤迫254			◎	

コード 番 号	観測所名	所 在 地	管理者	施 設 種 類		備考
				自 記	テレメータ	
29R05	夜久野	天田郡夜久野町高内小字柳谷28	福知山 土 木 事務所長		◎	
29R06	大雲橋	加佐郡大江町南有道1341-4地先			◎	
29R07	大江山	加佐郡大江山町大字仏性寺小字二瀬川358			◎	
29R08	三 俣	福知山市字三俣地先			◎	
29R09	佐々木	福知山市字上佐々木小字登尾35-7			◎	
30R01	舞 鶴	舞鶴市浜2020 舞鶴土木事務所内	舞鶴土木 事務所長		◎	
30R02	二ツ橋	舞鶴市大内			◎	
30R03	下漆原	舞鶴市八戸地小字小倉431-1番地先			◎	
30R04	空 山	舞鶴市観音寺小字大井路57の6			◎	
31R01	宮 津	宮津市吉原 宮津土木事務所内	宮津土木 事務所長		◎	
31R03	堂谷橋	与謝郡野田川町字タイト田			◎	
31R05	伊 根	与謝郡伊根町本庄上桜1530-1地先			◎	
31R06	上世屋	宮津市字上世屋小字ヲシ水1905			◎	
32R01	峰 山	中郡峰山町字丹波855 峰山土木事務所内	峰山土木 事務所長		◎	
32R02	佐 濃	熊野郡久美浜町野中小字出合361地先			◎	
32R03	久美浜	熊野郡久美浜町小谷1323地先			◎	
32R04	網野橋	竹野郡網野町小浜小字小橋156-3地先			◎	
32R05	宇 川	竹野郡丹後町字井上小字長楽592番地先			◎	

コード 番号	観測所名	所在地	管理者	施設種類		備考
				自記	テレメータ	
36R01	大野	北桑田郡美山町榎原小字中ノ山48ノ5 大野ダム管理事務所内	大野ダム 管 理 事務所長		◎	
36R02	田歌	北桑田郡美山町大字田歌小字上五渡			◎	
36R03	佐々里	北桑田郡美山町大字佐々里小字佐々里奥3の7			◎	
36R04	知見	北桑田郡美山町大字知見小字知見山2-9			◎	
36R05	盛郷	北桑田郡美山町大字大字盛郷小字上田原			◎	
36R06	洞	北桑田郡美山町大字豊郷小字景遠			◎	
36R07	島	北桑田郡美山町大字下吉田小字由良			◎	
合計	61箇所			1箇所	60箇所	

(2) 水位観測所

(平成7年4月1日現在)

コード 番号	観測所名	河川名	指 定 (警戒) 水 位	零点か らの堤 防高m	所 在 地	管 理 者	施 設 種 類		備 考
							量水標	テレメタ	
35W01	大 原	高野川	1.10 (1.70)	3.55	京都市左京区大原上野町	京都土木		◎	
35W02	上賀茂	鴨 川	1.20 (2.00)	8.40	京都市北区上賀茂十三石山			◎	
35W03	荒神橋	鴨 川	0.50 (1.20)	5.60	京都市左京区吉田河原町 14番地先			◎	
35W04	小枝橋	鴨 川	1.50 (2.50)	4.20	京都市南区上鳥羽町小枝			◎	
35W05	勸修寺	山科川	0.80 (1.30)	5.25	京都市山科区勸修寺東出町			◎	
35W06	西 院	天神川	1.80 (2.50)	5.80	京都市右京区西院東貝川町			◎	
35W07	桂 橋	桂 川	2.30 (3.80)	6.20	京都市右京区桂	事務所長	◎		
35W08	天竜寺	桂 川	1.20 (1.80)	2.70	京都市右京区嵯峨天竜寺		◎		
35W09	羽束師橋	桂 川	2.00 (3.50)	7.00	京都市伏見区羽束師鴨川町		◎		
21W01	大原野	小畑川	1.30 (2.20)	5.74	京都市西京区大原野上紅葉町 無番地	乙訓土木 事務所長		◎	
22W01	佐 古	古 川	1.80 (2.20)	5.30	久世郡久我山町佐古外屋敷	宇治土木 事務所長		◎	
22W02	観 世	古 川			久世郡久我山町市田観世		◎		
22W03	宇治橋	宇治川	1.00 (1.50)	3.30	宇治市宇治		◎		

コード 番 号	観測所名	河 川 名	指 定 (警戒) 水 位	零点か らの堤 防高m	所 在 地	管 理 者	施 設 種 類		備 考
							量水標	テレメタ	
22W04	枇杷荘	木津川	2.50 (4.00)	7.60	城陽市枇杷荘	宇治土木 事務所長	◎		
23W01	八 幡	大谷川	1.50 (2.10)	3.45	八幡市八幡東島2の1	田辺土木 事務所長		◎	
23W02	防賀川	防賀川	1.70	2.25	八幡市内里古宮地先			◎	
23W03	三 山 木	普賢寺川	0.90 (1.20)	3.75	綴喜郡田辺町三山木七瀬川地先			◎	
23W04	荒 木	田原川			綴喜郡宇治田原町荒木大地 1-1			◎	
23W05	飯 岡	木津川	2.50 (4.00)	7.30	綴喜郡田辺町飯岡			◎	
23W06	八 幡 荘	木津川	2.50 (4.00)	7.30	八幡市八幡荘			◎	
23W07	橋 本	淀 川			八幡市橋本			◎	
24W01	菱 田	煤谷川	0.90 (1.30)	3.10	相楽郡精華町菱田宮西22の1	木津土木 事務所長		◎	
24W02	山田川	山田川	1.10 (2.40)	4.90	相楽郡木津町相楽小字城下地先			◎	
24W03	井関川	井関川	1.60 (2.10)	4.10	相楽郡木津町互谷地先			◎	
24W04	赤田川	赤田川	1.40 (2.00)	3.40	相楽郡加茂町大野島田地先			◎	
24W05	門前橋	和束川	1.20 (2.60)	5.66	相楽郡和束町大字原山 小字西手地先			◎	

コード 番号	観測所名	河川名	指 定 (警戒) 水 位	零点か らの堤 防高m	所 在 地	管 理 者	施 設 種 類		備 考
							量水標	テレメタ	
24W06	北大河原	木津川	5.50 (7.00)		相楽郡南山城村大字北大河原	木津土木	◎		
24W07	泉大橋	木津川	1.50 (3.00)	6.65	相楽郡木津町	事務所長	◎		
26W01	上黒田	桂川	2.50 (3.50)	5.50	北桑田郡京北町大字上黒田 小字水出20			◎	
26W02	周山	桂川	2.50 (4.00)	6.25	北桑田郡京北町字周山	周山土木		◎	
26W01	五本松	弓削川	1.70 (2.20)	6.70	北桑田郡京北町大字五本松 小字セバトロ	事務所長		◎	
26W02	中地	細野川	2.00 (2.90)	8.00	北桑田郡京北町大字五本松 小字セバトロ			◎	
25W01	保津峡	桂川	2.50 (4.50)	5.74	亀岡市保津町下中島	亀岡土木		◎	
25W02	今石	桂川	2.50 (4.50)	4.70	亀岡市保津町今石	事務所長	◎		
27W01	船岡	桂川	3.00 (4.00)	4.50	船井郡日吉町字殿田 小字新葉1の1			◎	
27W02	八木大橋	桂川	2.00 (2.50)	4.62	船井郡八木町大字西田小字 金井島46の4地先	園部土木		◎	
27W03	殿田	田原川	1.10 (1.70)	3.17	船井郡日吉町殿田小字大貝 15の2			◎	
27W04	小山	園部川	1.80 (2.50)	3.75	船井郡園部町小山東町藤ノ木 54の1地先	事務所長		◎	
27W05	高屋川橋	高屋川	0.90 (1.50)	3.00	船井郡丹波町大字豊田小字 下川原7の1地先			◎	

コード 番号	観測所名	河川名	指 定 (警戒) 水 位	零点か らの堤 防高m	所 在 地	管 理 者	施 設 種 類		備考
							量水標	テレメタ	
27W06	鳥 羽	桂 川	1.50		船井郡八木町字鳥羽	園部土木 事務所長		◎	
28W01	八津合	上林川	1.00 (2.00)	4.93	綾部市八津合町寺田	綾部土木		◎	
28W02	新 庄	犀 川	1.10 (2.00)	4.59	綾部市新庄町小字東81の1 地先	事務所長		◎	
29W01	三 俣	土師川	1.50 (2.50)	5.20	福知山市字三俣	福 知 山 土 木 事務所長		◎	
29W03	大雲橋	由良川	3.50 (5.00)	13.80	加佐郡大江町南有路小字城小 1341			◎	
29W05	上川口	牧 川	1.50 (2.50)	3.73	福知山市下小田荒砂66の1			◎	
29W06	榎 原	和久川	0.80 (1.60)	2.69	福知山市大字拝師小字岡本 2054番地先			◎	
30W01	志楽川	志楽川		3.02	舞鶴市田中町50地先	舞鶴土木		◎	
30W02	ニッ橋	伊佐津川	1.00 (2.00)	4.29	舞鶴市大内	事務所長		◎	
31W01	京 口	大手川	1.00 (1.50)	2.61	宮津市京口	宮津土木 事務所長		◎	
31W02	堂谷橋	野田川	1.80 (2.30)	6.40	与謝郡野田川町字タイト田			◎	
31W03	伊 根	筒 川	0.80 (1.60)	3.98	与謝郡伊根町本庄上桜 1530-1地先			◎	
32W01	大宮橋	竹野川	0.50 (1.00)		中郡大宮町口大野	峰山土木 事務所長	◎		

コード 番号	観測所名	河川名	指 定 (警戒) 水 位	零点か らの堤 防高m	所 在 地	管 理 者	施 設 種 類		備考	
							量水標	テレマタ		
32W02	矢田橋	竹野川	2.00 (2.50)	6.10	中郡峰山町字糸井新町 3 2 6—2 地先	峰山土木		◎		
32W03	大門橋	竹野川	1.50		竹野郡丹後町成願寺		◎			
32W04	広瀬橋	竹野川	1.00 (1.50)		竹野郡丹後町間人		◎			
32W05	二筒橋	鱒留川	0.70 (1.20)		中郡峰山町二筒		◎			
32W06	出合橋	佐濃谷川	1.20 (1.60)	3.81	熊野郡久美浜町野中小字出合 3 6 1 地先			◎		
32W07	橋爪橋	川上谷川	1.40 (2.00)	2.93	熊野郡久美浜町橋詰 4 8 3 地先			◎		
32W08	栃谷橋	栃谷川	1.00 (1.50)	2.61	熊野郡久美浜町		◎			
32W09	網野橋	福田川	1.00 (1.50)	2.61	竹野郡網野町小浜小字小橋 1 5 6—3 地先		事務所長		◎	
32W10	宇 川	宇 川			竹野郡丹後町字井上小字長楽 5 9 2 番地先				◎	
32W11	田村橋	佐濃谷川	1.50 (2.10)		熊野郡久美浜町三分	◎				
32W12	広瀬橋	久美谷川	0.50 (1.00)		熊野郡久美浜町	◎				
36W01	田 歌	由良川	1.50 (2.20)		北桑田郡美山町大字田歌 小字上五波	大野ダム 管 理 事務所長		◎		
36W02	島	由良川	2.00 (3.50)	7.60	北桑田郡美山町大字下吉田 小字由良			◎		

コード 番号	観測所名	河川名	指定 (警戒) 水位	零点か らの堤 防高m	所在地	管理者	施設種類		備考
							量水標	テレマーク	
36W03	静原	棚野川	2.00 (3.50)	6.60	北桑田郡美山町大字知見 小字知見小	大野ダム 管理		◎	
36W04	山家	由良川	—	9.00	綾部市鷹栖町西田中	事務所長		◎	
合計	67箇所						20箇所	47箇所	

7. 建設省雨量水位観測所一覧表（京都府水防計画、1995、京都府）

(1) 雨量観測所（テレメータ）

ア 淀川水系

河川名	観測所名	観測位置	観測開始年月日	標高(m)	所属	備考
大石川	宮村	綴喜郡宇治田原町宮村	S38.12.27	260	淀川ダム統合管理事務所	
桂川	鎌倉	北桑田郡京北町上黒田	S46.6.24	483	〃	
桂川	周山	北桑田郡京北町周山上植代43-1	S45.7.1	307	〃	
桂川	殿田	船井郡日吉町桂七郎ヶ谷301	S46.6.24	272	〃	
園部川	園部	船井郡園部地大河内馬並1	S46.6.24	292	〃	
桂川	新町	船井郡八木町鳥羽	S39.3.4	110	淀川工事事務所	
桂川	西別院	亀岡市西別院大字袖原西別院小学校	S39.3.4	270	〃	
鴨川	雲ヶ畑	京都市北区雲ヶ畑中畑	S46.6.24	290	淀川ダム統合管理事務所	
桂川	桂	京都市西京区桂浅原町	S45.7.1	34	〃	
木津川	加茂	相楽郡加茂町船屋	S41.2.20	40	淀川工事事務所	

イ 由良川水系

河川名	観測所名	観測位置	観測開始年月日	標高(m)	所属	備考
高屋川	曾根	船井郡丹波町字曾根	S59.6.27	271	福知山工事事務所	
高屋川	下山	船井郡丹波町下山	S45.7.17	360	〃	
由良川	綾部	綾部市味方町宮の前15	S49.4.1	40	〃	
犀川	物部	綾部市物部町何北中学校	S48.7.4	56	〃	
土師川	三和	天田郡三和町辻	S48.7.4	96	〃	
由良川	福知山	福知山市堀今岡	S53.9.7	22	〃	
由良川	大川橋	舞鶴市上東	S43.12.10	45	〃	
上和知川	西河内	船井郡和知町字西河内	S59.6.27	290	〃	

(2) 水位観測所 (テレメータ)

ア 淀川水系

河川名	観測所名	観測位置	指 定 位 置 (警戒 水位)	計 画 高 位 水 (m)	河 口 よ り の 距 離 (k m)	零 点 高 (m)	観測開始 年月日	管 理 者
宇治川	榎尾山	宇治市宇治町	2.00 (3.00)	-	51.90	OP+16.00	S40. 4. 1	淀川ダム統合 管理事務所
宇治川	向島	京都市伏見区向島橋詰橋	1.30 (2.00)	4.11	44.90	OP+12.866	S42. 7. 1	淀川工 事 務 所
宇治川	淀	久世市久御山町北島	2.50 (3.50)	5.60	38.90	OP+11.017	S46. 6.24	淀川ダム統合 管理事務所
宇治川	宇治川 三山	八幡市八幡荘	- (-)	-	35.70	OP+8.956	S52. 3	淀川工 事 務 所
桂川	新町	船井郡八木町島羽	1.50 (-)	-	77.90	TP+109.700	S40. 3	〃
桂川	亀岡	岡崎市保津町追分中島	2.50 (4.50)	-	66.70	TP+83.247	S47. 4. 1	淀川ダム統合 管理事務所
桂川	保津峡	京都市右京区嵯峨町水尾鳩巢	3.00 (-)	-	59.20	TP+48.073	S40. 3.22	淀川工 事 務 所
桂川	天竜寺	京都市右京区天竜寺角倉町	1.20 (1.80)	2.50	55.70	OP+34.360	S61. 4.	〃
桂川	桂	京都市西京区桂浅原町	2.80 (3.80)	5.06	50.40	OP+19.391	S42. 7.10	〃
桂川	納所	京都市伏見区納所町	2.00 (3.50)	6.07	41.00	OP+11.119	S45. 7. 1	淀川ダム統合 管理事務所
木津川	有市	相楽郡笠置町上有市	5.00 (-)	-	40.10	TP+47.000		水 資 源 開 発 公 団
木津川	加茂	相楽郡加茂町船屋	2.50 (4.50)	9.01	66.50	TP+34.887	S40. 9.25	淀川工 事 務 所
木津川	飯岡	綴喜郡田辺町飯岡	2.00 (3.50)	6.71	52.70	TP+22.108	S53. 3.	〃
木津川	八幡	八幡市千束	2.50 (4.00)	6.41	37.90	OP+11.335	S45. 7. 1	淀川ダム統合 管理事務所

イ 由良川水系

河川名	観測所名	観測位置	指 定 位 置 (警戒 水位)	計 画 高 位 水 (m)	河 口 よ り の 距 離 (k m)	零 点 高 (m)	観測開始 年月日	管 理 者
由良川	綾部	綾部市味方町	2.00 (3.50)	8.123	51.90	TP+33.500	S45. 7.17	福知山工 事 務 所
由良川	戸田	福知山市川北489	2.00 (-)	7.007	42.10	TP+18.552	S49. 6.10	〃
土師川	三和	天田郡三和町千束	1.20	-	57.40	TP+77.069	S51. 4. 1	〃
由良川	福知山	福知山市寺町	2.00 (4.00)	7.740	36.00	TP+12.440	S53. 9. 7	〃
由良川	大川橋	舞鶴市上東	2.50 (3.50)	-	8.20	TP-1.064	S43.12.13	〃
由良川	地頭	舞鶴市地頭	3.50	-	14.60	TP-0.413		〃
由良川	由良	宮津市由良	0.80	-	0.40	TP-0.171		〃

8. 建設省所管の砂防指定地・地すべり防止区域・急傾斜崩壊危険区域一覧表

土木事務所	砂防指定地		地すべり防止区域		急傾斜地崩壊危険区域	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
京 都	113	4,610.66	0	0.00	1	3.02
乙 訓	38	63.98	2	13.34	1	0.43
宇 治	37	2,270.77	0	0.00	0	0.00
田 辺	67	1,521.85	0	0.00	10	17.11
木 津	86	7,689.25	5	116.02	22	29.13
周 山	100	972.03	0	0.00	9	13.51
亀 山	67	4,674.22	0	0.00	0	0.00
園 部	134	2,644.99	0	0.00	20	23.22
綾 部	82	368.18	1	17.38	22	29.50
福 知 山	145	836.78	1	8.48	25	35.20
舞 鶴	114	606.92	2	13.24	23	27.00
宮 津	112	810.79	7	116.95	32	43.71
峰 山	144	3,047.09	1	15.94	24	37.41
合 計	1,239	30,117.51	19	301.35	189	259.24

平成6年3月31日現在

土木建設課(1994)砂防指定地、地すべり防止区域、急傾斜崩壊危険区域位置図

9. 建設省所管の地すべり防止区域（京都府地域防災計画、1993、京都府防災会議）

地すべり防止区域名	所在地	面積 ha	地質	摘要
小塩	京都市西京区大原野小塩	8.11	旧洪積層	昭和35年指定
美浪	相楽郡加茂町美浪	6.24	第三紀層	〃
山の上	相楽郡加茂町山の上	6.47	〃	〃
東畑	相楽郡精華町東畑	14.97	洪積層	昭和47年指定
上林	綾部市八津合	17.38	秩父古生層	昭和37年指定
朝代	舞鶴市朝代	7.92	第三紀安山岩	昭和35年指定
大山	舞鶴市大山	5.32	〃	〃
牧	宮津市牧	5.92	第三紀層	〃
藪田	宮津市藪田	14.69	〃	〃
本村	宮津市日ヶ谷	38.70	〃	昭和41年指定 (平成元年改正)
寺領	与謝郡伊根町寺領	9.04	〃	昭和41年指定
間人	竹野郡丹後町間人	15.94	〃	〃
長江	宮津市長江	7.90	〃	昭和51年指定
小谷	加佐郡大江町蓼原	8.48	角閃岩	昭和54年指定
切山	相楽郡笠置町切山	50.81	領家変成帯	昭和57年指定
菅野	与謝郡伊根町菅野	25.00	第三紀層	〃
白栖	相楽郡和束町白栖	28.79	丹波古生層	昭和59年指定
東畑	相楽郡精華町東畑	5.50	洪積層	〃 追加指定
落山	宮津市落山	15.70	第三紀層	昭和62年指定
白栖	相楽郡和束町白栖	6.53	丹波古生層	昭和63年追加指定
小塩(2)	京都市西京区大原野小塩	5.23	旧洪積層	平成元年指定
山の上	相楽郡加茂町大字北	1.71	第三紀層	平成2年追加指定

10. 林野庁所管の地すべり防止区域（京都府地域防災計画、1993、京都府防災会議）

地すべり防止区域名	所在地	面積 ha	地質	摘要
橋谷	加佐郡大江町字橋谷	63.25	第三紀層	昭和49年指定
木元	綴喜郡宇治田原町奥山田字木元	17.37	〃	昭和50年指定
土ヶ畑	亀岡市畑野町大字土ヶ畑字沢の上	7.21	〃	昭和47年指定
船ヶ谷	宮津市長江船ヶ谷	54.26	〃	昭和46年指定
田原	宮津市字田原	44.22	〃	平成5年指定

11. 構造改善局所管の地すべり防止区域（京都府地域防災計画、1993、京都府防災会議）

地すべり防止区域名	所在地	面積 ha	地質	摘要
園	相楽郡和束町園	11.82	第三紀層	昭和55年指定
天王黒岩	綴喜郡田辺町天王黒岩	10.67	新第三紀層	平成3年指定
俵野	竹野郡網野町俵野	23.06	〃	平成5年指定

1 2. 災害危険区域一覽表（京都府地域防災計画、1995、京都府防災会議）（平成7年3月31日現在）

危険区域別 市町村別	林地災害危険地			全		地すべり 等防止法 第3条の 指定区域 〔建設省 所〕	地すべり 危険箇所	なだれ 危険箇所	急傾斜地 急傾斜地 の崩壊に よる災害 の防止に 関する法 律第3条 の指定区 域※3	関係		防		関係		
	山地	山腹崩壊	崩壊土砂 流出	なだれ	※1 地すべり					急傾斜地	急傾斜地 崩壊 危険箇所	砂防 法第2 条指 定箇 所	土石 流 生 産 危険 箇所	農地	改良	
																なだれ
京都市	156		189			2	1		1	56	144					38
向日町	2									4						4
長岡京市	18		7							1	8					21
大山崎町	8		1							2	5					1
小	28		8						1	7	13					26
宇治市	44		46							20	21					1
城陽市			3							2	9					1
久御山町																
小	44		49							22	30					2
八幡町	5		1						1	5	5					1
田辺町	5		1				1		4	10	9					16
井手町	3		3							5	14					6
宇治原町	56		45	1(1)			1		6	11	30					53
小	69		49	1(1)			2		11	31	56					70
山城町	44		7							3	10					23
木津町	2									8	5					12
加茂町	43		13			2	3		3	7	24					15
笠置町	27		14				1		7	9	22					1
和束町	34		27			1	2		7	19	33					10
精華町	5			※2 1		1	2		2	12	1					21
南山城町	52		16							18	9					5
小	207		77			5	8		22	76	104					87
龜岡市	104		155	1(1)						49	65					104
小	104		155	1(1)						49	65					104
京北町	128		125						9	22	43					19
美山町	178		124				1			26	62					4
小	306		249				1		9	48	105					23

園地	園部	町	24	22												1	18	63	81	49
振興局	八木町		16	14													15	15	29	10
	丹波町		13	13												8	14	1	25	28
	日吉町		32	38												7	36	9	48	10
	瑞穂町		25	39												1	21	30	42	16
	和知町		26	53	1										1	15	23	37	6	
	小計		136	179	1										20	119	141	262	119	
綾部	綾部	市	250	182			3	1							23	70	83	172	97	
振興局	小計		250	182			3	1							23	70	83	172	97	
舞鶴	舞鶴	市	350	207	6			2							24	165	112	262	29	
地方	小計		350	207	6			2							24	165	112	262	29	
振興局	福知山市		151	100	1										6	59	58	84	30	
地方	三和町		83	149											1	19	22	19	3	
振興局	荻久野町		45	72			8								14	35	47	83	10	
	大江町		87	61	3(1)		2	1							6	30	23	34	2	
	小計		366	382	4(1)		10	1							26	143	150	220	45	
宮津	宮津	市	32	46	2(2)		3	5							10	28	53	115	3	
地方	加悦町		28	27			11								3	6	17	59	6	
振興局	岩瀬町		4	16			4								2	3	12	17	1	
	伊根町		25	17	2		21	2							15	36	19	29	2	
	野田川町		9	14			2								4	13	16	44	6	
	小計		98	120	5(2)		41	7							34	86	117	264	18	
峰山	峰山	町	14	16			3								1	13	33	19	25	
地方	大宮町		56	21			1								1	7	40	25	16	
振興局	網野町		39	14			9								12	31	4	45	7	
	丹後町		50	17	5		33	1							8	20	26	41	10	
	赤栄町		26	38	1		33								4	24	19	33	7	
	久美浜町		52	26			8									27	31	47	25	
	小計		237	132	6		87	1							26	122	153	210	90	
合計			2,351	1,978	25(5)		243	19							197	994	1,275	2,144	748	

(注) ※1 ()内は地すべり等防止法第3条の指定区域数を再掲
 ※2 和東町の地すべり防止指定地域は、農地保全の地すべり防止法関係危険地

13. 宅地造成工事規制区域（京都府宅地造成工事規制区域、1970、京都府土木建築部建築課）

地区名	指定年月日	面積
東宇治地区	昭和39年 3月31日	1,025ha
宇治・城陽地区	昭和39年 3月31日	2,767ha
八幡地区	昭和39年 3月31日	780ha
田辺地区	昭和39年 3月31日	1,722ha
飯岡地区	昭和39年 3月31日	32ha
長岡・大山崎地区	昭和43年11月 5日	1,252ha
向日地区	昭和43年11月 5日	200ha

14. 海岸保全区域所管別諸元（京都府地域防災計画震災対策計画編、1995、京都府防災会議）

保全区域所管別	海岸延長	指定区域	要指定区域
運輸省	134.4km	67.8km	1.9km
建設省	99.2km	14.8km	9.9km
構造改善局	3.2km	3.0km	0.4km
水産庁	83.8km	17.6km	26.5km
計	320.6km	96.9km	39.1km

15. 京都府の漁港（京都府漁港位置図、1995、京都府農林水産部水産課）

第1種漁港		〔 その利用範囲が地元の 漁業を主とするもの 〕	市町管理
舞鶴市	水ヶ浦、成生、三浜、瀬崎、大丹生、千歳、神崎		
宮津市	由良、島陰、田井（栗田）、溝尻		
伊根町	泊		
丹後町	袖志、竹野、小間、砂方		
網野町	三津、遊、磯、浜詰		
久美浜町	蒲井、旭		
第2種漁港		〔 その利用範囲が第1種漁港 より広く、第3種漁港に 属さないもの 〕	市町管理
舞鶴市	田井（舞鶴）、小橋、野原		
宮津市	栗田、養老		
伊根町	伊根、本庄、新井、浦島		
丹後町	間人		
網野町	浅茂川		
第3種漁港		〔 その利用範囲が全国的なもの 〕	府管理
舞鶴市	舞鶴		
第4種漁港		〔 離島その他辺地であって 漁場の開発、又は漁船の 避難上特に必要なもの 〕	府管理
丹後町	中浜		
（重要港湾）舞鶴、（地方港湾）宮津、久美浜			

16. 国指定選定文化財の全国及び京都府内所在件数等一覧表（京都府文化財保護課資料）

種別	建造物		美術工芸品								特別				史跡・名勝・天然記念物			
	件数	棟(基)数	絵画	彫刻	工芸品	書典 跡籍	古文書	考資 古料	歴資 史料	計	史跡	名勝	天然記念物	計	史跡	名勝	天然記念物	計
全国	国宝	(207)	(249)	152	118	250	222	52	36		830							
	重文	2094	3455	1701	2407	2070	1579	602	440	71	8870							
	計	2094	3455	1853	2525	2320	1801	654	476	71	9700	57	28	72	157	1311	257	914
京都府	国宝	(46)	(58)	46	34	14	82	1	2		179							
	重文	277	515	414	342	134	565	32	17	9	1513							
	合計	277	515	460	376	148	647	33	19	9	1692	3	11		14	70	39	9

(備考)

1. 美術工芸品の重要文化財件数は、国宝を含まない。また、美術工芸品の府内に所在する国有のものは、府内指定件数から除いた。
2. 建造物には、国宝と重要文化財の両者で1件とするものがある。従って、重要文化財の数には、国宝を含めた。

17. 特別史跡・名勝・天然記念物（京都府文化財保護課資料）

名称	所在地	面積	種類
大仙院書院庭園	北区紫野大徳寺町	2,024.95㎡	名
大徳寺方丈庭園	北区紫野大徳寺町	4,356.56㎡	名
鹿苑寺（金閣寺）庭園	北区金閣寺町1	93,239.60㎡	史・名
金地院庭園	左京区南禅寺福地町	3,928.92㎡	名
慈照寺（銀閣寺）庭園	左京区銀閣寺町	22,377.95㎡	史・名
二条城二之丸庭園	中京区二条通堀川西入二条城町541	15,917.35㎡	名
本願寺大書院庭園	下京区堀川通花屋町下る本願寺門前町	761.05㎡	名
天龍寺庭園	右京区嵯峨天竜寺芒ノ馬場町68	30,269.09㎡	名
法金剛院青女滝 附 五位山	右京区花園扇野町	18,324㎡	名
龍安寺方丈庭園	右京区龍安寺御陵ノ下町	335.80㎡	名
西芳寺庭園	西京区松尾神ヶ谷町	16,912.39㎡	名
醍醐寺三宝院庭園	伏見区醍醐東大路町	15,480.13㎡	史・名
天橋立	宮津市字文珠、中野、大垣	157,781.81㎡	名
浄瑠璃寺庭園	加茂町大字西小字礼場40	11,505.04㎡	名
オオサンショウウオ			天
カモシカ			天

重要伝統的建造物群保存地区

名称	所在地	面積(ha)	選定年月日
京都市産寧坂伝統的建造物保存地区	東山区祇園町南側他	8.2	昭和51年9月4日
京都市祇園新橋	// 東山区元吉町他	1.4	//
京都市嵯峨島居本	// 右京区嵯峨亀ノ尾町他	2.6	昭和54年5月21日
京都市上賀茂	// 北区上賀茂藤ノ木他	2.7	昭和63年12月16日
美山町北	// 美山町大字北の一部	127.5	平成5年12月8日

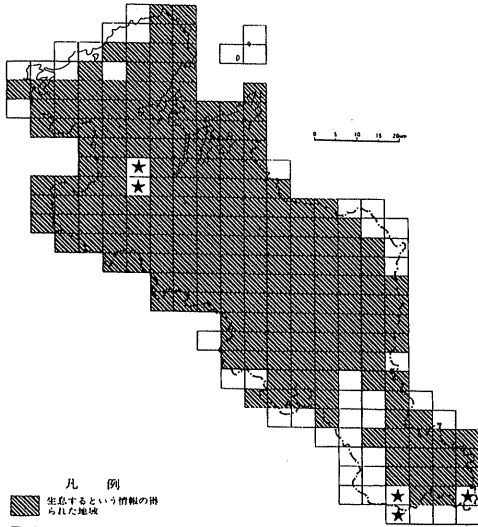
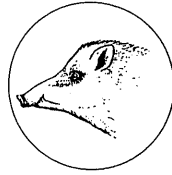
18. 京都府指定・登録等文化財市町村別件数一覧（京都府文化財保護課資料）（平成7年3月14日現在）

種別 市町村	有形文化財			無形文化財		民俗文化財		史跡		名勝		天然記念物		指定登録 小計	文化財環境 保全地区 決定	選定保存 基準 選定	合計						
	建造物	美術	工	指定	登録	有形	無形	指定	登録	指定	登録	指定	登録										
*京都市	△128	△17	33	△11	■	1		1		△12		1	△574	△28	■5	4	△586						
*向日市	2	1					1	1					4	1			5						
*長岡京市		1	4							1			5	1			6						
*大山崎町		1	1										1	1			2						
*宇治市	△18	3	6					1		2		1	△118	3	2		△123						
*城陽市		4	1	1								1	1	6	4		11						
*八幡市	2	2	3					1		1		1	8	2	2		12						
*久御山市		1		1										2			2						
*田辺町	1	5	3	2									4	7	6		17						
*井手町	1	1	1	1								1	3	2	2		7						
*宇治田原町		2						1						3	2		5						
*山城町	1	3		1			△11	1					△12	5	3		△110						
*木津町	2	1	1				1	1	1				3	4	2		9						
*加茂町	1	△17	3				1		3	1		1	△19	8	3		△120						
*笠置町	2	1											1	2	1		4						
*和束町			1				2		1			1	2	3			5						
*精華町		1	1					1					2	1	1		4						
*南山城村		1		1				1					1	2	1		4						
*京北町	1		1					1	1	2			5	1	1		7						
*美山町	1		2					7					3	7	1		11						
*亀岡市	1	△16	5	2			1	2	2		3		11	△11	5		△127						
*園部町	2	2	△12	1								1	△15	3	1		△19						
*八木町	1	2					1		1				3	2	2		7						
*丹波町		1	6	2									6	3			9						
*日吉町	1	1	1				1	1					2	3	1		6						
*瑞穂町		2	1					1					1	3	1		5						
*和知町		1	1					1					2	1			3						
*綾部市	5	△27	△25	3	■			3		1		1	△213	△113	4		△230						
*福知山市	△13	2	8	1				3	1				△112	6	2		△120						
*舞鶴市	4	2	8	2			1	1	9		1		14	14	3		31						
*夜久野町		1						1	1				1	2			3						
*三和町	1	1					1		1				2	2	2		6						
*大江町			1	2								1	2	2			4						
*宮津市	6	1	△211	2			3	2	2		2	1	△222	8	1		△231						
*加悦町			2					1	3	2	1		8	1			9						
*岩滝町								1						1			1						
*伊根町		1						2	5				2	6			8						
*野田川町								1				1	1	1			2						
*峰山町			1	2				2	1				2	4			6						
*大宮町			4					1	1			1	2	5			7						
*網野町		1												1			1						
*丹後町		1	1	2				3					1	6	1		8						
*弥栄町							3		1				4				4						
*久美浜町	2	1	8	1				4	1	1			12	6	1		19						
地域定めず													5	5			5						
合計	△1/44	△670	△371	△6127	△137	■8	9	0	2	8	20	56	17	0	16	0	13	6	214	△1178	■5	4	△1441

※①*印は、文化財保護条例制定市町村である。（41市町村で制定）・・・制定率93.18%（全国95.12% 平成4.5.1現在）
 ②△は、重要文化財等に指定されたため、京都府の指定が解除となった件数で内数である。
 ③△は、重要文化財及び府指定文化財に指定並びに文化財の焼失により、京都府の登録が取り消しとなった件数で内数である。
 ④無形文化財及び選定保存技術の保持（保存）団体の認定数は、件数に含めない。

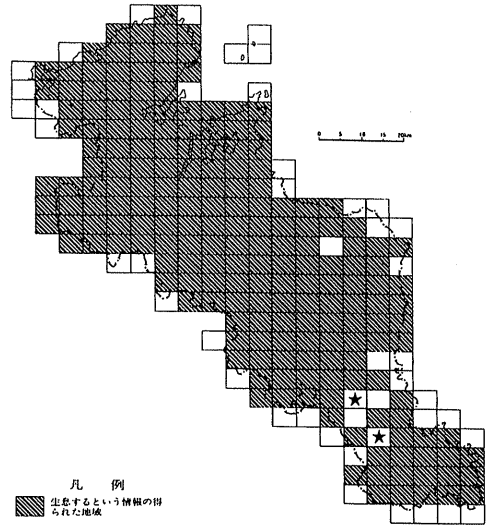
19. 哺乳類分布メッシュ図 (動植物分布図・京都府、1981、環境庁)

イノシシ
Wild Boars (*Sus scrofa*)



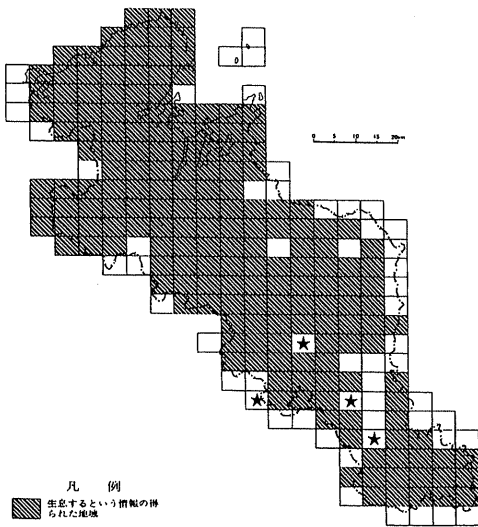
凡例
 ■ 生息するという情報の得られた地域
 □ 生息するという情報の得られなかった地域
 ★ 絶滅した地域

キツネ
Red Foxes (*Vulpes vulpes*)



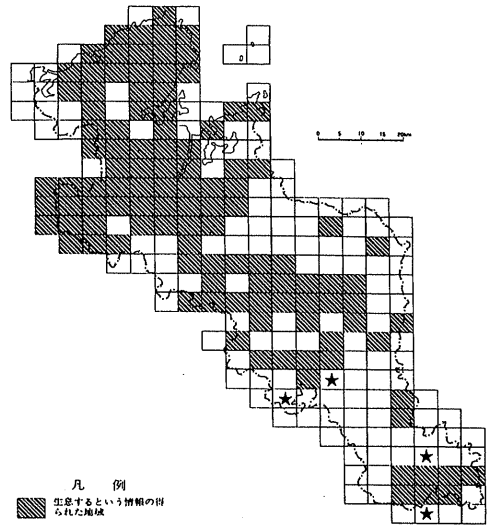
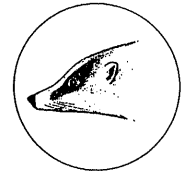
凡例
 ■ 生息するという情報の得られた地域
 □ 生息するという情報の得られなかった地域
 ★ 絶滅した地域

タヌキ
Raccoon-dogs (*Nyctereutes procyonoides*)



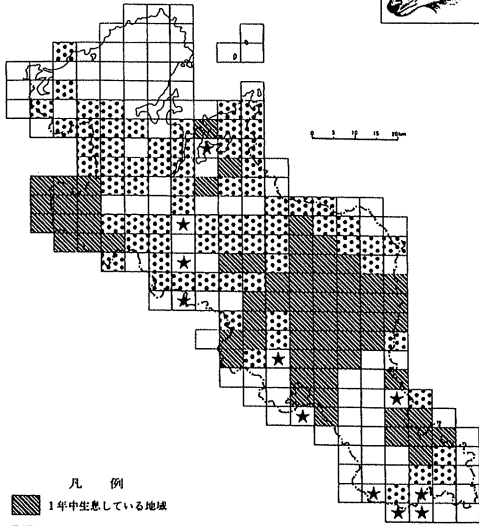
凡例
 ■ 生息するという情報の得られた地域
 □ 生息するという情報の得られなかった地域
 ★ 絶滅した地域

アナグマ
Badgers (*Meles meles*)



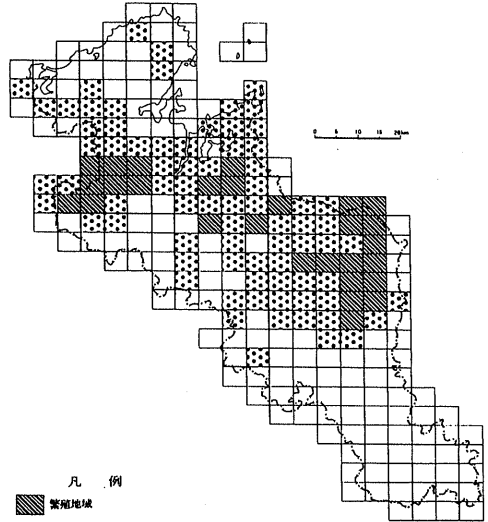
凡例
 ■ 生息するという情報の得られた地域
 □ 生息するという情報の得られなかった地域
 ★ 絶滅した地域

ニホンジカ
Sika Deer (*Cervus nippon*)



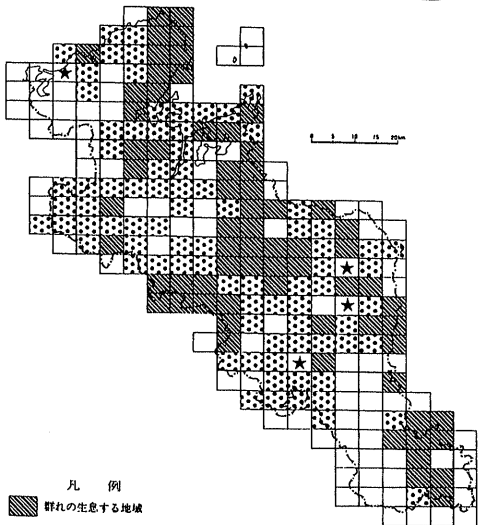
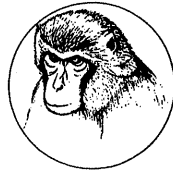
- 凡 例
- 1年中生息している地域
 - 季節によっては生息している地域
 - 生息するという情報の得られなかった地域
 - ★ 絶滅した地域

ツキノワグマ
Asiatic Black Bears (*Selenarctos thibetanus*)



- 凡 例
- 繁殖地域
 - 出没地域
 - 生息するという情報の得られなかった地域
 - ★ 絶滅した地域

ニホンザル
Japanese Monkeys (*Macaca fuscata*)



- 凡 例
- 群れの生息する地域
 - 生息するが群れとは判別できない地域
 - 生息するという情報の得られなかった地域
 - ★ 絶滅した地域

20. 貴重な植物及び動物の生育地対照表（動植物分布図・京都府、1981・1989、環境庁）

〔特定植物群落〕

Specific plant communities

番号	件名	選定基準
1	経ヶ岬のクロマツ林	A
4	味土野のシデ林	E
7	箱石海岸の砂丘植生	D
8	箱石のクロマツ植林	F
10	青島のシイ林	A
11	上世屋のミズナラ林	E
12	天ノ橋立のクロマツ林	A
13	冠島の照葉樹林	E
14	野原のシイ林	E
15	舞鶴市三浜のシイ林	E
16	神崎のシータブ林	A
17	神崎浜のハマナス	G
18	青葉山のシデ林	E
20	下福井のシイ林	E
21	大江山のタンゴグミ	B
22	大江山のミズナラーリョウブ林	E
23	鬼岳のブナ林	A
24	内宮のデワノタツナミソウ	C
25	大江町内宮のシイ林	A・E
26	城山の自然林	A・E
29	下野原のシデ林	E
30	石原のヌカボタデ・ヤナギヌカボ群落	G
31	夜久野南帯のコナラ林	E
32	君尾山のモミスギ林	E
33	ワサ谷のスギ林	A
34	高倉神社のシラカシ林	E
35	本宮山のシイ林	E
38	仏主高山のモミ林	A・E
39	芦生の自然林	A・H
41	洞谷の自然林	A
42	田歌のモミツガ林	A
43	佐々里峠のブナスギ林	A
44	八丁林道のスギーヌナラ林	A
45	井戸妹路谷のクレーミズナラ林	A
46	西別院万願寺のアカマツ林	E

48	八丁平のクレーミズナラ林	A
49	八丁平湿原	D・H
50	大悲山のモミツガ林	A・E
51	百井のモミ林	A
52	鞍馬山のモミ林	A・E
53	貴船川のキブネダイオウ個体群	C
55	比叡山のモミ林	A
56	比叡山のコナラ林	E
57	深泥池水生植物群落	D・H
59	下鴨神社のエノキ林	E
60	吉田山のアラカシ林	E
61	大文字山のアカマツ林	E
62	疎水の水草群落	D
63	鴨川の水草群落（1）	D
64	大田神社のカキツバタ群落	G
65	保津峡の河岸植生	D
66	保津峡のシリブカガシ林	A
67	嵐山の森林	E
68	保津峡のアラカシ林	A
70	松尾大社のシイ林	A・E
71	東山のシイ林（1）	A・E
72	安祥寺のシイ林	A・E
73	東山のシイ林（2）	A・E
74	醍醐寺の森林	E
76	鴨川の水草群落（2）	D
77	金井戸のヨシ原および周縁帯	D
78	宇治川の水草群落	D
79	紅斎のシイ林	A・E
80	宇治のオオチャルメルソウ	C
81	男山の照葉樹林	A・E
82	木津川河川敷のツルヨシ・セイコノヨシ群落	D
83	笠置山の自然林	E
84	上世屋のブナ林	A・H
85	蛇島のタブ林	A・H
86	龜岡のオニハス群落	D

〔注1〕「番号」は、生育地ごとに付された通し番号で、「特定植物群落調査報告書の調査票」と対照できるようにしている。

〔注2〕調査対象とした植物群落は、つぎの選定基準により選定され、「選定基準」欄には、その理由が記号で記載されている。

特定植物群落選定基準

記号	理 由
A	原生林もしくはそれに近い自然林
B	国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
C	比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
D	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G	乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
H	その他、学術上重要な植物群落または個体群

両生類・は虫類

Reptiles and Amphibians

種略号	種 名	学 名
Rb	ダルマガエル	<i>Rana brevipoda brevipoda</i> R・ITO
Pe	モリアオガエル	<i>Rhacophorus arboreus</i> (OKADA et KAWANO)
Uq	オオサンショウウオ	<i>Maglobatrachus japonicus</i> (TEMMINCK)
Uf	カスミサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus nebulosus</i> (SCHLEGEL)
Ua	アヘサンショウウオ	<i>Hynobius abei</i> SÂTO
Uc	ヒダサンショウウオ	<i>Hynobius naevius kimurae</i> DUNN
Up	ハコネサンショウウオ	<i>Onchodactylus japonicus</i> (HOUTTUYN)

(注1) 図上分布位置のわきの数字及び記号は、「地図番号」-「対照番号」-「種略号」を意味し、「動物分布(両生類・は虫類)調査報告書の調査票」と対照できるようになっている。

(注2) 地域のおそれのある種、学術上重要な種等として環境庁が選定した両生類24種、は虫類10種を調査対象とした。

淡水魚類

Fresh water fishes

種略号	種 名	学 名
Al	イタセンバラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>
Ros	ニホンバラタナゴ (=バラタナゴ)	<i>Rhodeus ocellatus smithi</i> (=R. (R.) ocellatus f. smithi)
Lc	アユモドキ	<i>Leptobotia curta</i>
Ga	イトヨ	<i>Gasterosteus aculeatus aculeatus</i> (=G. aculeatus)
Ckz	カマキリ (=アユカケ)	<i>Cottus kazika</i> (=C. (C.) kazika)
Ck	オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i> (=Siniperca (Bryttosus) kawamebari)
Sk	サケ	<i>Salmo (Oncorhynchus) keta</i>
Cd	アジメドジョウ	<i>Cobitis (Niwaella) delicata</i>

(注1) 図上分布位置のわきの数字及び記号は、「地図番号」-「対照番号」-「種略号」を意味し、「動物分布(淡水魚類)調査報告書の調査票」と対照できるようになっている。

(注2) 地域のおそれのある種、学術上重要な種等として環境庁が選定した淡水魚類27種並びに都道府県が選定した種を調査対象とした。

藻 場

Sea weed beds

(注1) 調査対象とした藻場は、現存するか、あるいは、1973年以後に消滅したもので、海域(潟湖を含む)内に存し、面積が1ha以上のアマモ場、ガラモ場、コンブ場等であって水深がおおむね20m以浅のものである。

(注2) 図上の「番号」は、「干潟・藻場・サンゴ礁分布調査報告書の藻場調査票」の調査区番号と対照できるようになっている。

昆虫類

Insects

番号	種名	選定基準
1	ムカシトンボ	指
2	ムカシヤンマ	指
3	ハッチョウトンボ	指
4	ガロアムシ目	指
5	タガメ	指
6	ハルゼミ	指
7	ギフチョウ	指
9	オオムラサキ	指
10	ゲンジボタル	指
11	メガネサナエ	B
12	オオサカサナエ	B
13	コサナエ	B
14	ヒラサナエ	B
15	オオギンヤンマ	B・E
16	キイロヤマトンボ	B
17	ハネヒロエゾトンボ	B・E
18	オオエゾトンボ	B
19	ベッコウトンボ	B
20	ヨツボシトンボ	B・D
21	タイリクアキアカネ	B
22	オナガアカネ	B
23	マダラナニワトンボ	B・D
24	ナニワトンボ	B
25	グンバイトンボ	B
26	ベニイトトンボ	B
27	クチキコオロギ	C
28	アオマツムシ	B
29	オオゴキブリ	B
30	オオギンカメムシ	B
31	ヨコヅナサシガメ	B
32	カワムラナヘブタムシ	A
33	アヤヘリハネナガウンカ	B
34	アカハネナガウンカ	B
35	ツマグロスケバ	B
36	カタヒロクサビウンカ	B
37	キボシマルウンカ	B
38	ギンイチモンジセセリ	B
39	ウスバシロチョウ	B
40	ミヤマカラスアゲハ	F

41	ヒサマツミドリシジミ	F
42	フジミドリシジミ	B
43	ウラジロミドリシジミ	B
44	キマダラルリツバメ	B
45	オオウラギンヒョウモン	B
46	クロヒカゲモドキ	B
47	エグリキリガ	B
48	カバフキシタバ	C
49	オオムラサキクチバ	B
50	トワダオオカ	B
51	キンイロヌマカ	C
52	クマヌカカ	C
53	カスミハネカ	B
54	ウスグロムシヒキ	B
55	キョウトハナアブ	A
56	ムツボシナガハナアブ	C
57	ダイセンナガゴミムシ	C
58	ウエノナガゴミムシ	C
59	ムカシゲンゴロウ	B
60	メクラゲンゴロウ	A
61	カンムリセスジゲンゴロウ	A
62	オオセンチコガネ(牛尾型)	A
63	クチキマグソコガネ	B
64	アオマダラタマムシ	B
65	ムネアカチビナカボソタマムシ	C
66	キンイロエグリタマムシ	B
67	ハマベヒメサビキコリ	B
68	フタモンウバタマコメツキ	C
69	ムネアカクロコメツキ	B
70	チャイロムナボソコメツキ	A
71	ウスカバイロコメツキ	B
72	ヒメボタル	C
73	ツヤハネベニボタル	B
74	ベニオビジョウカイモドキ	A・E
75	ハラグロオオテントウ	B
76	クロスジチャイロテントウ	B
77	ヤマトオサムシダマシ	B
78	シワナガキマワリ	B
79	ヘリハネムシ	C

80	オオオビハナノミ	B
81	ムナコブハナカミキリ	B
82	フタコブルリハナカミキリ	B・E
83	フタスジカタビロハナカマキリ	B
84	ビクニセハムシハナカミキリ	B
85	アカイロニセハムシハナカミキリ	B
86	ミヤマルリハナカミキリ	B
87	ヘリウスハナカミキリ	B
88	マルクビゲマダラカミキリ	B
89	トワダムモンメダカカミキリ	C
90	トラフホソハネカミキリ	B
91	ニッポンモモアトコハネカミキリ	C
92	アカアシオアオカミキリ	B
93	キュウシュウチビトラカミキリ	B
94	ヨツスジトラカミキリ	C
95	フタオビミドリトラカミキリ	C
96	トウキョウトラカミキリ	C
97	ハセガワトラカミキリ	B
98	オオシロカミキリ	B・D
99	チャバネホソリンゴカミキリ	B
100	キンイロネクタイハムシ	B
101	ヨツギボシハムシ	B
102	ヒゴノトゲトゲ	C
103	ミツギリゾウムシ	C
104	タカハシトゲゾウムシ	B
105	オオシロオビゾウムシ	B
106	ハナセヒラクチハバチ	B
107	ミスバチ	B
108	イシハラバチ	B
109	カゲロウギングチバチ	B
110	トモンハナバチ	B

(注1)「番号」は種コードを意味し、「動物分布(昆虫類)調査報告書の調査票」と対照できるようになっている。

(注2)調査対象とした昆虫類は、環境庁が選定した「指標昆虫類」10種及びつぎの選定基準により選定された「特定昆虫類」である。
なお「選定基準」欄には、その理由が記号で記載されている。

特定昆虫類選定基準

記号	理由
A	日本国内では、ここにしか産しないと思われる種
B	分布域が国内若干の地域に限定されている種
C	普通種であっても、北限・南限など分布限界になると 思われる産地に分布する種
D	当該地域において絶滅の危機に瀕している種
E	近年当該地域において絶滅したと考えられる種
F	業者あるいはマニアなどの乱獲により、当該地域での 個体数の著しい減少が心配される種
G	環境指標として適当であると考慮される種

2.1. 都市計画区域等の状況（京都府の都市計画、1993、京都府土木建築部都市計画課）

（平成5年3月31日現在）

都市計画区域名	市町村名	面積 (h.a)				都市計画区域指定年月日				当初	最終変更	当初	見直し
		行政区域	都市計画区域	市街化区域	市街化調整区域	都市計画区域	市街化区域	市街化調整区域	都市計画区域外				
京都	京都	61,021	48,050	15,021	33,029	12,971							
	向日市	767	767	521	246	0							(第1回) S55,03,28
	長岡京市	1,919	1,919	958	961	0							(第2回) S60,02,08
	大江山崎町	597	597	318	279	0							(第3回) H04,10,20
	久我山町(一部)	33	33	11	22	0							
	八幡市(一部)	31	31	13	18	0							
	小計	64,368	51,397	16,842	34,555	12,971							
	宇治	6,755	4,654	2,212	2,442	2,101							
宇治田原	宇治市	3,275	3,275	762	2,513	0							(第1回) S55,03,28
	城陽市	1,353	1,353	382	971	0							(第2回) S59,06,12
	久御山町	1,801	829	215	614	972							(第3回) H04,05,29
	井手町	13,184	10,111	3,571	6,540	3,073							
	小計	5,826	2,995	-	-	2,831							
	宇治田原町	2,407	2,407	1,011	1,396	0							
	八幡市	4,294	4,294	1,034	3,260	0							(第1回) S55,03,28
	田辺町	6,701	6,701	2,045	4,656	0							(第2回) S59,11,27
綴喜	小計	2,363	2,363	1,358	1,005	0							(第3回) H04,05,29
	木津町	2,565	2,565	703	1,862	0							
	精華町	2,453	1,523	139	1,384	930							
	山城町	3,697	2,824	183	2,641	873							
	加茂町	11,078	9,275	2,383	6,892	1,803							
	小計	22,487	13,010	1,023	11,987	9,477							
	亀岡市	10,278	6,245	348	5,897	4,033							
	園部町	4,972	3,170	127	3,043	1,802							
相楽	小計	37,737	22,425	1,498	20,927	15,312							
	丹波市	7,409	5,895	-	-	1,514							
	福知山市	26,424	13,256	1,900	11,356	13,168							
	綾部市	34,711	19,543	681	18,862	15,168							(第1回) H01,09,16
	舞鶴市	34,167	26,217	2,038	24,179	7,950							
	大江町	9,681	3,344	-	-	6,337							
	宮津市	16,927	16,927	-	-	0							
	岩滝町	1,199	1,199	-	-	0							
丹波	小計	18,126	18,126	-	-	0							
	峰山町	6,745	6,745	-	-	0							
	山崎町	7,501	1,312	-	-	6,189							
	野洲町	177,578	-	-	-	177,578							
	その他	461,236	197,342	30,958	127,967	263,894							
	京都府計												

2.2. 地域地区決定現況 (京都府の都市計画、1993、京都府土木建築部都市計画課)

(平成5年3月31日現在)

都市計画 区域名	市町村名	用途地域 面積		用途												特別 高度地区	特定 街区	防火 地区	準防 火地区	美観 地区	風致 地区	遊 憩 地 区	歴 史 的 風 土 景 観 地 区	特 別 保 存 地 区	生 産 森 林 地 区	保 存 地 区	緑 地 保 全 地 区				
		第1種		第2種		住居専用地域		住居地域		近隣商業 地域		商業地域		準工業地域														工業地域		工業特別地域	
		ha	%	ha	%	ha	%	ha	%	ha	%	ha	%	ha	%													ha	%	ha	%
		ha	%	ha	%	ha	%	ha	%	ha	%	ha	%	ha	%													ha	%	ha	%
京都	京都市	15,021.0	3,479.24.5	3,201.21.3	3,087.20.5	835.5.5	951.6.3	1,863.13.4	1,337.8.9	68.0.5	315.0	13,488.0	7.4.1	122.0	7,288.0	932	14,338.3	305				1,474.29	12	12							
	向日市	521.0	130.24.0	28.5.0	224.43.0	9.1.7	35.5.7	97.16.6			250.0				9.0		71.5														
	長岡京市	958.0	188.18.6	86.8.0	449.45.9	19.2.0	51.5.3	185.17.2			523.0				18.0		88.0														
	大山崎町	318.0	17.5.3	84.20.1	128.40.3		19.6.0	90.28.3			211.0				11.0		83.3														
宇治	久御山町	13.0		1	7.7		12.94.3																								
	八幡市	18,442.0	4,014.23.8	3,378.20.1	3,889.23.2	863.5.1	981.5.6	1,880.11.8	1,688.10.0	68.0.4	385.0	14,476.0	2.4.1	122.0	7,335.0	832	14,576.1	305				1,474.29	12	12							
	宇治市	2,412.0	634.28.7	145.6.6	1,017.48.0	48.2.2	11.0.5	221.10.0	136.6.1		2,045.0				11.0	1,431.0		970.5													
	城陽市	782.0	375.41.2	330.43.3		9.1.2	42.5.5		8.0.8		782.0				387.0																
宇治田原町	久御山町	383.0	14.3.7	23.6.0	88.23.0	3.0.8	73.18.1	20.5.2	161.42.1	234.5	201.0				187.0																
	井手町	215.0			148.68.8	11.6.1	58.24.0			215.0					11.0																
	小計	3,371.0	1,023.28.6	168.4.7	1,583.44.3	71.2.0	11.0.3	392.11.0	156.4.4	167.4.7	234.5	3,243.0			11.0	2,016.0		970.5													
	宇治田原町	1,011.0	209.20.7	335.33.1	284.28.1	28.2.8	4.0.4	68.6.7	13.1.3	92.8.1	173.0	954.0			4.0	46.0		145.0													
綴喜	八幡市	1,034.0	288.27.7	452.24.4	347.33.6	16.1.5	15.1.5	6.0.6	25.2.4	87.8.4	113.0	1,020.0			4.0	17.0															
	田辺町	2,045.0	495.24.2	587.28.7	611.28.9	42.2.1	19.0.8	74.3.6	38.1.8	179.8.8	292.0	1,974.0			8.0	43.0															
	小計	1,358.0	809.59.6	146.10.6	248.18.3	19.1.4	9.0.7	127.9.4			1,349.0				9.0	19.0															
	相楽	703.0	495.70.4	11.1.6	99.14.1	10.1.4	17.2.4	71.10.1			635.0				17.0	10.0															
商丹	山崎町	139.0			127.91.4	5.3.8		7.5.0			139.0				5.0																
	加茂町	183.0	68.47.0	16.6.7	47.25.7	6.3.3		28.15.3			183.0				6.0																
	小計	2,383.0	1,380.58.3	173.7.3	621.21.9	40.1.7	24.1.1	233.9.8			2,383.0				24.0	40.0															
	南丹	1,023.0	312.30.5	45.4.4	518.50.8	19.1.9	23.2.2	61.6.0	45.4.4						18.0	24.0															
丹波	園部町	348.0	95.27.3	43.12.4	172.48.4	12.3.4		10.2.9	11.4.6						12.0																
	八木市	127.0	62.48.8	5.3.9	44.34.6	5.3.9		11.8.7							5.0																
	小計	1,438.0	469.31.3	93.6.2	734.48.0	38.2.4	23.1.5	82.5.5	61.4.1						18.0	41.0															
	丹波	1,900.0	175.9.2	223.11.7	604.31.8	87.4.6	17.0.8	288.15.1	164.8.6	344.18.1					15.0	88.0															
丹波	福知山市	881.0	64.8.4	95.14.0	241.35.4	24.3.5	5.0.7	84.12.3	19.2.8	149.21.9																					
	綾部市	2,038.0	165.6.1	130.6.4	743.36.5	53.2.6	114.5.6	505.24.8	219.10.7	109.5.3					146																
	大井町																														
	宮津市																														
丹波	岩手町																														
	小計																														
	峰山町																														
	網野町																														
京都府計	その他	30,956.0	7,795.35.2	4,847.15.7	8,835.28.8	1,218.3.9	1,168.3.6	3,438.11.7	2,348.7.6	1,018.3.3	821.5	22,048.0	2.4.1	212.0	9,818.0	932	15,683.6	305				1,474.29	12	12							